

# 財政白書

平成26年度版

平成26年10月

成田市

## はじめに

我が国の経済は、国の経済政策により、景気は緩やかな回復基調にあるとされていますが、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により、一部に弱さが残るものの、次第にその影響が薄れ、各種政策の効果が発現する中で、緩やかに回復していくことが期待されています。しかしながら、駆け込み需要の反動の長期化や海外景気の下振れなどが、景気を下押しするリスクとなっていることから、引き続き状況を注視していく必要があります。

一方、本市では、平成 25 年度決算における財政力指数、経常収支比率などの各種財政指標において、引き続き財政運営の健全性が保たれており、今後の財政状況を考えると、歳入では、市町村合併に伴う特例による普通地方交付税が、平成 28 年度から段階的に縮減されますが、景気の動向に左右されず安定的な収入が見込める固定資産税が、新築家屋や企業の設備投資の増加等によって、今後も増収が期待できるなど、市税全体としても堅調に増加することが見込まれています。

しかしながら、歳出面では、高年齢職員の大量退職による人件費の減少傾向はあるものの、扶助費、公債費といった義務的経費や公共施設の維持・更新経費の増大が見込まれるほか、少子高齢化対策、空港と周辺地域の継続的な発展と騒音対策の充実、東京オリンピック・パラリンピックの開催も見据えたスポーツツーリズムの推進、国家戦略特区の推進による新たな都市構想の実現など、本市が取り組むべき課題が山積しており、事業の選択と集中により、限られた財源を効率的かつ効果的に配分することが求められています。

この「財政白書」では、平成 26 年度予算や平成 25 年度決算（見込み）を中心に、各種財政指標による分析や類似団体等との比較を行うなど、市財政の状況をできるだけわかりやすく解説し、財政情報を身近なものとしていただけるようにとりまとめました。

市民の皆様には、本市の財政について一層のご理解と、ご協力をいただけますようお願いいたします。

成田市長 小泉 一成

# 第1章 成田市の概況

## 第1節 成田市の概況

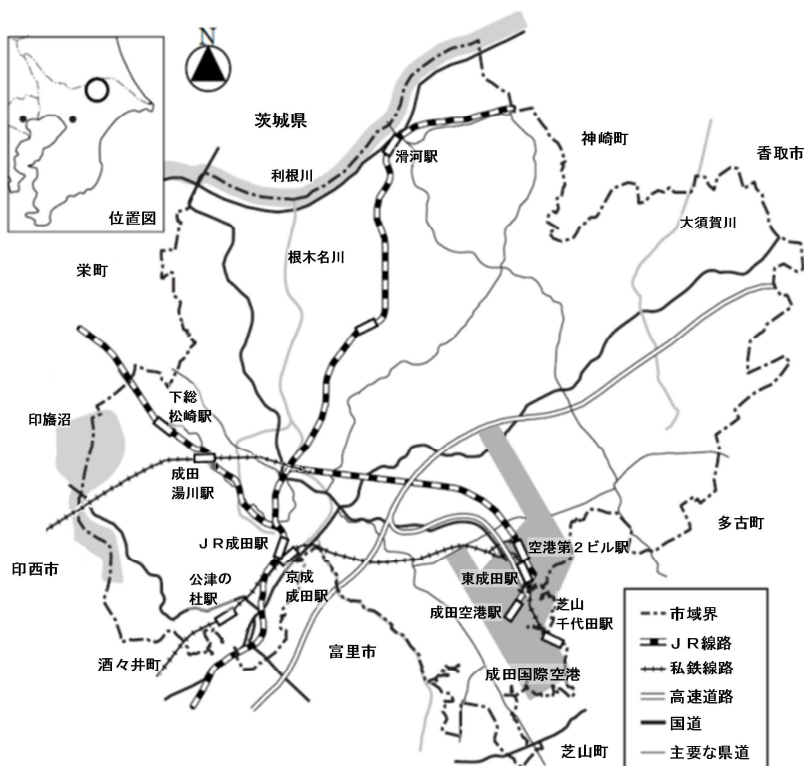
### 1) 土地

#### ・位置及び面積

本市は、千葉県北部中央の北総台地に位置し、北は神崎町、利根川を隔てて茨城県、西は栄町、印旛沼を隔てて印西市、南は酒々井町、富里市、芝山町、東は多古町、香取市に接しています。

市域面積は、213.84 km<sup>2</sup>で県土の約4.1%を占め、東西20.1 km、南北19.9 kmに及んでいます。

第1図 成田市の位置



#### ・土地利用

第1表 土地利用

(各年1月1日現在、単位:千m<sup>2</sup>)

地目	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
宅地	25,109	25,290	25,344	25,418	25,497 (11.9%)
田	43,941	43,941	43,971	43,970	43,980 (20.6%)
畑	34,688	34,660	34,592	34,557	34,504 (16.1%)
山林	41,260	41,221	41,203	41,206	41,188 (19.3%)
原野	5,433	5,420	5,428	5,428	5,422 (2.5%)
池沼	596	596	595	594	594 (0.3%)
牧場	459	459	479	479	479 (0.2%)
雑種地	44,374	45,459	45,434	45,394	44,503 (20.8%)
その他	17,980	16,794	16,794	16,794	17,673 (8.3%)
総数	213,840	213,840	213,840	213,840	213,840 (100.0%)

※ ( ) 内は構成比。

## 2) 沿革

市内猿山から発掘されたナウマン象の頭骨化石は、約 15 万年前の旧石器時代のものと推定され、学術的に貴重な発見となり、また、三里塚遺跡から発見された先土器時代の楕円形石器は約 3 万年以前に使われた石器で、成田の黎明期を飾る貴重な遺物として注目されています。

後続する縄文・弥生時代にも厳しい自然を克服した原始・古代の成田人の足跡を貝塚や遺跡の中に見出すことができ、根木名川周辺台地、北印旛沼東岸台地及び大須賀川周辺台地に群在する多くの古墳は、成田が古代印波国や下海上国の中心地であったことを物語っています。

律令体制時代の成田は、埴生郡、印旛郡、香取郡に属し、山方、荒海、真敷などに駅（うまや）が設けられるなど、古代交通の要地でもありました。

平安中期、常総の地を揺るがした平将門の乱を鎮めるため、寛朝大僧正によって成田山新勝寺が開山され、成田は法灯絶ゆることのない霊地となりました。鎌倉時代には、この辺りを治めていた大須賀氏に招かれた僧侶真源によって慈恩寺（現在の大慈恩寺）が再興されました。また、室町時代に再建された滑河観音にある仁王門は、国の重要文化財となっています。

中世の成田は、下総千葉氏及び系累の支配下に入り、徳川政権下では佐倉藩、高岡藩、田安家、幕府領、旗本領などが入り組んだ中にありました。

明治 4 年の廃藩置県後、数度にわたる所管の郡の変遷がありましたが、昭和になってから印旛郡、香取郡の所管に入り、昭和 29 年 3 月 31 日、町村合併促進法によって成田町、公津村、八生村、中郷村、久住村、豊住村、遠山村の 1 町 6 か村が合併して成田市が誕生、さらに平成 18 年 3 月 27 日には下総町、大栄町と合併しました。

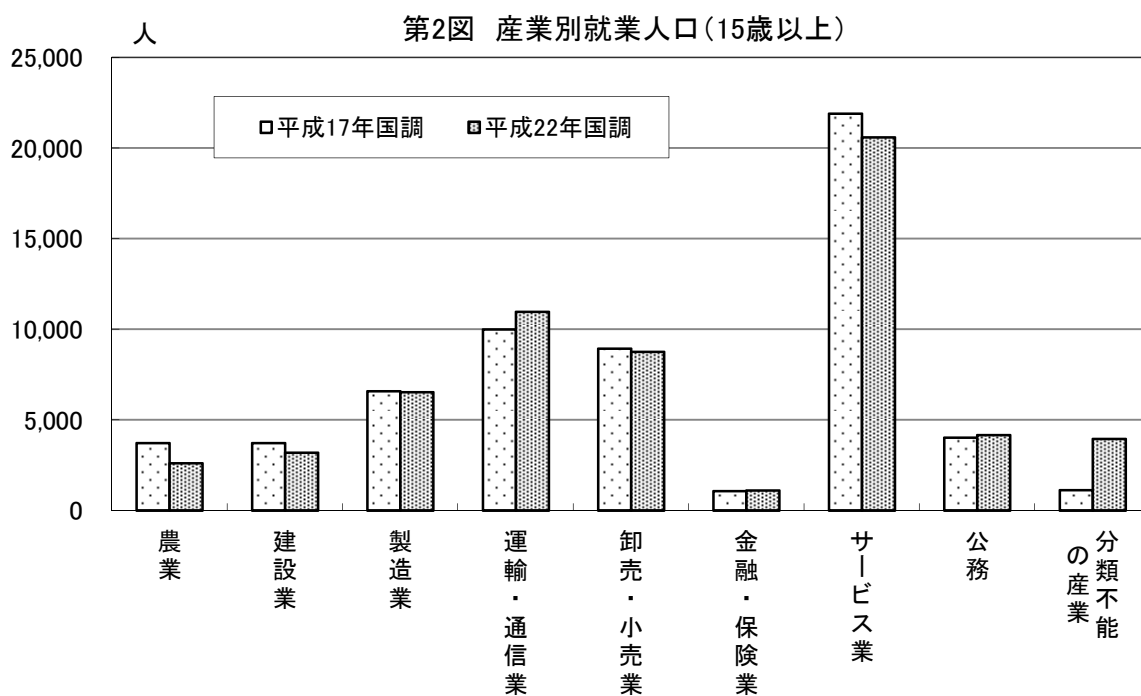
日本の空の表玄関、成田国際空港は、昭和 41 年 7 月 4 日の設置決定から幾多の紆余曲折を経て、昭和 53 年 5 月 20 日に開港し、更に、平成 14 年には暫定平行滑走路が供用開始し、現在では日本を含む 34 カ国 3 地域 82 社の航空機が乗り入れ、平成 25 年度は発着回数 226,182 回（1 日平均 620 回）、航空旅客数は年間 3,604 万人となっています。市制施行当時 45,075 人だった人口も今や 131,233 人（平成 26 年 3 月 31 日現在）となり、かつての田園観光都市から、信仰のまちとしての顔と、交通、経済、文化の様々な分野で国際交流の拠点として、国際交流都市の顔をもつまちへと大きく変貌しています。

### 3) 人口

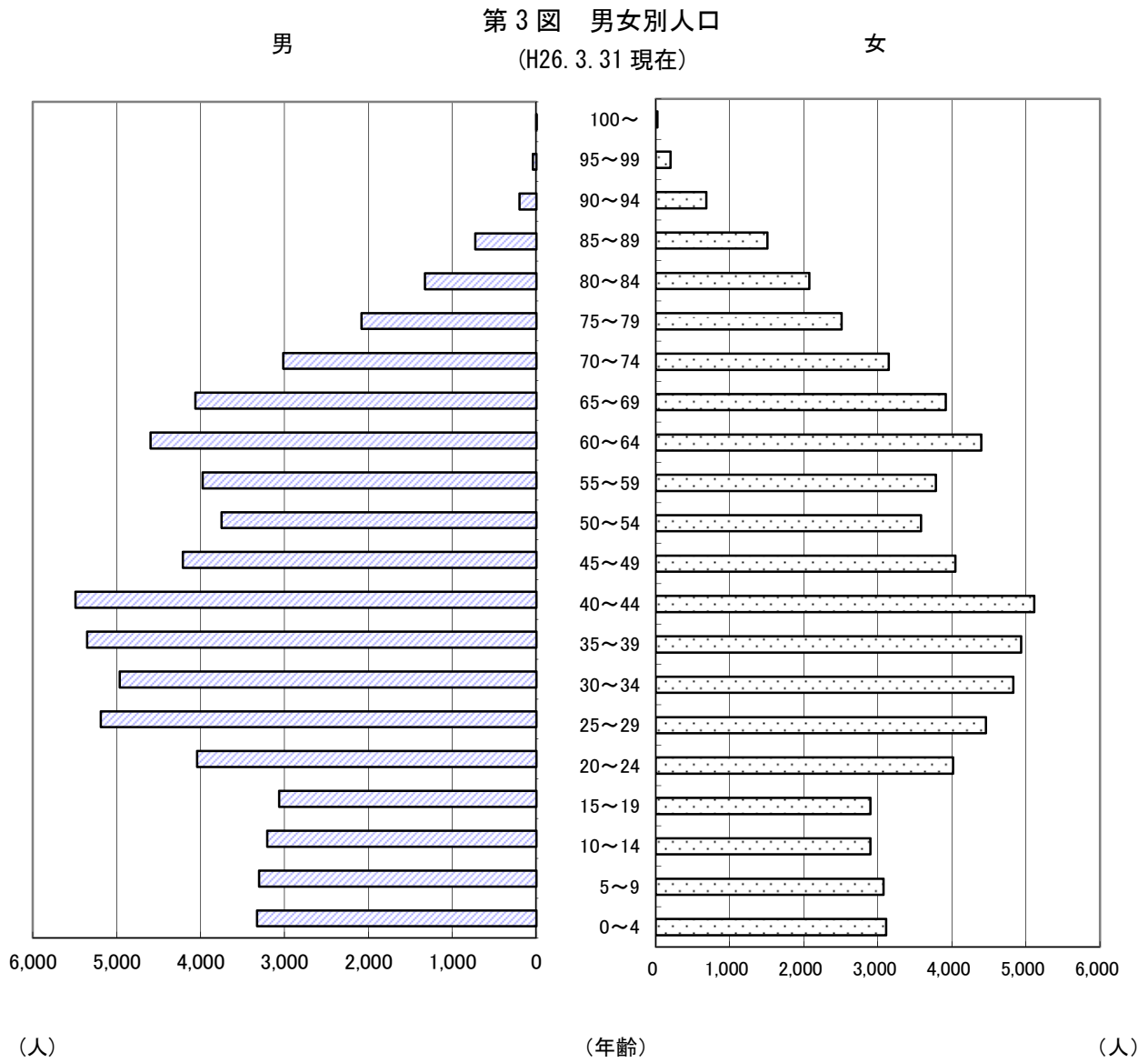
#### ・産業別人口

第2表 産業別人口（15歳以上）

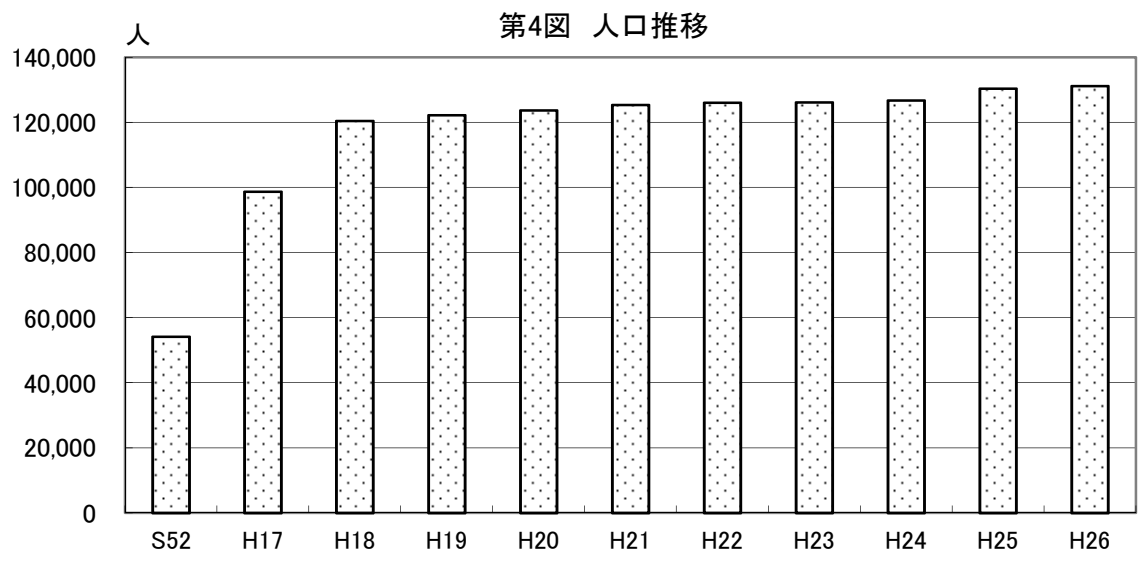
		平成17年国勢調査		平成22年国勢調査	
		総数(人)	構成比(%)	総数(人)	構成比(%)
第1次	農業	3,719	5.98	2,606	4.12
	林業	12	0.02	4	0.01
	漁業	11	0.02	7	0.01
	計	3,742	6.02	2,617	4.14
第2次	鉱業	30	0.05	26	0.04
	建設業	3,727	5.99	3,195	5.05
	製造業	6,595	10.60	6,544	10.34
	計	10,352	16.64	9,765	15.43
第3次	電気・ガス・熱供給・水道業	254	0.41	272	0.43
	運輸・通信業	10,007	16.08	10,971	17.34
	卸売・小売業・飲食業	8,942	14.37	8,771	13.87
	金融・保険業	1,081	1.74	1,113	1.76
	不動産業	780	1.25	1,021	1.61
	サービス業	21,906	35.20	20,608	32.58
	公務	4,029	6.48	4,173	6.60
	計	46,999	75.53	46,929	74.19
分類不能の産業		1,127	1.81	3,948	6.24
<b>総数</b>		<b>62,220</b>	<b>100.00</b>	<b>63,259</b>	<b>100.00</b>



・男女別人口

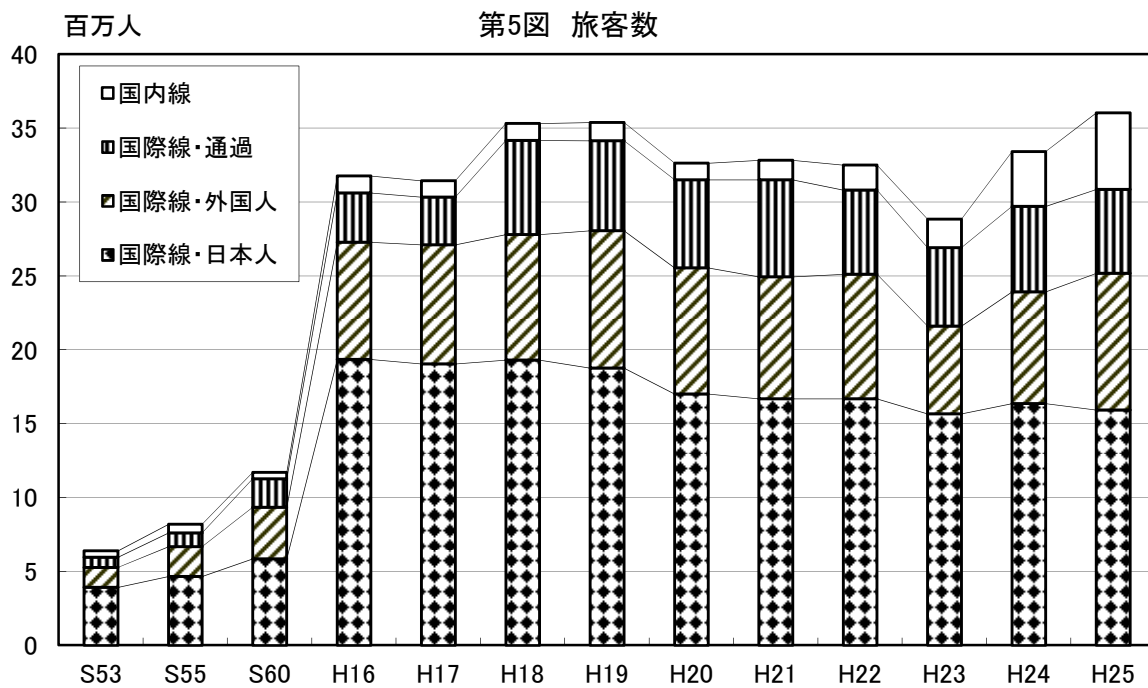


・人口推移

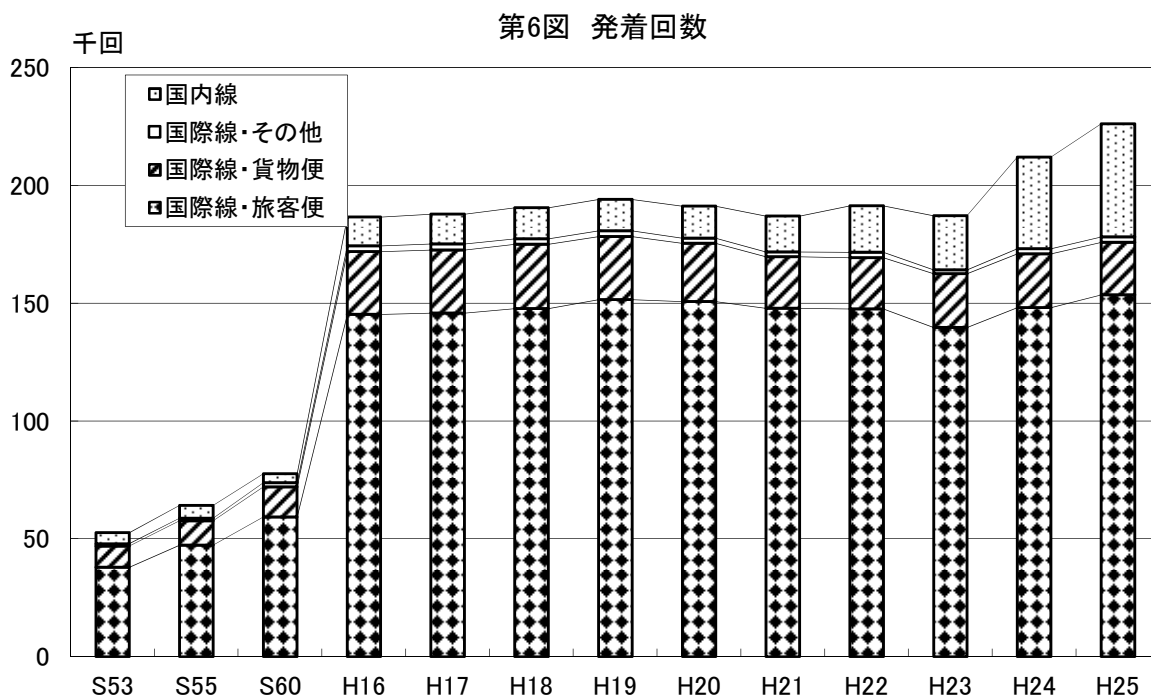


#### 4) 成田国際空港の利用状況

##### ・旅客数

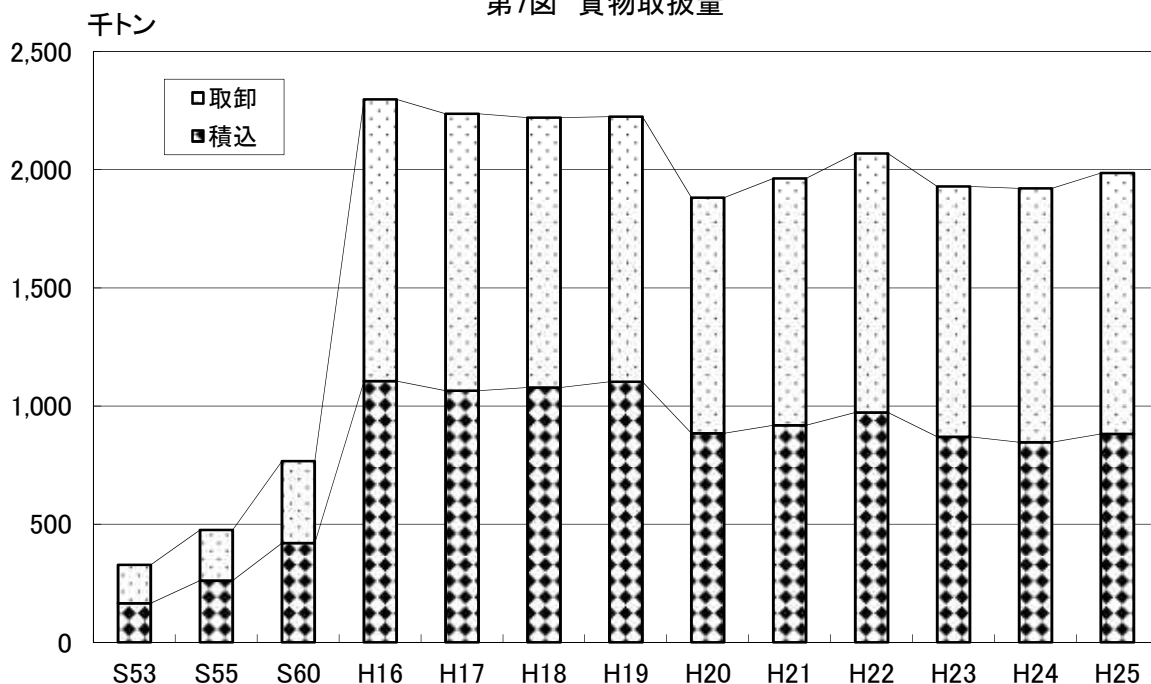


##### ・発着回数



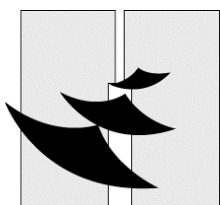
・ 貨物取扱量

第7図 貨物取扱量



市章

成田の頭文字「N」を人の姿に重ね合わせたイメージをデザインし、四肢の伸びは躍動感と疾走感、中央の赤は成田市民の熱い情熱、また、「NARITA」は日本と世界との交流拠点としての国際空港都市を表し、成田市の明るい未来への飛躍と更なる繁栄への願いが込められています。(平成18年4月29日制定)

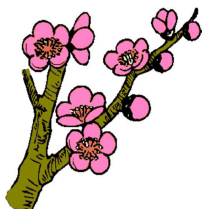


シンボルマーク

市制40周年を記念してシンボルマークを制定しました。

歴史的な門前町の門の字と成田の頭文字nを背景にして、本市の基本理念“自然、健康、愛情”あふれる未来の姿と成田空港へさまざまな国から飛来するイメージを三つの翼で表し、門前町の“静”と空港都市の“動”を象徴化したものです。

(平成6年4月1日制定)



市の木 梅

千葉県体の記念事業の一環として成田市の木に“梅”が選定されました。また、昭和48年より結婚を記念して市民課窓口で苗木をプレゼントしています。(昭和46年4月指定)



市の花 あじさい

市制40周年を記念して、誰もが親しみやすく栽培しやすい成田市のシンボルとなる花に“あじさい”が選定されました。(平成6年4月1日指定)



## 第2章 平成26年度当初予算

### 第1節 当初予算概要

#### 1) 予算編成方針

平成25年10月1日

#### 平成26年度当初予算編成方針

我が国の経済は、バブル崩壊以降「失われた20年」とも言われる長期的な停滞に陥っており、とりわけリーマンショック及びその後の欧州政府債務危機により生じた世界経済の信用収縮と成長鈍化は日本経済に深刻な影響をもたらし、円高とデフレの悪循環により産業の空洞化も進行するなど、非常に厳しい状況に直面している。また、国の財政状況は、人口の高齢化等の要因によって歳出の増加が続く中、累次にわたる経済対策、東日本大震災への対応等が重なって、近年著しく悪化が進んでおり、今年度末には長期債務残高がGDPの2倍に達する見込みであるなど危機的な状況となっている。

政府では、日本経済の発展を支えるとともに、少子高齢化が進展する中であっても人々が安心して暮らしていけるよう、持続可能な財政と社会保障を構築していくことが必要不可欠であると、政権が推進する経済政策である「三本の矢」により、早期にデフレを脱却するとともに強い経済を実現し、今後10年間の平均で名目GDP成長率3%程度、実質GDP成長率2%程度の成長を目指すとともに、国と地方を合わせた基礎的財政収支を平成32年度までに黒字化することを目指すとしている。

この経済対策により、個人消費は緩やかな増加が継続しており、企業収益が改善する中で設備投資の回復が見込まれており、それが雇用と所得の増加をもたらすという実体経済の好循環の動きが始まりつつある。さらに、2020年夏季オリンピックの東京開催が決定されたことから、国際貢献やスポーツ振興のみならず、経済波及効果によって景気回復が一層力強くなると期待されている。

一方、本市の財政状況は、健全化判断比率等の各種財政指標においても健全性を保っているところではあるが、歳入では、現下の社会経済情勢において、自主財源の根幹となる税収の大幅な増加を期待することは困難であり、また、国庫補助金等は選択と効率化の傾向にあることから、依存財源についても増収を見込むことが出来ない。特に、市町村合併に伴う特例による普通地方交付税は、平成28年度から段階的に縮減し平成32年度をもって消滅する。また、歳出面では、扶助費、公債費などの義務的経費の増大、さらにインフラ施設を含む公共施設の維持管理費の増嵩が懸念されるなかで、少子・高齢化対策、地域医療対策、地域経済対策等、本市が取り組むべき課題が山積しており、加えて、都市基盤整備等、多額の財政負担を伴う大規模事業を遂行していかなければならない状況にあることから、将来の財政運営は予断を許さない。

このような中で、本市の施策や事業を計画的に推進するための実施計画「総合5か年計画2011」については、計画期間の終盤にあり、その成果と課題を共有するとともに、実効性をより高めるため、最新の社会経済情勢や国及び県の動向、本市の財政状況に基づいて事業計画を見直すローリングを実施したところである。

ローリングにおいては、「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」というスローガンのもと、

「次世代に誇れる空の港まち」「生涯を完結できるまちづくり」の実現に向けて、地域医療対策の推進、子育て支援と教育環境の整備、安心・安全の強化、福祉施策の充実、地域経済の活性化、美しく快適なまちづくり等の重点施策を推進することとしたところである。しかしながら、歳入において税収増等を一部期待できるものの、全体としては、大規模事業の進捗等により多額の財源不足が生じており、財政調整基金からの繰り入れで対応せざるを得ない状況であることから、厳しい財政運営が見込まれる。

従って、平成 26 年度の予算編成においては、「総合 5 か年計画 2011」を着実に推進するため、不断の行政改革と行政コストの削減により、限られた財源を効率的かつ効果的に配分するとともに、複雑化・多様化する課題の解決に向け、現場主義を徹底し、市民の声に耳を傾け、市民ニーズの実情をきめ細かく把握し、的確に反映した予算を編成していくものとする。

## 1 総括事項

### (1) 年間予算の編成

予算編成に当たっては、国及び県、経済の動向に注意し、総計予算主義の原則に基づき、予定される歳入歳出を的確に把握し、関係部課と密接な連絡を図りながら年間予算の編成を行うこと。

なお、年度途中の補正は、制度の改正に伴うもの、災害関係費等緊急なもの又は当初予算編成の段階で特に協議したもののほかは行わない方針である。

### (2) 現行行財政制度による編成

国の予算、地方財政計画等が決定されていないため、原則として現行行財政制度に基づき編成する。

ただし、国の政策決定がなされたものや、国及び県の予算案等が判明したものについては、予算編成途中で修正する。特に、歳入における補助負担金の新設や削減、廃止等、また、歳出における扶助費等の新設については、国及び県の動向を注視し、情報収集を的確に行うこと。

なお、条例等制度の改正が前提となるものについては、予算編成と並行して庁議等に諮ること。

### (3) 「総合 5 か年計画 2011」との整合

ローリング後の「総合 5 か年計画 2011」との整合を図りながら、計画の実現に向けて積極的に取り組むこと。なお、特段の事情により計画外で実施すべき事業がある場合は、事前に企画政策課と協議すること。

### (4) 行政評価等の反映

実施計画のローリングと同時に実施した行政評価における事務事業評価及び市民満足度調査の結果と整合させること。

なお、議会及び監査委員からの意見については、これを十分に参酌し、早期に対応すべきものについて計上すること。

## (5) 行政改革大綱等の予算編成への活用

「成田市第5次行政改革大綱」に示された基本的な考え方にに基づき、成田市行政改革推進計画（平成25～27年度）に計上された取組事項の進捗状況を検証するとともに、新たな財源確保や経費の削減に積極的に取り組み、簡素で効率的、効果的な行政経営に努めること。

## (6) 経常的経費に係る予算編成権とインセンティブ措置

経常的経費に属する事業費については、各部局に配当するので、部局長のリーダーシップの下、PDCAサイクルを念頭に置き、各事務事業について、必要性、緊急性、費用対効果等あらゆる角度から再検証し、自ら工夫した予算編成を行うものとする。

また、各部局に配当した経常的経費に係る一般財源を削減し、その財源を新規事業又は拡充に充てる場合は、その事業に係る予算額を優先的に措置するものとする。

## (7) 特別会計の財政運営

特別会計においては、設置目的に従い、経営の合理化と経費の節減に努めるとともに、財源の確保を積極的に図り、一般会計からの繰入れについては、その繰出基準の範囲内とすることを基本とする財政運営の確保を図ること。

## 2 重点施策

実施計画のローリングを踏まえ、「住んで良し、働いて良し、訪れて良し」、「次世代に誇れる空の港まち」、「生涯を完結できるまちづくり」の実現に向けて、平成26年度の重点施策は次のとおりとする。

### (1) 身近なところで適切な医療を受けられる地域医療対策の推進

地域医療対策の重要な機能を担う医科系大学を誘致する。また、公的病院が実施する高度医療機器の導入支援、医師や看護師等の医療従事者の確保対策、救急医療体制の整備、住民健康診断の充実などにより、身近なところで適切な医療を受けられる地域医療対策を推進する。

### (2) 子育て支援の充実と教育環境整備の推進

保育所における一時保育の拡充、小規模保育や家庭的保育等の地域型保育の推進、児童ホームの整備及び保育時間の延長、市立幼稚園における幼児教育の充実、出産前後の家事支援の充実、特定不妊治療への支援などに取り組む。

さらに、学校トイレの洋式化、学校給食共同調理場整備による教育環境の充実など、子育て支援の充実と教育環境整備を推進する。

### (3) 安心・安全に暮らせるまちづくりの推進

防犯カメラの増設による子どもの安全確保の推進、大規模災害に備えた防災備蓄用品の充実、消防車両の更新による消防力の強化、公共施設等の耐震化、道路橋りょうや管渠等のインフラ施設の長寿命化などにより、安心安全に暮らせるまちづくりを推進する。

#### (4) 高齢者や障がい者にやさしい福祉施策の推進

高齢者の交通手段の確保とサービス拡充、高齢者の生きがいをづくり拠点施設の整備、障がい者の相談体制の充実、障害者の雇用促進を図るなどにより、高齢者や障がい者にやさしい福祉施策を推進する。

#### (5) 地域特性を活かした産業の振興と地域経済の活性化

成田ブランドに磨きをかける観光プロモーションや戦略的な情報発信の展開、観光拠点施設の整備、企業誘致の推進、中小企業への支援、農業基盤施設の整備促進、農業者支援の充実などにより、地域の特性を活かした地域経済の活性化に取り組む。

#### (6) 美しく快適で自然環境に優しいまちづくりの推進

国際空港都市の表玄関としての機能を強化する中心市街地整備と駅前再開発事業を推進する。また、景観計画による良好な都市景観の創造、区画整理事業の促進に取り組み、美しく快適なまちづくりを推進する。

さらに、公共施設の建設や大規模改修に合わせた太陽光発電設備の導入、住宅用の太陽光発電システムや省エネルギー設備の導入支援により、美しく快適で自然環境に優しいまちづくりを推進する。

#### (7) 市制施行 60 周年事業

本市のさらなる発展に向け、全ての市民が成田を愛し、誇りに思えるような機会とする各種記念事業を実施する。

### 3 個別的事項

予算見積書の作成にあたっては、総括的事項及び重点施策を踏まえたうえで、次に掲げる個別的事項に留意すること。

なお、経常的経費については、各部局を単位として配当額を提示するので、各部局の権限において、優先順位付けによる取捨選択及び創意工夫に努め、これを限度として編成するものとする。

#### (1) 歳入に関する事項

##### ① 市税

税制改正、経済動向を十分に勘案し、確実かつ最大限の年間収入見込額を計上すること。特に、税負担の公平を期するため、課税客体の完全捕捉と徴収率の一層の向上に努めること。

##### ② 地方交付税、地方譲与税、交付金

国の予算編成状況と地方財政計画の策定の方角を見極めて、的確な収入見込みを計上すること。

##### ③ 国庫支出金、県支出金

事務事業の緊急度とその効果を十分検討し、補助金ということから安易に受け入れることなく、主体的な判断に基づき取捨選択のうえ計上すること。

また、国及び県の動向を注視し、制度の創設、拡充、縮減、廃止等の状況把握に努め、関係機関と十分連絡をとり、的確な見積りを行うものとする。

④ 分担金、負担金、使用料、手数料、諸収入

総体的に住民サービスの向上を図るためには、受益者に応分の負担を求めることは、重要な要素であることを十分に認識し、住民負担の公平性の確保の観点と受益者負担の原則に立って、関係事務事業費の動向に即応して見直しを行い、公正な費用負担の確保に努め、見直し後の年間収入見込額を計上すること。

また、未収金については、積極的な徴収対策を講じ、その解消に努めること。

⑤ 市債

市債の活用にあたっては、適償性、将来の財政負担を十分検討のうえ、基礎的財政収支を意識して見積りを行うものとする。

⑥ その他

零細又は捕捉困難な収入についても、なおざりにすることなく収入の増加に努めること。また、市が所有している財産の有効活用、不要な物品の売却、あるいは広告収入等の新たな収入源の発掘に積極的に取り組み、財源の確保を図ること。

## (2) 歳出に関する事項

事務事業の徹底的な見直しを行い、“最少の経費で最大の行政効果”を挙げることを目標とすることはもとより、公と民の適切な役割分担が確保されているか、事業の果たす役割が終了していないかなど改めて検証を行い、執行経費の公平性、透明性に十分留意のうえ計上すること。

① 人件費

職員の適正な配置及び事務の簡素化、合理化を推進すること。

② 物件費等

旅費や物件費等の消費的経費については、徹底的に事務の洗い直しを行い、その削減に努めること。

旅費：全国的なものは、原則廃止。審議会等の視察は、必要最小限度を旨とし、隔年、日帰りを原則とする。

消耗品・備品等：物品の調達にあたっては、グリーン購入に努めること。また、課内で物品を使用しなくなった時は、部内あるいは庁内に情報を発信し、リユースに努めること。

食糧費：必要性を再検討のうえ、削減に努めること。

図書・追録・新聞等：パソコンの普及に伴いインターネットを最大限に活用することにより情報収集に努め、図書、追録、新聞等あらゆる面において再検討し、削減すること。

維持管理委託：施設・設備の長寿命化を図るため、日常の保守管理に必要な委託項目をチェックし、仕様を検討すること。

③ 維持補修費

保守点検委託等の報告に留意し、施設の現況を的確に把握し、優先度の高いものから年間の枠の中で計画的に執行できるように努めること。

④ 補助金、負担金

補助金及び負担金については、改めて公益性を考査し、既に目的を達したものの、効果が少ないもの等については、積極的に整理を行い、他のものについても時限等を設けるなど、自主性・自立性を尊重する観点から、全般にわたり抜本的な見直しを行うこと。

また、各種団体に対する運営費補助金については、収益を上げることが目的とするものではないことを改めて認識し、繰越金等、その団体の収支状況を的確に把握し、慣例的な要求をすることなく、適正な額の算定に努めること。

なお、負担金は、原則として各負担金審議会の承認を得たもののみ計上すること。

⑤ 補助事業

国、県、市間の経費負担区分の明確化を図り、超過負担の解消については、積極的に関係機関に働きかけ、財政秩序の確立に努めること。また、国及び県からの委託事業については、委託金の範囲内で賄うことを原則とする。

⑥ 投資的経費

「総合5か年計画2011」における計画事業を計上し、事業費の精査を図ること。

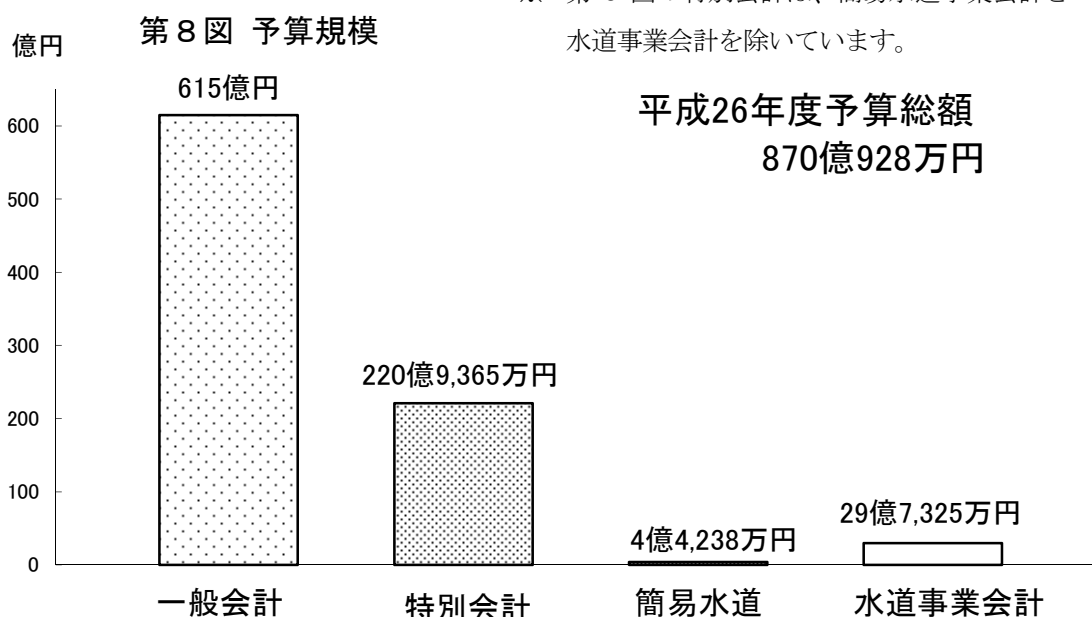
⑦ 消費税

消費税率の引き上げについては、経済状況等を総合的に勘案して判断を行うこととされていることから、これに伴う経費の増については、国の判断にあわせて対応すること。

## 2) 会計別予算規模

本市では、平成23年度を初年度とする総合計画の実現に向けて、主要事業を中心に各種事業の緊急性及び優先度を考慮し、一層の経費節減を図るとともに、財政の健全性の確保と効率的な財政運営に留意しながら、平成26年度当初予算を編成しました。また、本市の予算は、一般会計のほか2つの企業会計（簡易水道事業、水道事業）を含む8つの特別会計に区分され、これらを合わせてみることにより行政全体の概要がわかります。なお、平成26年度の一般会計と特別会計を合わせた当初予算の総額は、870億928万円で、その内訳は、一般会計が615億円、特別会計が8会計（9勘定）で255億928万円となります。この章では、平成18年度は4月補正後の現計予算を、平成19年度は6月補正後の現計予算を「当初予算」として記載しています。

※ 第8図の特別会計は、簡易水道事業会計と水道事業会計を除いています。



第3表 平成26年度当初予算総括表

(単位：千円)

		平成26年度	平成25年度	増減額	増減率(%)	
一般会計		61,500,000	56,000,000	5,500,000	9.8	
特別会計	国民健康保険	事業勘定	13,111,318	12,950,513	160,805	1.2
		施設勘定	165,542	201,188	▲ 35,646	▲ 17.7
	下水道事業	1,968,608	2,154,857	▲ 186,249	▲ 8.6	
	公設地方卸売市場	226,076	205,167	20,909	10.2	
	介護保険	5,610,902	5,340,749	270,153	5.1	
	農業集落排水事業	167,618	165,046	2,572	1.6	
	後期高齢者医療	843,590	795,496	48,094	6.0	
	簡易水道事業	442,380	409,870	32,510	7.9	
	水道事業	2,973,245	3,477,289	▲ 504,044	▲ 14.5	
合計	25,509,279	25,700,175	▲ 190,896	▲ 0.7		
総計	87,009,279	81,700,175	5,309,104	6.5		

### 3) 主要事業

平成 26 年度に行う主な事業の内容を総合計画の 6 つの施策の基本方向に基づき紹介します。

#### 1 『世界との交流拠点として市民が誇れる都市をつくる』

成田ブランドの推進については、空港と地域の魅力が一体化した成田ブランドを推進するため、首都圏住民、LCC利用者・訪日外国人等に対し、PRイベントやメディアを活用した情報発信を行い、さらなるブランド力、シティセールスの向上に努めます。

まちづくり政策の推進については、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、成田国際空港を中心とする充実した交通ネットワークと多くの客室数を有する宿泊環境を十分に活用した「スポーツツーリズム」を通じたまちづくりについて調査研究等を実施します。

また、JR成田駅東口の再開発事業を推進し、すべての人にやさしい駅前空間の創出と、国際空港都市成田の顔にふさわしい安全で快適な駅前整備を進めます。

● 成田ブランド推進戦略事業	2,604 万円
● まちづくり政策推進事業	1,500 万円
● コミュニティバス運行事業	1 億 2,555 万円
● 幹線道路整備事業	5 億 8,936 万円
● JR・京成成田駅中央口地区整備事業	41 億 4,304 万円
● 赤坂台方線整備事業	1 億 3,427 万円
● 表参道整備事業	1 億 9,976 万円
● ニュータウン中央線整備事業	5 億 3,154 万円
● 住区基幹公園整備事業	9,250 万円

#### 2 『市民がいきいき働く、活力ある産業を育てる』

観光立市の推進については、観光キャラクター「うなりくん」を活用し、積極的に各種イベントに参加するとともに、成田国際空港に就航する格安航空路線の就航地においてプロモーションを行い、観光客の誘致を促進します。

市内外から多くの来場者が訪れるさくらの山に観光情報コーナーや物産コーナーを備えた観光物産館を整備し、積極的に市内情報を発信することで、市内観光へと誘導する拠点施設とします。

商工業については、中小企業資金融資制度の拡充による資金調達の円滑化と、融資の負担軽減を図る利子補給を行い、市内中小企業の経営安定化を支援するとともに、市内に進出する企業に対し、各種奨励措置を講じることにより、工場等の新設を促進し、産業の振興及び



雇用の創出を図ります。

農業については、農地を集積し、規模拡大を促進していくとともに、新規就労者への支援、担い手の確保・育成や農道・農業用排水路などの計画的な整備など、農業経営基盤の強化に努めます。

● さくらの山観光物産館整備事業	2億5,501万円
● 観光に関する経費	6,383万円
● 緊急雇用創出事業	1,150万円
● 水田農業構造改革対策事業	1億1,722万円
● 強い農業づくり支援対策事業	3,882万円
● 農道整備事業	1億3,097万円
● 排水路整備事業	1億5,368万円
● 中小企業資金融資事業	12億9,309万円
● 企業誘致事業	1億4,272万円
● 観光PR事業	4,028万円

### 3 『市民一人ひとりの健康で生きがいを持った生活をささえる』

消費税率の引き上げ対策については、所得の低い方々への負担の影響を鑑み、暫定的・臨時的に給付金を支給します。また、子育て世帯についても条件を満たす世帯に対し、給付金を支給し、消費税率の引上げによる負担軽減を図ります。

保育園については、老朽化が著しい成田ニュータウン内の公立保育園の大規模改修工事を、今年度は新山保育園において実施します。また、満3歳未満児の保育需要に対応するため、平成27年度から始まる子ども・子育て支援新制度に先行し、新たに民間が行う小規模保育事業の設置に取り組み、待機児童の解消を目指します。

障がい者福祉については、障がいのある方が自立した日常生活を営むことができるよう、必要な障がい福祉サービスなどを身近な地域において計画的に提供するため、第4期成田市障がい福祉計画を策定します。

地域医療対策については、救急医療体制の整備や医療機器の整備に対し、経費の一部を補助します。また、市内における看護師などの確保と地域医療体制の充実を図ることを目的に昨年度から実施している看護師等修学資金貸付事業を引き続き実施し、地域医療環境の充実を図ります。

● 母子保健事業	1億7,772万円
● 臨時福祉給付金給付事業【新規】	3億4,567万円
● 子育て世帯臨時特例給付金給付事業【新規】	1億8,453万円

● 保育園整備事業【一部新規】	4億7,458万円
● 福祉手当・見舞金支給事業	3億8,055万円
● 障害者施設利用支援事業	9億5,728万円
● オンデマンド交通高齢者移送サービス事業	7,496万円
● 子ども医療費助成事業	5億2,646万円
● 児童ホーム管理運営事業	2億3,246万円
● 児童手当支給事業	22億8,362万円
● 生活保護扶助費	24億105万円
● 地域医療対策事業	3億6,718万円
● 予防接種事業	3億5,986万円

#### 4 『市民が地域文化を愛し、次代を担う心豊かな人材を育む』

学校教育については、個々の能力・適正に応じた教育を推進するために少人数学習推進教員を配置し、きめ細かな学習・生活指導を行うとともに、健康推進教員を配置し、心身両面から児童生徒を支援します。

学校施設整備については、大栄地区の児童数減少に伴い、学校適正配置方針に基づき、地区内の5校の小学校を統合し、大栄中学校の敷地内に統合小学校を建設するための基本設計・測量調査を行います。

医科系大学の誘致については、平成28年4月の開校に向け、設置が計画されている「国際医療福祉大学」に対し、校舎建設費の一部を補助します。

生涯スポーツの推進については、市民がより良い環境でスポーツに親しめるようスポーツ施設の大規模改修などを行うほか、各種スポーツ大会を誘致することにより、スポーツ人口の増加や競技力の向上に努めます。

● 医科系大学誘致事業	15億38万円
● 大栄地区統合小学校建設事業【新規】	7,500万円
● 学校給食施設整備事業	1億6,079万円
● 国際文化会館施設整備事業	3億9,590万円
● 個性を生かす教育推進事業	1億8,199万円
● 英語科研究開発事業	1億7,097万円
● 公民館大規模改修事業	3,712万円
● 図書整備事業	1億659万円
● 運動公園等整備事業	2,750万円
● 学校給食事業【一部新規】	11億1,604万円

## 5 『市民が安全、安心、快適に暮らせる生活環境をつくる』

防災対策については、災害用備蓄品の収納スペース不足への対応や物資提供の迅速性確保の観点から、コンテナ式倉庫を増設するとともに、コンテナ式倉庫未設置の避難所には順次簡易式倉庫を整備します。

環境政策については、地球温暖化防止活動の推進を図り、住宅用省エネルギー設備の普及を促進させるため、設置費の一部を補助します。

成田富里いずみ清掃工場の関連付帯施設の整備については、清掃工場から発生する余熱を有効利用した施設並びに多目的広場を整備します。

● 生活道路整備事業	8億5,079万円
● 防犯灯維持管理事業	1億3,316万円
● 航空機騒音地域補助事業	1億5,502万円
● 民家防音家屋等維持管理費補助事業	6億6,978万円
● 成田富里いずみ清掃工場維持管理事業	4億9,599万円
● ごみ収集事業	6億1,778万円
● 新清掃工場関連付帯施設整備事業	5億3,951万円
● いずみ清掃工場解体・ストックヤード整備事業	2億2,721万円
● 側溝・排水整備事業	1億5,350万円
● 消防車両・装備強化整備事業	9,851万円

## 6 『市民と行政が協働する効率的な自治体運営を行う』

納税者の利便性の向上と納付機会の拡充を図るため、クレジットカードによる納税を開始します。

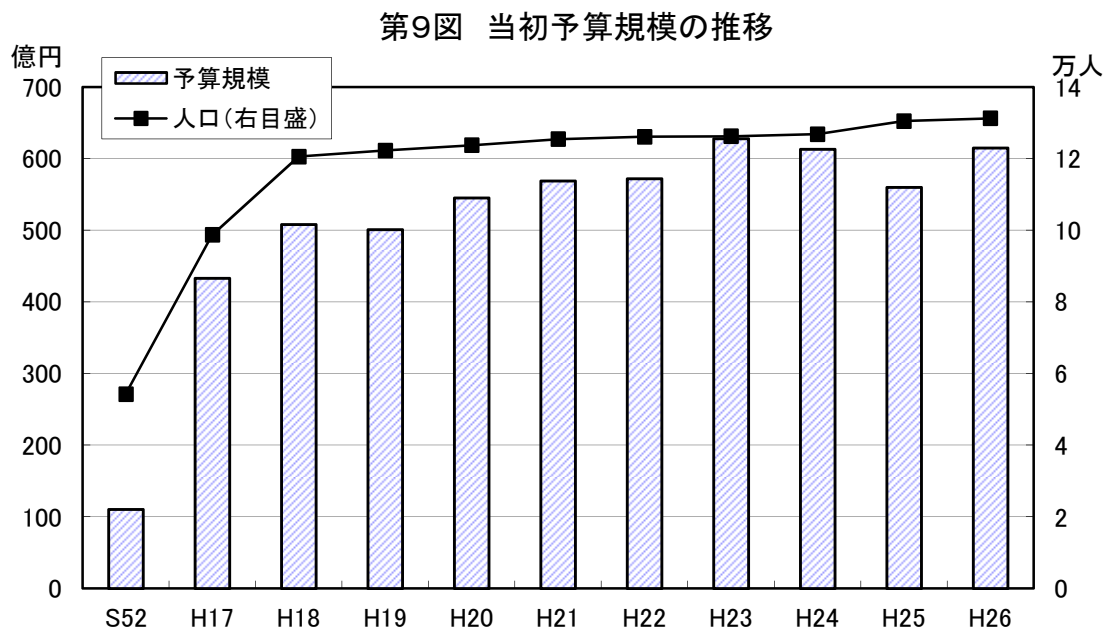
市制施行60周年記念事業として、「成田山車まつり」や将棋の「名人戦」、「地域伝統芸能全国大会」などを開催し、市民とともに60周年を祝います。

● 徴収事業【一部新規】	8,774万円
● 電子自治体推進事業	2億2,512万円
● 庁舎管理事業	2億1,827万円
● 戸籍住民基本台帳に関する経費	1億1,499万円
● 公津の杜コミュニティセンター管理運営事業	6,274万円
● 市制施行60周年記念事業	2,310万円

## 第2節 一般会計当初予算

### 1) 予算規模の推移

平成26年度一般会計予算の規模は615億円で、前年度に比べて55億円（9.8%）の増額となっています。第9図は、成田国際空港開港（昭和53年5月）前と最近10年間の予算規模の推移を示しています。



#### 【用語解説】 会計の名称

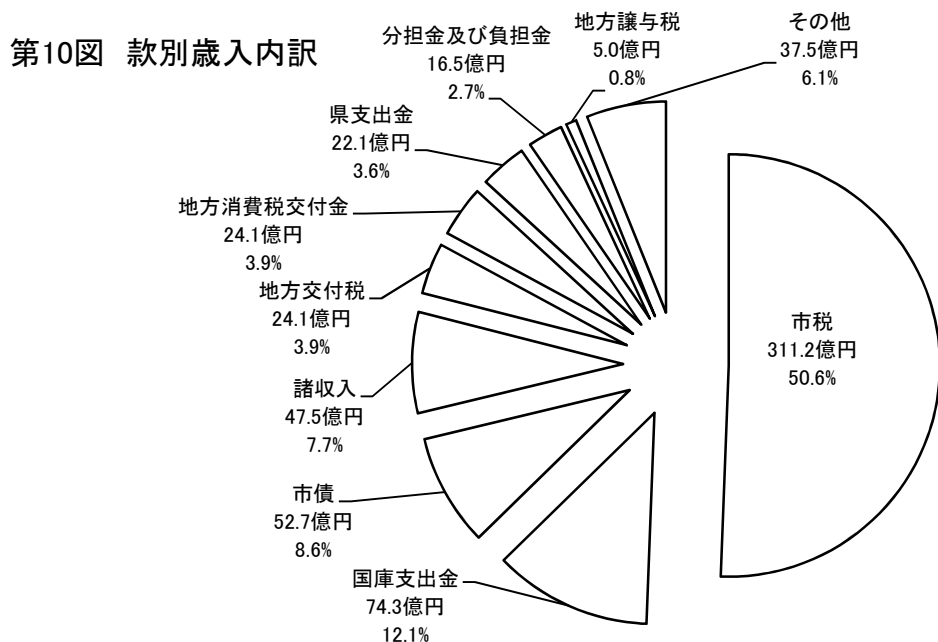
会計名	内容	
一般会計	市の基本的な行政を行うための会計です。	
特別会計	国民健康保険	事業勘定では、被保険者の疾病、負傷、出産、死亡などに際し、必要な保険給付を行い、施設勘定では、大栄診療所の運営を行います。
	下水道事業	都市排水施設の整備を行い、市民生活の環境整備を図ります。
	公設地方卸売市場	青果物、水産物などの生鮮食料品を安定した価格で提供し、市民生活の向上を図ります。
	介護保険	被保険者の要介護度などに応じて、必要な保険給付を行います。
	農業集落排水事業	農業集落におけるし尿、生活雑排水などを処理する施設の整備を行い、市民生活の環境整備を図ります。
	後期高齢者医療	75歳以上の後期高齢者医療に関する保険料の徴収等の事務を行います。
	簡易水道事業	給水人口が5,000人以下の地区について、安全な水を安定的に供給します。
	水道事業	給水人口が5,000人を超える地区について、安全な水を安定的に供給します。

※ 特別会計とは、特定事業を行う場合に一般会計と区分して経理する必要があるときに設ける会計です。

## 2) 歳入の概要

### ○款別歳入内訳

平成26年度一般会計予算の歳入総額615億円を、科目別（款別）に分類すると第10図のとおりとなります。第4表は前年度と比較したものです。



第4表 一般会計当初予算歳入款別表

	平成26年度		平成25年度		増減額 (千円)	増減率 (%)
	当初予算額 (千円)	構成比 (%)	当初予算額 (千円)	構成比 (%)		
市税	31,121,797	50.6	30,270,845	54.1	850,952	2.8
地方譲与税	502,000	0.8	512,000	0.9	▲ 10,000	▲ 2.0
利子割交付金	35,000	0.1	37,000	0.1	▲ 2,000	▲ 5.4
配当割交付金	49,000	0.1	28,000	0.0	21,000	75.0
株式等譲渡所得割交付金	12,000	0.0	12,000	0.0	0	0.0
地方消費税交付金	2,405,000	3.9	1,759,000	3.1	646,000	36.7
ゴルフ場利用税交付金	222,000	0.4	222,000	0.4	0	0.0
自動車取得税交付金	64,000	0.1	130,000	0.2	▲ 66,000	▲ 50.8
地方特例交付金	92,771	0.1	90,887	0.2	1,884	2.1
地方交付税	2,410,000	3.9	2,405,000	4.3	5,000	0.2
交通安全対策特別交付金	23,000	0.0	24,000	0.0	▲ 1,000	▲ 4.2
分担金及び負担金	1,651,287	2.7	1,760,647	3.1	▲ 109,360	▲ 6.2
使用料及び手数料	974,907	1.6	1,003,957	1.8	▲ 29,050	▲ 2.9
国庫支出金	7,427,933	12.1	6,751,894	12.1	676,039	10.0
県支出金	2,208,426	3.6	2,118,040	3.8	90,386	4.3
財産収入	42,857	0.1	53,082	0.1	▲ 10,225	▲ 19.3
寄附金	3,150	0.0	3,167	0.0	▲ 17	▲ 0.5
繰入金	1,429,671	2.3	1,671,474	3.0	▲ 241,803	▲ 14.5
繰越金	800,000	1.3	800,000	1.4	0	0.0
諸収入	4,753,801	7.7	2,606,007	4.7	2,147,794	82.4
市債	5,271,400	8.6	3,741,000	6.7	1,530,400	40.9
歳入合計	61,500,000	100.0	56,000,000	100.0	5,500,000	9.8

## 主な歳入の増減理由

市 税	市民税、固定資産税の増などにより、対前年度比 8 億 5 千万円、2.8%の増となっています。
地方譲与税	地方揮発油譲与税、自動車重量譲与税の減などにより、対前年度比 1 千万円、2.0%の減となっています。
分担金及び負担金	生活保護施設費負担金の減などにより、対前年度比 1 億 1 千万円、6.2%の減となっています。
国庫支出金	市街地再開発事業補助金、障がい者総合支援給付費等負担金の増により、対前年度比 6 億 8 千万円、10.0%の増となっています。
県支出金	安心子ども基金事業費補助金、感染症予防事業費等補助金の増などにより、対前年度比 9 千万円、4.3%の増となっています。
繰入金	財政調整基金繰入金、高齢者社会対策基金繰入金の減などにより、対前年度比 2 億 4 千万円、14.5%の減となっています。
市 債	大学整備事業債や市道整備事業債の増などにより、対前年度比 15 億 3 千万円、40.9%の増となっています。

## ○自主財源・依存財源

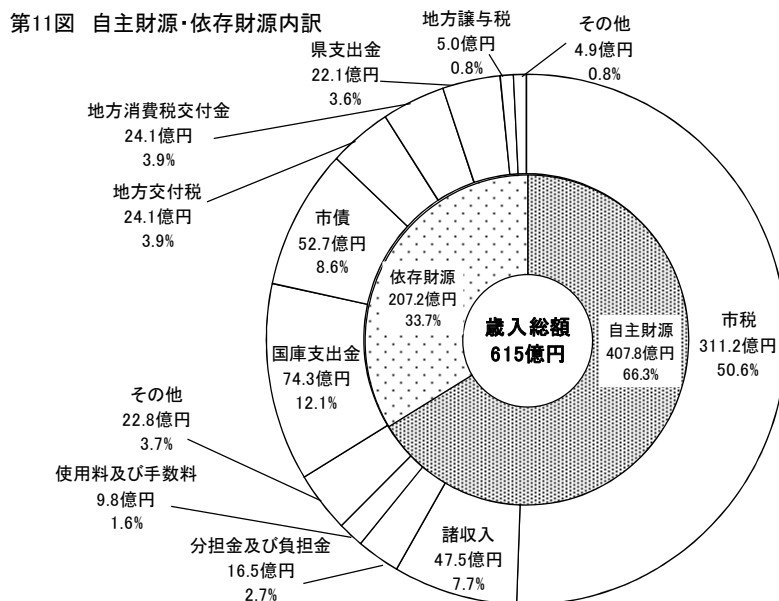
歳入は、大きく「自主財源」と「依存財源」に分けることができます。

自主財源は、市が自主的に収入することができる財源のことで、市税、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄附金、繰入金、諸収入等が該当し、平成26年度は407億8千万円です。前年度に比べ26億1千万円の増で、自主財源は歳入全体の66.3%を占めています。

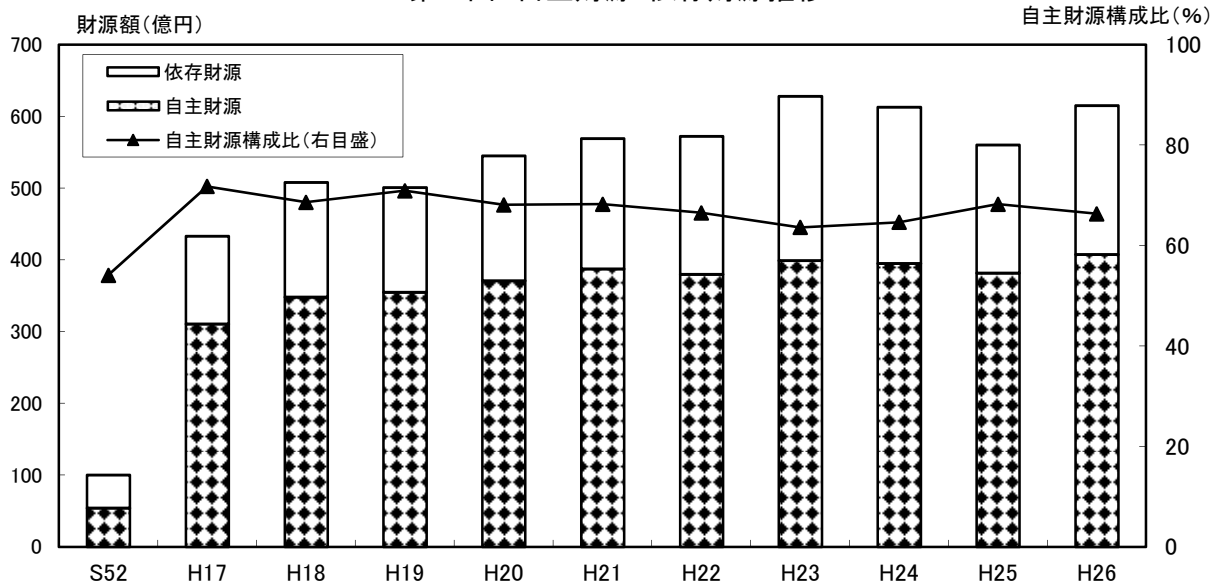
依存財源は、国や県から交付されたり、割り当てられたりする財源のことで、国庫・県支出金、市債、地方譲与税、地方交付税等が該当し、平成26年度は207億2千万円です。前年度に比べ28億9千万円の増で、主な要因は市債の増によるものです。依存財源は歳入全体の33.7%を占めています。

自主財源が多いほど、行政活動の自主性と安定性を確保できるとされています。

第11図は自主財源・依存財源の内訳、第12図はそれらの推移を示しています。



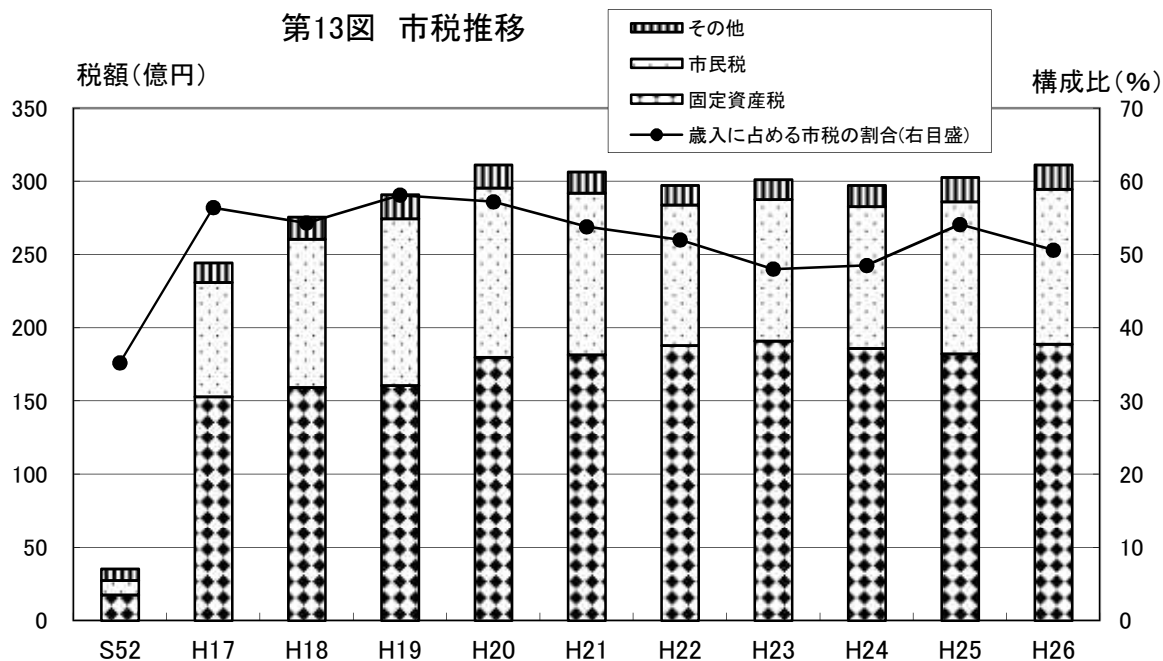
第12図 自主財源・依存財源推移



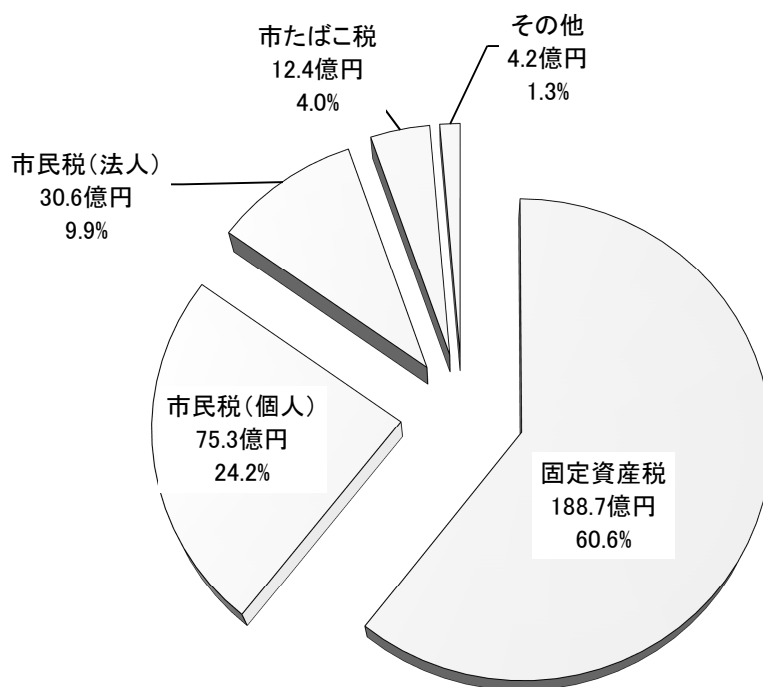
## ○市税

歳入の根幹をなす市税は、前年度と比較して全体で8億5千万円(2.8%)の増額となる見込みです。これは市民税、固定資産税において増収が見込まれることによるものです。

第13図、第5表(次頁)は市税の推移を、第14図は市税の内訳を示しています。



第14図 市税内訳





第5表 市税推移

(単位：千円)

区 分	昭和 52 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
市民税	972,151	7,222,064	7,801,315	10,132,876	11,396,886	11,570,946
個人	711,418	5,005,434	5,049,994	6,101,844	7,507,226	7,715,750
法人	260,733	2,216,630	2,751,321	4,031,032	3,889,660	3,855,196
固定資産税	1,763,043	15,796,655	15,296,954	15,923,738	16,061,701	17,986,574
固定資産税	1,710,227	15,729,602	15,224,954	15,851,640	15,991,054	17,921,134
国有資産等所在市交付金	52,816	67,053	72,000	72,098	70,647	65,440
軽自動車税	19,164	103,775	105,593	146,919	156,679	164,481
市たばこ税	162,909	1,053,282	997,194	1,146,836	1,269,941	1,200,245
鉱産税	306	480	480	480	480	480
特別土地保有税	380,117	23,641	23,075	25,507	19,344	9,338
入湯税			1	1	1	1
都市計画税	120,919	190,908	196,035	186,575	190,898	195,825
その他	111,643					
市税合計	3,530,252	24,390,805	24,420,647	27,562,932	29,095,930	31,127,890

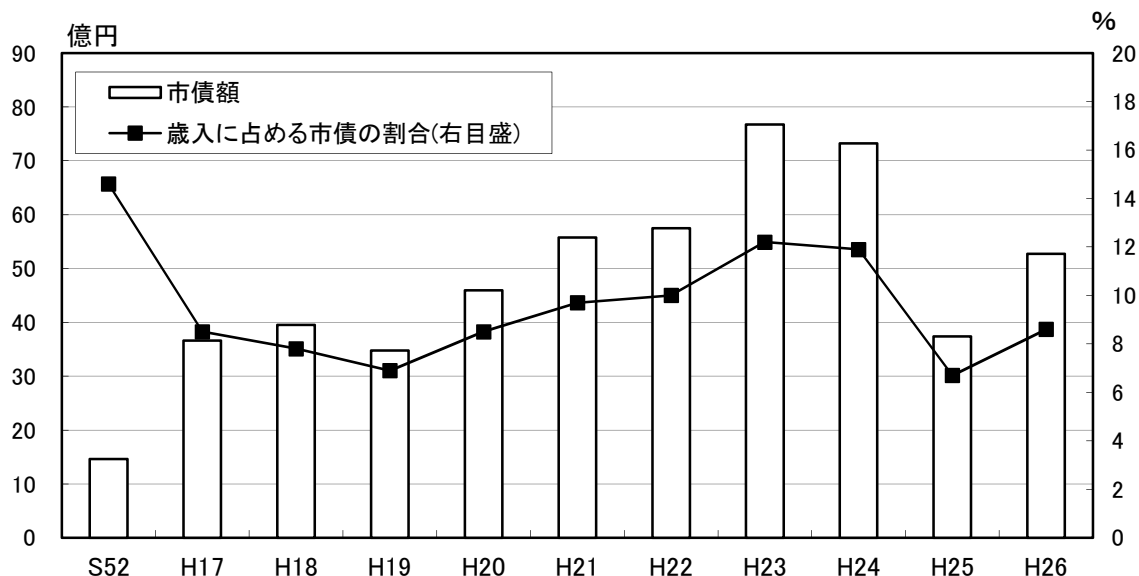
区 分	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
市民税	11,030,351	9,591,598	9,665,638	9,686,178	10,392,617	10,598,386
個人	7,715,657	7,606,354	7,249,208	7,449,595	7,448,006	7,534,734
法人	3,314,694	1,985,244	2,416,430	2,236,583	2,944,611	3,063,652
固定資産税	18,159,553	18,794,382	19,104,173	18,581,796	18,215,586	18,867,441
固定資産税	18,094,093	18,732,051	19,047,996	18,522,546	18,169,098	18,821,226
国有資産等所在市交付金	65,460	62,331	56,177	59,250	46,488	46,215
軽自動車税	174,202	180,433	189,745	190,023	200,905	214,755
市たばこ税	1,059,930	941,248	939,503	1,046,243	1,246,917	1,236,157
鉱産税	460	460	460	460	460	400
特別土地保有税	13,903	14,001	14,001	14,241	14,241	241
入湯税	1	1	1	1	4,500	6,120
都市計画税	199,167	202,405	205,439	194,437	195,619	198,297
その他						
市税合計	30,637,567	29,724,528	30,118,960	29,713,379	30,270,845	31,121,797

## ○市債

市債は、道路整備事業や橋りょう整備事業などの大規模な社会資本整備事業の財源となっています。前年度との比較では、小学校建設事業債などの減があるものの、大学整備事業債、学校給食共同調理場整備事業債などで増となったことにより、全体で15億3千万円（40.9%）の増額となります。

第15図は市債の年度別の推移を示しています。

第15図 市債の年度別推移



### 【用語解説】

#### (1) 市債

市債は、いわゆる市の借金ですが、資金調達のひとつの手段であるとともに、次のような積極的な機能を持っています。

##### ① 財政負担の平準化の機能

学校の建設など大規模な公共施設整備は、短期間に多額の経費を必要とします。これを市税などの一般財源のみで賄うことは、他の行政施策の推進に大きな支障を及ぼすこととなります。そこで、市債で資金を調達し、元利償還金という形で後年度に支出することで、財政負担を平準化することができます。

##### ② 世代間負担の公平化の機能

学校、道路、公園などのように、将来長期間にわたって効果が生じる施設整備にあたり、現在の住民が一切の費用を負担するのは不合理といえます。そこで、市債の元利償還金に市税を充てることで、将来の方々にも費用の一部を負担していただくこととなり、世代間の負担の公平化が図られます。

#### (2) その他の歳入

##### ① 国庫（県）支出金

国庫支出金には、生活保護費負担金などのように、国が地方公共団体の行う

特定の事務事業の円滑な運営を期するために義務的に支出すべき「国庫負担金」、消防設備整備費補助金などのように、国が奨励的あるいは財政援助的意図に基づいて交付する「国庫補助金」、また、国政選挙委託金などのように、本来国が行うべき事務を、国民の利便、経費の効率化等の観点から地方公共団体に委託した場合、その経費が交付される「国庫委託金」があります。県支出金は国庫支出金と同様に、「県負担金」、「県補助金」、「県委託金」があります。

## ② 地方譲与税

地方公共団体の財源とされているもののうち、課税の便宜上その他の事情から徴収事務を国が代行し、地方公共団体へ譲与する税を地方譲与税といいます。自動車重量譲与税、地方揮発油譲与税、航空機燃料譲与税などがあります。

自動車重量譲与税は、自動車検査証の交付を受ける自動車等にその重量に応じて課税される自動車重量税のうち、その3分の1が道路延長などをもとに市町村へ配分されています。

地方揮発油譲与税は、揮発油に対して課税される揮発油税及び地方揮発油税のうち地方揮発油税の全額が道路延長などをもとに都道府県及び市町村へ配分されるものです。

航空機燃料譲与税は、航空機に積み込まれた航空機燃料に課税されている税金のうち、その13分の2に相当する額が、航空機騒音の防止対策や空港及び周辺整備の充実を図るため、関係する都道府県及び市町村に配分されています。

## ③ 県税からの交付金

地方税法に基づき、県が徴収した税のうちの一部を県内の市町村に交付する制度で、ゴルフ場利用税交付金、自動車取得税交付金、地方消費税交付金、配当割交付金・株式等譲渡所得割交付金、利子割交付金があります。

### ア ゴルフ場利用税交付金

ゴルフ場利用税は、利用者に課される税金で、平成元年度からそれまでの娯楽施設利用税の課税対象施設をゴルフ場に限定したものです。税収のうち70%がゴルフ場の所在する市町村に交付されます。

### イ 自動車取得税交付金

自動車取得税は、昭和43年度に地方道、特に市町村道の整備を促進する財源として創設されたもので、自動車の取得に対して課される税金です。この税収から、県が取扱費として5%を控除した残りの95%のうち70%が市町村に交付されます。

### ウ 地方消費税交付金

地方消費税は、平成9年度に創設された県税で、当初税率1%でしたが、平成26年4月1日から税率1.7%に改正されました。税率引き上げ分の税収のうち50%については、全額人口により按分して市町村に交付され、引き上げ分を除いた税収のうち、50%が国勢調査の人口と事業所統計の従業者数により按分して市町村に交付されます。

## エ 配当割交付金・株式等譲渡所得割交付金

平成 15 年度税制改正により創設されたもので、県で徴収された県民税配当割又は県民税株式等譲渡所得割から、事務取扱費として 1%を控除した額の 5 分の 3 が市町村へ配分されます。

## オ 利子割交付金

昭和 63 年度から銀行預金などの利子等に係る住民税については、金融機関等を通じて県民税利子割として課税されています。この税込から、県が取扱費として 1%を控除した額の 5 分の 3 が市町村に配分されます。

### ④ 地方特例交付金（住宅借入金等特別税額控除分）

平成 20 年度からの個人住民税における住宅借入金等特別税額控除の実施に伴う地方公共団体の減収を補てんするため、各地方公共団体の住宅借入金等特別税額控除見込額を基礎として算定し、交付されます。

### ⑤ 地方交付税

地方交付税とは、全国の地方公共団体間の財政的な不均衡を調整して、どの地域に住む住民にも標準的な行政サービスや基本的な社会資本が提供できるように財源を保障する制度で、国税（所得税・法人税・酒税・消費税・たばこ税）の一定割合が各地方公共団体の財政力等に応じて再配分されています。

地方交付税は、財政力に応じて配分される普通交付税（配分総額の 94%）と、災害や地域固有の特殊な財政需要などにより配分される特別交付税（配分総額の 6%）があります。また、平成 23 年度から東日本大震災からの復旧・復興を目的に、震災復興特別交付税が交付されています。

本市は財政力が高いため普通交付税は交付されていませんでしたが、合併による特例措置により平成 18 年度から交付されています。全国的には、平成 20 年度以降、厳しい地方財政の現状を踏まえ、平成 25 年度まで増え続けていましたが、景気回復等により地方税収が増え始めたことから平成 26 年度は減額に転じています。

### ⑥ 交通安全対策特別交付金

交通安全対策特別交付金は、昭和 43 年に道路交通法の改正により創設された交通反則通告制度に基づき納付される反則金収入を原資として、地方公共団体が単独で行う信号機、道路標識、横断歩道橋、カーブミラーなどの道路交通安全施設整備の経費に充てるための財源として交付されています。

## ○歳入予算額の推移

第6表は、成田国際空港開港前と最近10年間の歳入予算額の推移を示しています。

第6表 歳入予算額推移

(単位：千円)

区 分		昭和52年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
自主財源	市税	3,530,252	24,420,647	27,562,932	29,095,930	31,127,890	
	その他	分担金及び負担金	423,846	1,052,203	1,431,708	1,460,795	1,835,722
		使用料及び手数料	225,900	960,487	886,176	883,846	886,073
		財産収入	115,198	123,993	46,673	72,065	86,225
		寄附金	7,743	3,320	3,160	3,075	3,075
		繰入金		1,502,777	1,663,706	614,710	55,576
		繰越金	1,000	500,000	500,000	558,875	500,000
		諸収入	1,117,478	2,501,014	2,708,176	2,806,425	2,616,697
	計	1,891,165	6,643,794	7,239,599	6,399,791	5,983,368	
合計	5,421,417	31,064,441	34,802,531	35,495,721	37,111,258		
依存財源	国県支出金	国庫支出金	2,457,290	3,734,817	4,469,372	4,273,759	6,133,093
		県支出金	230,666	922,142	1,187,769	1,501,910	1,700,456
		計	2,687,956	4,656,959	5,657,141	5,775,669	7,833,549
	市債	1,459,900	3,662,600	3,954,000	3,478,100	4,594,800	
	その他	地方譲与税	77,692	755,000	1,442,328	586,000	582,000
		利子割交付金		90,000	102,300	73,500	73,500
		配当割交付金		30,000	32,700	45,000	65,000
		株式等譲渡所得割交付金		8,000	8,400	70,000	70,000
		地方消費税交付金		1,500,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000
		ゴルフ場利用税交付金	43,826	201,000	250,000	240,000	240,000
		自動車取得税交付金	77,707	273,000	366,000	380,000	350,000
		地方特例交付金		599,000	560,000	331,010	204,893
		地方交付税	250,000	440,000	1,900,000	1,900,000	1,650,000
		交通安全対策特別交付金	6,500	20,000	24,600	25,000	25,000
	計	455,725	3,916,000	6,386,328	5,350,510	4,960,393	
	合計	4,603,581	12,235,559	15,997,469	14,604,279	17,388,742	
	総計	10,024,998	43,300,000	50,800,000	50,100,000	54,500,000	

(単位：千円)

平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	区 分	
30,637,567	29,724,528	30,118,960	29,713,379	30,270,845	31,121,797	市税	
2,262,060	2,069,786	2,543,887	2,224,339	1,760,647	1,651,287	分担金及び負担金	自主財源 その他
847,001	1,013,995	853,166	860,030	1,003,957	974,907	使用料及び手数料	
147,672	209,939	78,492	108,682	53,082	42,857	財産収入	
3,075	3,022	3,200	3,200	3,167	3,150	寄附金	
1,862,673	1,943,061	2,100,393	2,797,221	1,671,474	1,429,671	繰入金	
500,000	500,000	800,000	800,000	800,000	800,000	繰越金	
2,498,549	2,521,630	3,390,457	3,005,678	2,606,007	4,753,801	諸収入	
8,121,030	8,261,433	9,769,595	9,799,150	7,898,334	9,655,673	計	
38,758,597	37,985,961	39,888,555	39,512,529	38,169,179	40,777,470	合計	
5,972,042	6,619,221	8,129,130	7,159,449	6,751,894	7,427,933	国庫支出金	国 県 支 出 金
1,687,273	2,144,321	2,043,165	2,135,583	2,118,040	2,208,426	県支出金	
7,659,315	8,763,542	10,172,295	9,295,032	8,869,934	9,636,359	計	
5,575,200	5,744,700	7,672,000	7,319,900	3,741,000	5,271,400	市債	
580,000	552,000	507,000	545,000	512,000	502,000	地方譲与税	依存財源 その他
73,500	66,000	54,000	40,000	37,000	35,000	利子割交付金	
39,000	33,000	24,000	26,000	28,000	49,000	配当割交付金	
56,000	11,000	13,000	12,000	12,000	12,000	株式等譲渡所得割交付金	
1,700,000	1,590,000	1,567,000	1,691,000	1,759,000	2,405,000	地方消費税交付金	
250,000	240,000	235,000	226,000	222,000	222,000	ゴルフ場利用税交付金	
350,000	250,000	170,000	116,000	130,000	64,000	自動車取得税交付金	
313,388	122,797	272,150	92,539	90,887	92,771	地方特例交付金	
1,515,000	1,815,000	2,200,000	2,400,000	2,405,000	2,410,000	地方交付税	
30,000	26,000	25,000	24,000	24,000	23,000	交通安全対策特別交付金	
4,906,888	4,705,797	5,067,150	5,172,539	5,219,887	5,814,771	計	
18,141,403	19,214,039	22,911,445	21,787,471	17,830,821	20,722,530	合計	
56,900,000	57,200,000	62,800,000	61,300,000	56,000,000	61,500,000	総計	

### 3) 歳出の概要

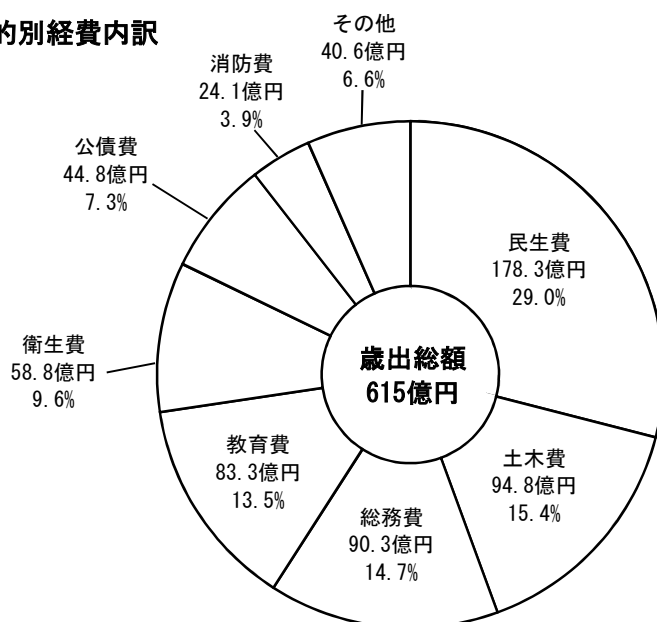
#### ○目的別・性質別経費内訳

##### ・目的別経費

歳出予算は、コミュニティの推進や空港周辺対策（総務費）、生活保護や障がい者支援（民生費）、道路や公園の整備（土木費）、学校の建設（教育費）など行政目的ごとに分類されています。この分類により、本市の予算がどの分野にどれだけ配分されているかがわかります。

本市では、民生費、土木費、総務費、教育費、衛生費が比較的大きな比重を占めています。第16図は目的別経費の内訳です。

第16図 目的別経費内訳



#### 【用語解説】 目的別分類の内訳

目的別分類	説明
民生費	生活保護、障がい者支援、各種福祉手当、児童ホーム・保育園の管理・運営などのための経費。
土木費	道路・橋・公園・河川の整備、都市計画・土地区画整理等のための経費。
総務費	市役所の管理・運営、徴税・戸籍関係事務、選挙、統計調査、国際交流・広報・市民相談、コミュニティの推進、交通防犯などのための経費。
教育費	小中学校・公民館・図書館・スポーツ施設・運動広場の建設・管理・運営、生涯学習の推進、文化財の保護などのための経費。
衛生費	健康診断、予防接種、環境対策、ごみ処理施設の管理などのための経費。
公債費	市債の元金と利息を返済するための経費。
消防費	防火・消火活動、救急・防災活動、消防車両の整備などのための経費。
その他	商工業の振興、観光活性化などのための商工費。農林水産業の振興、家畜の防疫、農道整備などのための農林水産業費。議会の活動のための議会費。雇用対策などのための労働費。災害にあった公共施設等を原形に戻すため災害復旧費。支出の性質により、他の支出科目に含まれない経費をまとめた諸支出金。予見できない歳出予算の不足を補うために計上される予備費。

第7表は、平成26年度一般会計当初予算額を目的別（款別）に区分し前年度と比較したものです。

第7表 一般会計当初予算歳出款別表

	平成26年度		平成25年度		増減額 (千円)	増減率 (%)
	当初予算額 (千円)	構成比 (%)	当初予算額 (千円)	構成比 (%)		
議会費	456,754	0.7	478,821	0.9	▲ 22,067	▲ 4.6
総務費	9,027,627	14.7	7,315,084	13.1	1,712,543	23.4
民生費	17,829,445	29.0	17,027,138	30.4	802,307	4.7
衛生費	5,877,805	9.6	5,125,125	9.1	752,680	14.7
労働費	58,742	0.1	54,591	0.1	4,151	7.6
農林水産業費	1,195,314	1.9	1,308,457	2.3	▲ 113,143	▲ 8.6
商工費	2,248,153	3.7	1,982,815	3.5	265,338	13.4
土木費	9,479,171	15.4	7,213,244	12.9	2,265,927	31.4
消防費	2,411,635	3.9	2,504,988	4.5	▲ 93,353	▲ 3.7
教育費	8,332,280	13.5	8,550,168	15.3	▲ 217,888	▲ 2.5
災害復旧費	2,000	0.0	2,000	0.0	0	0.0
公債費	4,481,071	7.3	4,337,566	7.7	143,505	3.3
諸支出金	3	0.0	3	0.0	0	0.0
予備費	100,000	0.2	100,000	0.2	0	0.0
歳出合計	61,500,000	100.0	56,000,000	100.0	5,500,000	9.8

〔各費目の主な増減〕

**総務費**

医科系大学誘致事業、崖地整備費補助事業の増などにより対前年度比17億1千万円、23.4%の増となっています。

**民生費**

臨時福祉給付金給付事業、子育て世帯臨時特例給付金給付事業の増などにより対前年度比8億円、4.7%の増となっています。

**衛生費**

新清掃工場関連付帯施設整備事業、いずみ清掃工場解体・ストックヤード整備事業の増などにより対前年度比7億5千万円、14.7%の増となっています。

**土木費**

JR・京成成田駅中央口地区整備事業、幹線道路整備事業の増などにより対前年度比22億7千万円、31.4%の増となっています。

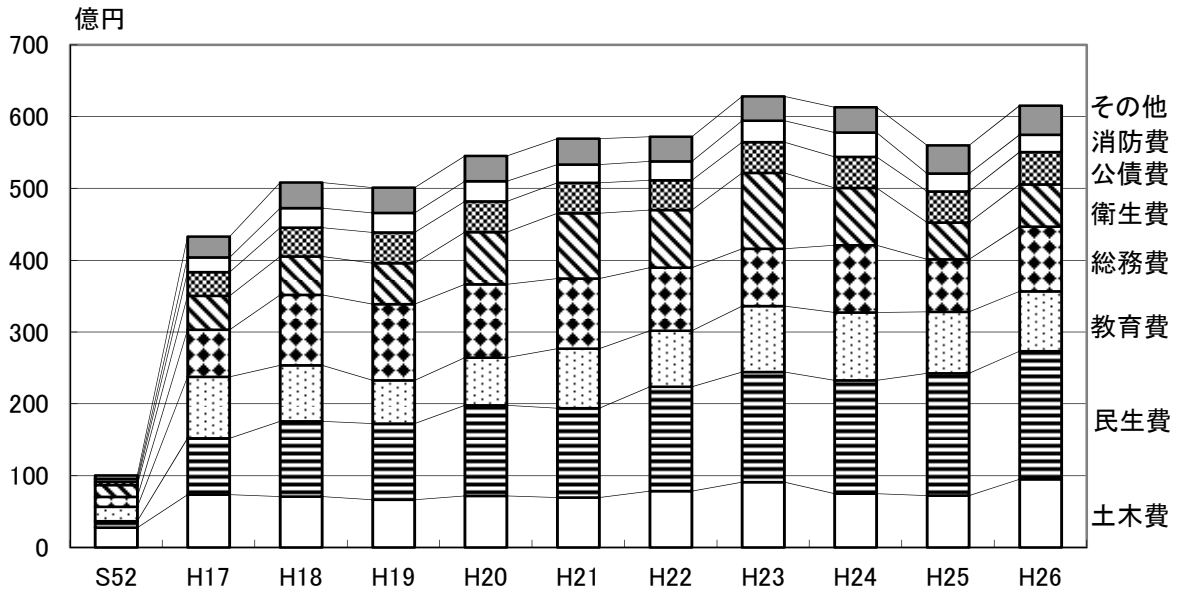
**教育費**

下総小学校建設事業、スポーツ広場等整備事業の減などにより対前年度比2億2千万円、2.5%の減となっています。



第17図は目的別経費の推移を示しています。

第17図 目的別経費推移

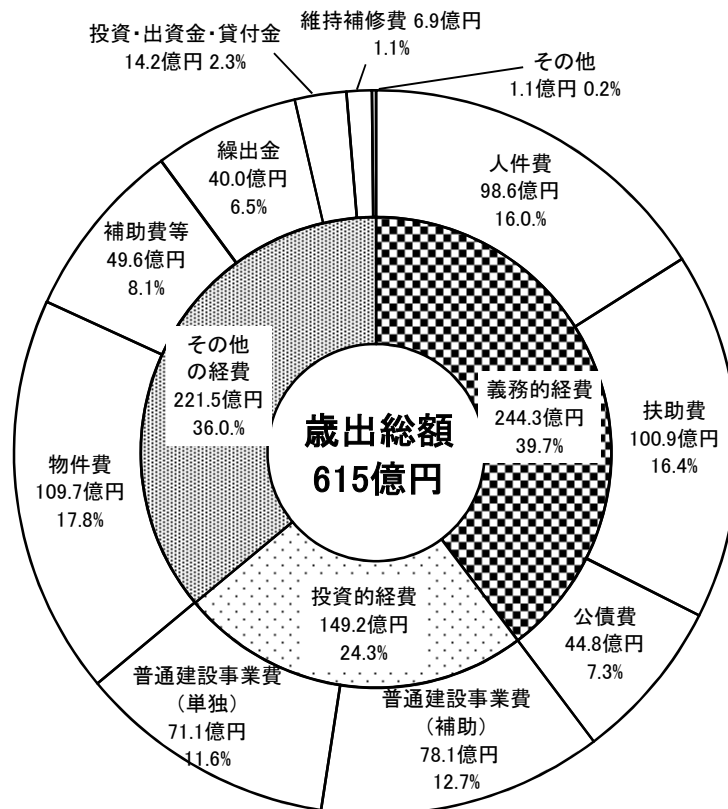


・ 性質別経費

歳出予算は、行政の目的別だけでなく、職員給与や議員報酬などの人件費、生活保護や児童手当などの扶助費など、性質別に分類することもできます。また、この性質別の分類では、支出が義務づけられている義務的経費（人件費、扶助費、公債費）、道路や公園整備などの投資的経費（普通建設事業費など）、その他の経費（物件費、補助費等、繰出金など）に区分することができます。この分類により財政構造がわかります。

第18図は性質別経費の内訳です。

第18図



区分	説明
義務的経費	支出が義務づけられているため任意に節減できない経費で、人件費、扶助費、公債費が該当します。
投資的経費	道路、橋りょう、公園の整備、学校建設等の支出の効果が資本形成に向けられる経費で、普通建設事業費、災害復旧事業費、失業対策事業費が該当します。
その他の経費	義務的経費及び投資的経費以外の経費で、物件費、維持補修費、補助費等、繰出金、積立金、投資及び出資金、貸付金等が該当します。

第8表は性質別経費を前年度と比較したものです。

第8表 性質別経費前年度比較表

区分	平成26年度		平成25年度		増減額 (千円)	増減率 (%)	
	当初予算額 (千円)	構成比 (%)	当初予算額 (千円)	構成比 (%)			
義務的経費	人件費	9,862,871	16.0	10,047,582	17.9	▲ 184,711	▲ 1.8
	扶助費	10,088,629	16.4	9,840,735	17.6	247,894	2.5
	公債費	4,481,071	7.3	4,337,566	7.7	143,505	3.3
	小計	24,432,571	39.7	24,225,883	43.2	206,688	0.9
投資的経費	14,914,639	24.3	10,918,417	19.5	3,996,222	36.6	
その他の経費	物件費	10,974,556	17.8	10,678,948	19.1	295,608	2.8
	維持補修費	688,622	1.1	674,135	1.2	14,487	2.1
	補助費等	4,962,296	8.1	4,362,635	7.8	599,661	13.7
	繰出金	4,000,789	6.5	3,845,264	6.9	155,525	4.0
	投資・出資・貸付金	1,418,459	2.3	1,154,820	2.0	263,639	22.8
	その他	108,068	0.2	139,898	0.3	▲ 31,830	▲22.8
小計	22,152,790	36.0	20,855,700	37.3	1,297,090	6.2	
合計	61,500,000	100.0	56,000,000	100.0	5,500,000	9.8	

**義務的経費** 扶助費が増加しているのは、施設通所等給付費、子ども医療費の増などによるものです。

**投資的経費** 国際医療福祉大学建設費補助金、いずみ清掃工場解体撤去工事の増などによるものです。

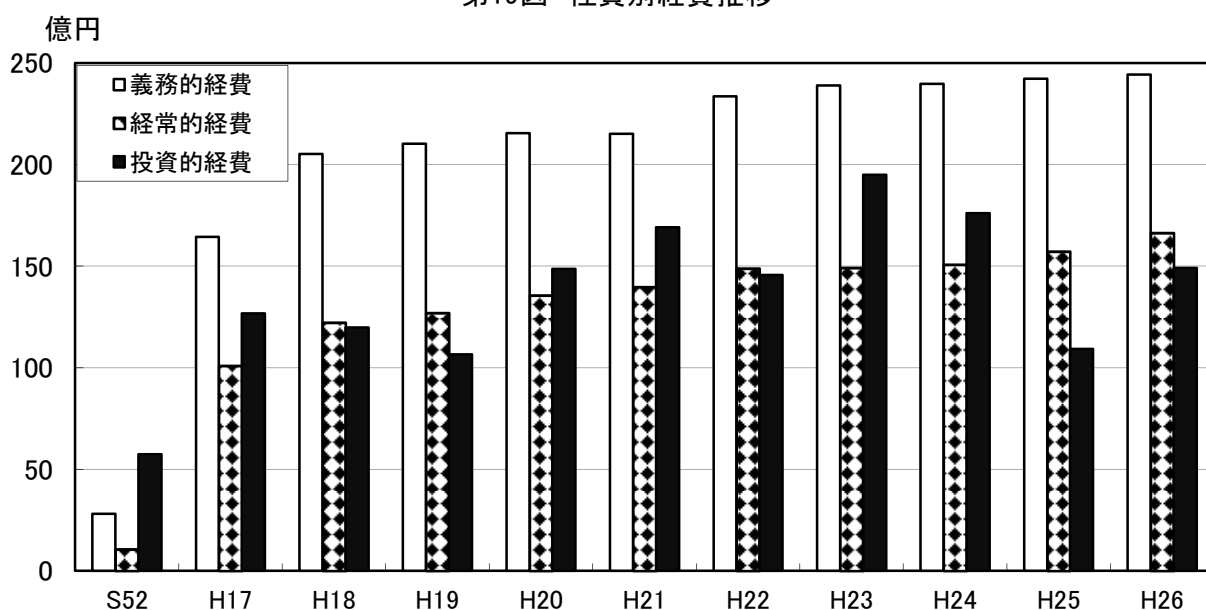
**その他の経費** 臨時福祉給付金、子育て世帯臨時特例給付金の増などによるものです。

【用語解説】 性質別分類の内訳

性質別分類	説明
人件費	職員の給与や共済費、議員の報酬や手当、各種委員会委員などの非常勤特別職の職員の報酬などの経費。
扶助費	社会保障制度の一環として、法令等に基づき支出される生活保護費や児童手当などの経費。
公債費	市債の元金や利息を返済する経費。
普通建設事業費	道路、橋、学校、公園などの整備やこれらの施設用地の取得など、資本形成の経費。
物件費	旅費、消耗品や備品の購入費、施設の清掃等の管理・運営委託料、土地や電算機器の使用などの経費。
繰出金	一般会計から国民健康保険や下水道事業などの特別会計へ繰出す経費。
補助費等	他団体への運営費補助金や負担金、自動車保険などの保険料、講習会などの講師謝礼などの経費。
その他	積立金など。

第19図は性質別経費の推移を示しています。

第19図 性質別経費推移



## ○歳出予算額の推移

第9表 歳出予算額推移 成田国際空港開港前と最近10年間の当初予算額(歳出)の推移です。


区 分		昭和52年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
歳出 (目的別)	議会費	107,276	407,673	572,385	491,164	411,460	
	総務費	1,371,492	6,552,138	9,794,607	10,617,035	10,220,434	
	民生費	907,620	7,841,557	10,485,242	10,616,037	12,575,016	
	衛生費	1,656,395	4,724,507	5,358,409	5,712,077	7,278,265	
	労働費	0	38,811	33,682	31,671	39,362	
	農林水産業費	282,439	980,776	1,425,307	1,432,555	1,472,868	
	商工費	73,620	1,390,770	1,429,141	1,444,460	1,498,132	
	土木費	2,750,674	7,355,787	7,081,705	6,637,909	7,191,678	
	消防費	411,485	2,040,169	2,689,503	2,760,754	2,799,979	
	教育費	1,987,699	8,572,722	7,800,389	6,010,882	6,656,794	
	災害復旧費	1,370	2,000	2,000	2,000	2,000	
	公債費	453,928	3,293,058	4,027,599	4,242,953	4,253,177	
	諸支出金	1,000	32	31	503	835	
	予備費	20,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
目的別合計		10,024,998	43,300,000	50,800,000	50,100,000	54,500,000	
歳出 (性質別)	義務的経費	人件費	1,840,926	9,073,630	11,237,257	11,259,375	10,908,631
		扶助費	519,042	4,064,361	5,249,872	5,528,012	6,383,867
		公債費	453,895	3,293,058	4,027,599	4,242,953	4,253,177
		小計	2,813,863	16,431,049	20,514,728	21,030,340	21,545,675
	投資的経費	普通建設事業費(補助)	3,888,060	2,166,464	3,968,023	3,707,792	7,570,987
		普通建設事業費(単独)	1,859,338	10,507,360	8,015,920	6,945,953	7,287,443
		災害復旧事業費	1,370	2,000	2,000	2,000	2,000
		小計	5,748,768	12,675,824	11,985,943	10,655,745	14,860,430
	その他の経費	物件費	789,589	7,545,568	8,735,181	9,311,880	9,516,991
		維持補修費	94,161	594,301	747,929	740,392	715,555
		補助費等	184,476	1,945,384	2,737,995	2,643,698	3,326,571
		積立金	1,868	4,780	505,424	21,106	40,449
		投資及び出資金	1,420	418,331	858,732	1,116,977	171,564
		貸付金	14,600	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
		繰出金	356,253	2,584,763	3,614,068	3,479,862	3,222,765
		予備費	20,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	小計	1,462,367	14,193,127	18,299,329	18,413,915	18,093,895	
性質別合計		10,024,998	43,300,000	50,800,000	50,100,000	54,500,000	

(単位：千円)

平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	区 分	
417,573	407,502	422,701	488,084	478,821	456,754	議会費	歳出 (目的別)
9,736,267	8,786,290	7,970,924	9,365,863	7,315,084	9,027,627	総務費	
12,437,531	14,549,278	15,328,558	15,763,002	17,027,138	17,829,445	民生費	
9,101,095	8,031,657	10,595,412	7,993,767	5,125,125	5,877,805	衛生費	
38,292	92,679	87,705	49,746	54,591	58,742	労働費	
1,436,425	1,282,600	1,241,882	1,215,441	1,308,457	1,195,314	農林水産業費	
1,583,752	1,531,659	1,544,598	1,686,226	1,982,815	2,248,153	商工費	
6,966,939	7,820,498	9,103,783	7,484,326	7,213,244	9,479,171	土木費	
2,568,018	2,643,302	2,968,702	3,402,812	2,504,988	2,411,635	消防費	
8,286,790	7,789,436	9,169,405	9,461,008	8,550,168	8,332,280	教育費	
2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	災害復旧費	
4,224,517	4,133,762	4,264,129	4,287,722	4,337,566	4,481,071	公債費	
801	29,337	201	3	3	3	諸支出金	
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	予備費	
56,900,000	57,200,000	62,800,000	61,300,000	56,000,000	61,500,000	目的別合計	
10,648,428	10,709,729	10,520,578	10,209,190	10,047,582	9,862,871	人件費	義務的経費
6,645,881	8,509,089	9,099,599	9,474,338	9,840,735	10,088,629	扶助費	
4,224,517	4,133,762	4,264,129	4,287,722	4,337,566	4,481,071	公債費	
21,518,826	23,352,580	23,884,306	23,971,250	24,225,883	24,432,571	小計	投資的経費
7,465,910	6,673,164	11,592,648	10,274,273	5,439,066	7,109,554	普通建設事業費 (補助)	
9,446,954	7,888,620	7,906,495	7,334,271	5,477,351	7,803,085	普通建設事業費 (単独)	
2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	災害復旧事業費	小計
16,914,864	14,563,784	19,501,143	17,610,544	10,918,417	14,914,639	物件費	歳出 (性質別)
9,626,824	10,031,944	10,308,752	10,368,669	10,678,948	10,974,556	維持補修費	
719,957	737,260	727,262	702,948	674,135	688,622	補助費等	
3,625,982	4,102,221	3,880,749	3,997,876	4,362,635	4,962,296	積立金	
46,800	40,762	43,834	52,360	39,898	8,068	投資及び出資金	
127,807	96,836	101,007	122,706	154,820	418,459	貸付金	
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	繰出金	
3,218,940	3,174,613	3,252,947	3,373,647	3,845,264	4,000,789	予備費	
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	予備費	
18,466,310	19,283,636	19,414,551	19,718,206	20,855,700	22,152,790	小計	
56,900,000	57,200,000	62,800,000	61,300,000	56,000,000	61,500,000	性質別合計	

○ 1人当たりの予算額

平成 26 年度一般会計当初予算額は 615 億円です。平成 26 年 3 月 31 日現在の人口 131,233 人で予算額を割った「市民 1 人当たりに使われるお金」は 468,632 円となります。また、「1 人当たりの市税負担額」は 237,149 円です。

 <p>民生費 135,861 円</p>	 <p>土木費 72,232 円</p>	 <p>総務費 68,791 円</p>
 <p>教育費 63,492 円</p>	 <p>衛生費 44,789 円</p>	 <p>公債費 34,146 円</p>
 <p>消防費 18,377 円</p>	 <p>商工費 17,131 円</p>	 <p>農林水産業費 9,108 円</p>
<p>その他 4,705 円</p>		

市民 1 人当たりに使われるお金	468,632 円
市民 1 人当たりの市税負担額	237,149 円
市民 1 人当たりの市民税個人分	57,415 円

### 第3節 特別会計の当初予算

#### ○予算規模の推移

第10表 予算規模の推移

(単位:千円)

	昭和52年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
国民健康保険(事業勘定)	975,646	6,249,732	6,579,981	8,962,897	10,090,265	10,350,405
うち一般会計繰入	10,000	639,236	718,952	1,127,672	1,127,994	1,163,054
国民健康保険(施設勘定)				128,771	133,026	152,626
うち一般会計繰入						
下水道事業	572,127	2,620,350	2,386,269	2,316,233	2,152,308	2,176,593
うち一般会計繰入	133,828	867,328	871,513	929,580	723,938	705,220
公設地方卸売市場	157,550	357,603	255,635	245,353	246,373	272,113
うち一般会計繰入	51,637	186,101	93,779	91,144	92,269	133,896
老人保健		4,647,592	4,522,005	6,130,093	6,653,011	722,156
うち一般会計繰入		297,398	323,026	475,301	539,361	53,814
介護保険		2,683,224	2,745,072	3,722,315	3,857,964	3,956,534
うち一般会計繰入		403,750	420,038	551,206	565,149	574,727
学校給食センター	380,629					
うち一般会計繰入	157,102					
交通災害共済	12,833					
うち一般会計繰入	3,686					
農業集落排水事業				668,605	440,288	362,604
うち一般会計繰入				131,443	140,687	136,214
後期高齢者医療						753,271
うち一般会計繰入						115,045
簡易水道事業				1,415,634	749,236	590,998
うち一般会計繰入						215,643
水道事業	229,157	2,334,061	2,529,297	3,282,605	3,446,149	3,982,149
うち一般会計繰入						135,868
合 計	2,327,942	18,892,562	19,018,259	26,872,506	27,768,620	23,319,449
うち一般会計繰入	356,253	2,393,813	2,427,308	3,306,346	3,189,398	3,233,481

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
国民健康保険(事業勘定)	10,766,978	10,896,427	11,362,708	11,642,996	12,950,513	13,111,318
うち一般会計繰入	1,255,139	1,293,284	1,390,388	1,469,456	1,879,613	2,033,774
国民健康保険(施設勘定)	142,486	149,911	177,721	168,686	201,188	165,542
うち一般会計繰入					0	0
下水道事業	2,195,083	2,090,095	2,079,265	2,069,066	2,154,857	1,968,608
うち一般会計繰入	633,236	515,493	457,093	450,410	490,560	430,650
公設地方卸売市場	243,047	217,351	232,491	209,894	205,167	226,076
うち一般会計繰入	104,084	79,449	93,845	73,154	68,626	79,418
老人保健	31,289	2,235				
うち一般会計繰入	1,543	135				
介護保険	4,144,680	4,320,999	4,740,600	5,125,684	5,340,749	5,610,902
うち一般会計繰入	607,261	632,592	696,188	743,429	775,155	816,651
農業集落排水事業	171,279	161,314	162,539	164,231	165,046	167,618
うち一般会計繰入	137,832	128,553	128,102	129,510	133,022	133,286
後期高齢者医療	658,083	849,020	730,419	802,667	795,496	843,590
うち一般会計繰入	146,761	158,991	147,987	157,162	162,663	172,396
簡易水道事業	322,222	366,952	362,533	359,297	409,870	442,380
うち一般会計繰入	216,450	245,754	238,642	203,290	245,390	216,331
水道事業	3,961,906	3,883,180	3,941,102	3,223,701	3,477,289	2,973,245
うち一般会計繰入	155,115	113,037	108,281	227,708	237,128	239,704
合 計	22,637,053	22,937,484	23,789,378	23,766,222	25,700,175	25,509,279
うち一般会計繰入	3,257,421	3,167,288	3,260,526	3,454,119	3,992,157	4,122,210

※簡易水道事業及び水道事業は、収益的支出額と資本的支出額の合計額です。学校給食センター特別会計は昭和63年度末、交通災害共済特別会計は平成10年度末、老人保健特別会計は平成22年度末でそれぞれ廃止となりました。

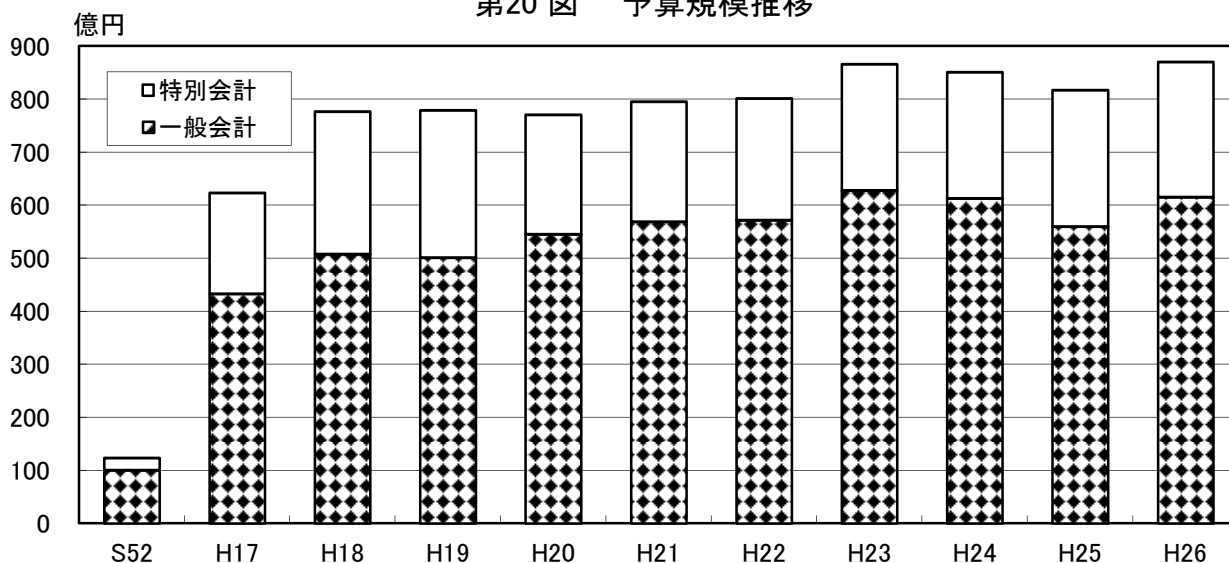
特別会計とは、特定事業を行う場合に一般会計と区分して経理する必要のあるときに設けることができる会計です。

特別会計の予算は、市の予算総額の約 30%を占めており、一般会計からの繰入総額も平成 26 年度で約 41 億 2 千万円計上されています。

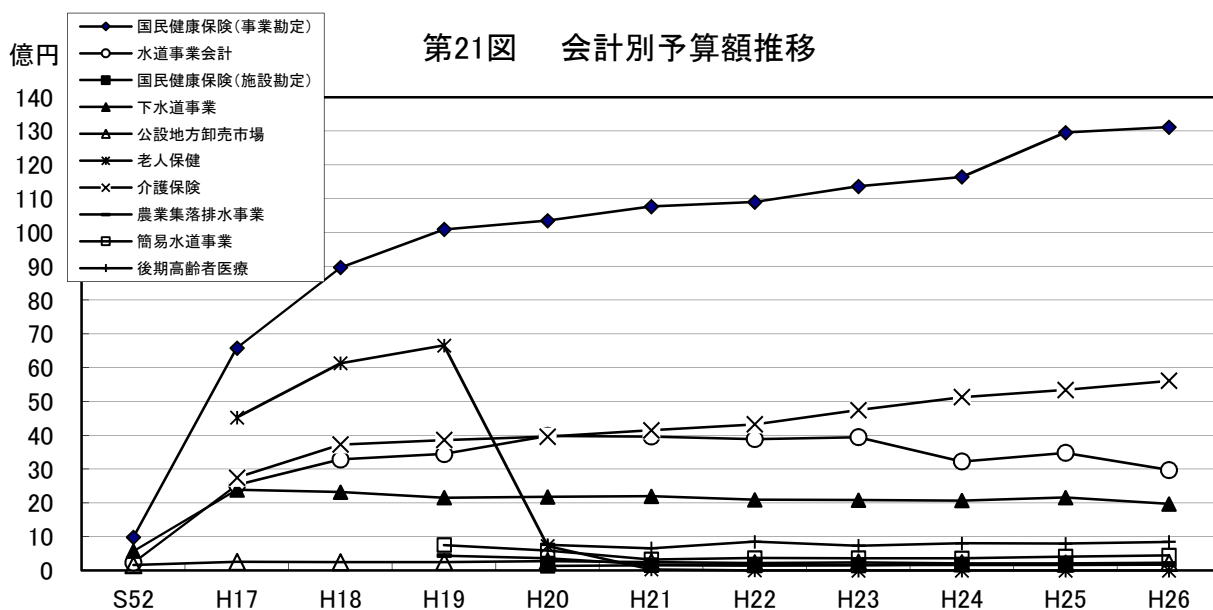
下水道事業及び公設地方卸売市場などは、その性格から施設整備の状況により予算額が増減していますが、国民健康保険及び介護保険などは被保険者の疾病、要介護度などに応じた保険給付の増大により増加傾向にあります。

第 20 図及び第 21 図は、予算規模及び会計別予算額の推移を示しています。

第20図 予算規模推移



第21図 会計別予算額推移





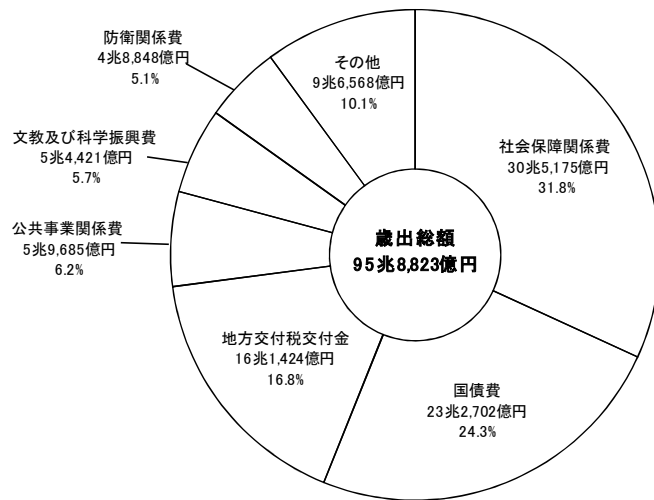
## 第4節 国と県の予算概要

### 1) 国の予算概要

平成26年度予算は、デフレ脱却・経済再生と財政健全化の両立の実現をめざし、社会保障を始めとする義務的経費等を含め、聖域なく予算を抜本的に見直した上で、経済成長に資する施策の重点化を図るとしています。このため、民間需要や民間のイノベーションの誘発効果が高いもの、緊急性の高いもの、規制改革と一体として講じるものを重視

しつつ、真に必要な施策に予算が重点化されました。以上の方針に基づき編成された平成26年度の国の一般会計本予算は95兆8,823億円となり、前年度比3兆2,708億円、3.5%の増額となっています。歳出の内訳は第22図のとおりです。

第22図 国の一般会計本予算



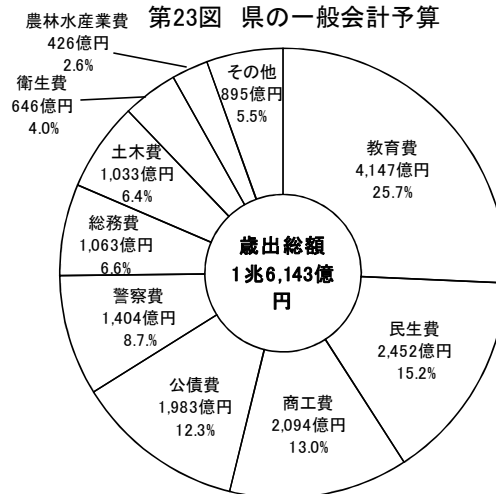
### 2) 県の予算概要

歳入については、県税収入は税制改正や景気回復基調等により前年度予算に対し、増収が見込まれる一方、歳出においては、社会保障費や公債費等の義務的経費が大幅に増加することは避けられず、依然として厳しい財政状況になることが見込まれています。

平成26年度当初予算は、

「暮らし満足度日本一」の千葉の実現に向け、総合計画「新 輝け！ちば元気プラン」の3つの基本目標である、「安全で豊かな暮らしの実現」「千葉の未来を担う子どもの育成」「経済の活性化と交流基盤の整備」を着実に推進すること等を基本的な考えとして予算編成が行われました。この結果、平成26年度の県の一般会計予算の規模は、1兆6,143億円となり、前年度比308億円、1.9%の増額となっています。（平成25年6月補正後予算との比較です。）歳出の内訳は第23図のとおりです。

第23図 県の一般会計予算



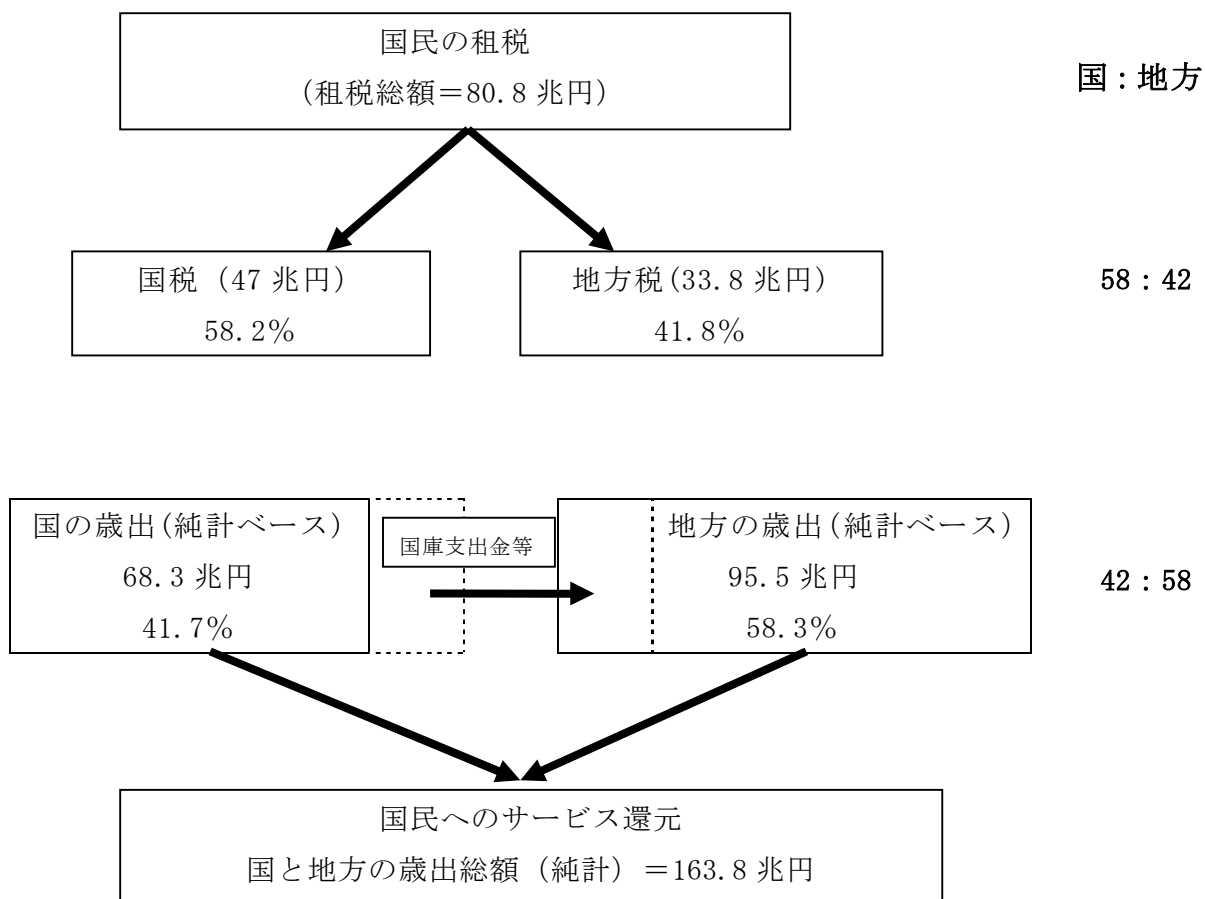
### 3) 国と地方間の財源配分

我が国の財政は、国民が負担する租税収入においては国と地方の比率は概ね 58 : 42 となっているのに対し、最終支出ベースでは国と地方の比率が概ね 42 : 58 となっており、最終支出と税源配分の間には大きな開きが存在しています。

これを平成 24 年度決算でみると、租税収入は全体で 80.8 兆円、うち国税が 47 兆円、地方税が 33.8 兆円です。

一方、歳出ベースでは、地方交付税や国庫支出金等が地方へ配分されることによって、国の 68.3 兆円に対し、地方は 95.5 兆円となります。第 24 図はこの財源移転のしくみを図解して説明したものです。

第 24 図 国から地方への財源移転のしくみ（平成 24 年度）



### 第3章 平成25年度決算（見込み）

#### 第1節 決算概要

##### 1) 会計別決算額

本市の平成25年度の一般会計及び特別会計（簡易水道事業及び水道事業を除く）6会計の歳入決算額は860億6,854万円ではぼ前年並み、歳出決算額は799億7,943万円で前年度比1%の減、歳入総額から歳出総額を差引いた形式収支は60億8,912万円、さらに形式収支から翌年度へ繰越すべき財源を差引いた実質収支は25億1,756万円となりました。

また、簡易水道事業及び水道事業の企業会計の収入額を加えた歳入総額は889億5,044万円で前年度比0.3%の減、支出額を加えた歳出総額は833億3,142万円で前年度比1.1%の減となりました。

第11表 会計別決算総括表

（単位：千円）

		歳入総額 (収入総額)	歳出総額 (支出総額)	形式収支	繰越すべき 財源	実質収支
一般会計		63,354,596	58,077,111	5,277,485	3,533,353	1,744,132
特別 会計	国民健康保険（事業勘定）	13,265,289	12,761,756	503,533	0	503,533
	国民健康保険（施設勘定）	200,479	190,968	9,511	0	9,511
	下水道事業	2,551,399	2,421,308	130,091	38,206	91,885
	公設地方卸売市場	215,830	211,173	4,657		4,657
	介護保険	5,511,988	5,366,804	145,184	0	145,184
	農業集落排水事業	165,804	159,194	6,610	0	6,610
	後期高齢者医療	803,159	791,111	12,048	0	12,048
	小計	22,713,948	21,902,314	811,634	38,206	773,428
合計		86,068,544	79,979,425	6,089,119	3,571,559	2,517,560
簡易水道 事業	収益的収支	284,365	284,217			
	資本的収支	0	97,205			
水道事業	収益的収支	2,002,068	1,815,368			
	資本的収支	595,465	1,155,200			
総計		88,950,442	83,331,415			

## 【用語解説】

### ① 企業会計

上下水道事業や公設地方卸売市場事業などは、その事業の収入で支出を賄う独立採算を原則とする公営事業です。特に簡易水道事業と水道事業については、地方公営企業法の適用（簡易水道事業は一部適用）を受けているため他の特別会計とは異なり、民間企業と同じように複式簿記で会計処理を行っています。

区分	簡易水道事業及び水道事業会計の内容
収益的収支	水道料金を主な収入とした、営業活動の収支状況です。
資本的収支	市からの出資金や企業債を主な収入として、配水管の敷設や改良事業を実施した収支状況です。

### ② 繰越すべき財源

一会計年度から次の会計年度に持ち越した金額を繰越金といいます。繰越金は決算上の純粋な剰余金と、前年度から繰越された歳出予算に充当しなければならない繰越金の2種類があり、後者を「繰越すべき財源」といいます。

### ③ 形式収支・実質収支

形式収支とは、単純にその年度の歳入決算額から歳出決算額を差引いたものです。概念的にはすでに債務が確定し、翌年度に支払うべき経費などを考慮しない収支差額になります。

これに対し、実質収支とは、発生主義の要素を加味して実質的な財政収支の結果を明らかにするもので、形式収支から翌年度に繰越すべき財源を控除した決算額のことをいいます。

## 第2節 普通会計決算

この節では、地方財政統計の基礎となる決算統計の区分により分析していますので、決算書とは数値が異なります。

### 1) 決算規模

本市の普通会計決算は、第12表のとおり歳入が前年度比1.9%減の633億3万円、歳出が3.5%減の580億2,254万円となりました。

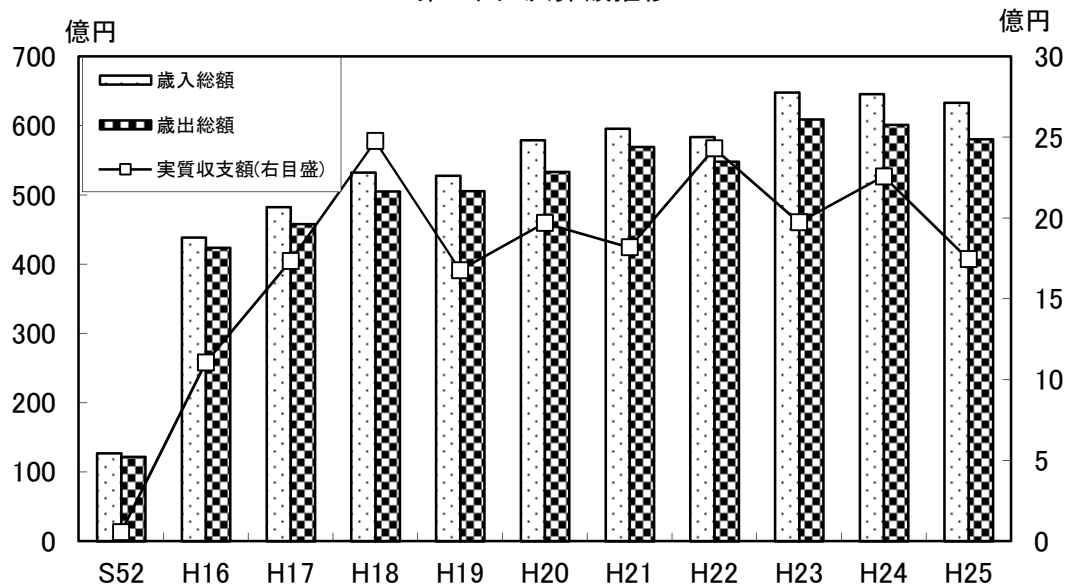
形式収支は52億7,749万円、実質収支は17億4,413万円となりました。

第25図は、成田国際空港開港前と最近10年間の決算額の推移を示しています。

第12表 普通会計決算額 (単位：千円)

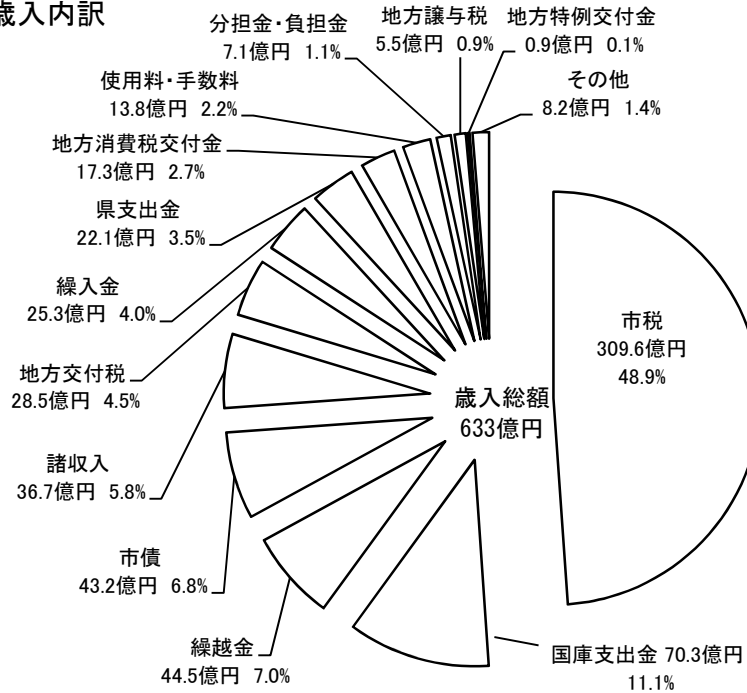
	平成25年度	平成24年度	増減額	増減率
歳入総額	63,300,027	64,549,010	▲1,248,983	▲1.9%
歳出総額	58,022,542	60,099,047	▲2,076,505	▲3.5%
形式収支	5,277,485	4,449,963	827,522	18.6%
繰越財源	3,533,353	2,193,467	1,339,886	61.1%
実質収支	1,744,132	2,256,496	▲512,364	▲22.7%

第25図 決算額推移

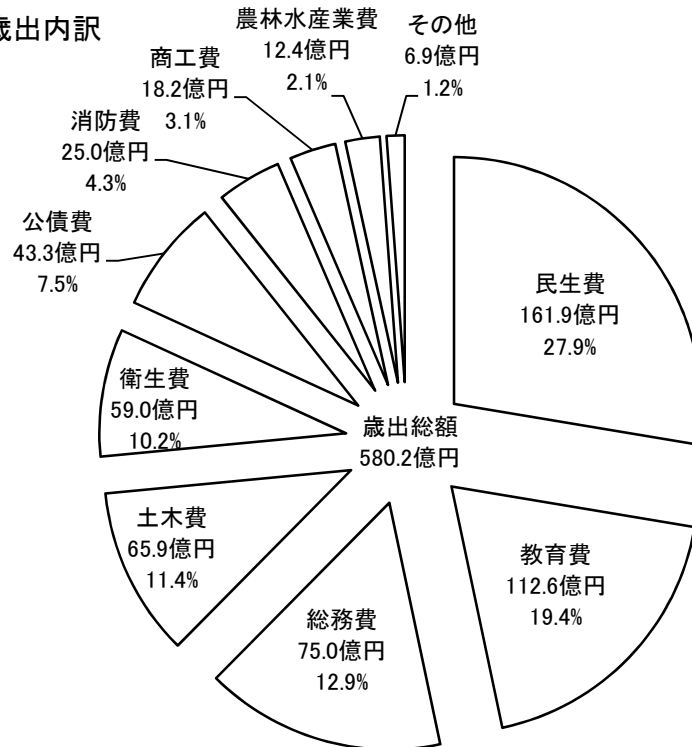


第 26 図及び第 27 図は、歳入及び歳出の目的別の内訳です。

第26図 目的別歳入内訳



第27図 目的別歳出内訳



【用語解説】

① 普通会計

地方公共団体は、それぞれ独自に一般会計や特別会計の範囲を定めており、財政規模やその内容の比較をする場合には、同じ基準で整理することが必要となります。そこで、地方財政統計上、統一的に用いられる会計区分が普通会計であり、本市では、「一般会計」のみがその範囲となります。

## ② 決算統計

決算統計とは、地方財政に関する最も基本的な統計調査である「地方財政状況調査」のことをいいます。地方公共団体の決算状況を統一のルールに基づいて毎年定期的に調査、集計した基礎的な統計のことで、一般会計と特別会計（公営事業会計を除く）をまとめた普通会計と公営事業会計に分かれており、地方財政施策の実施及び立案の検討資料等に活用されています。

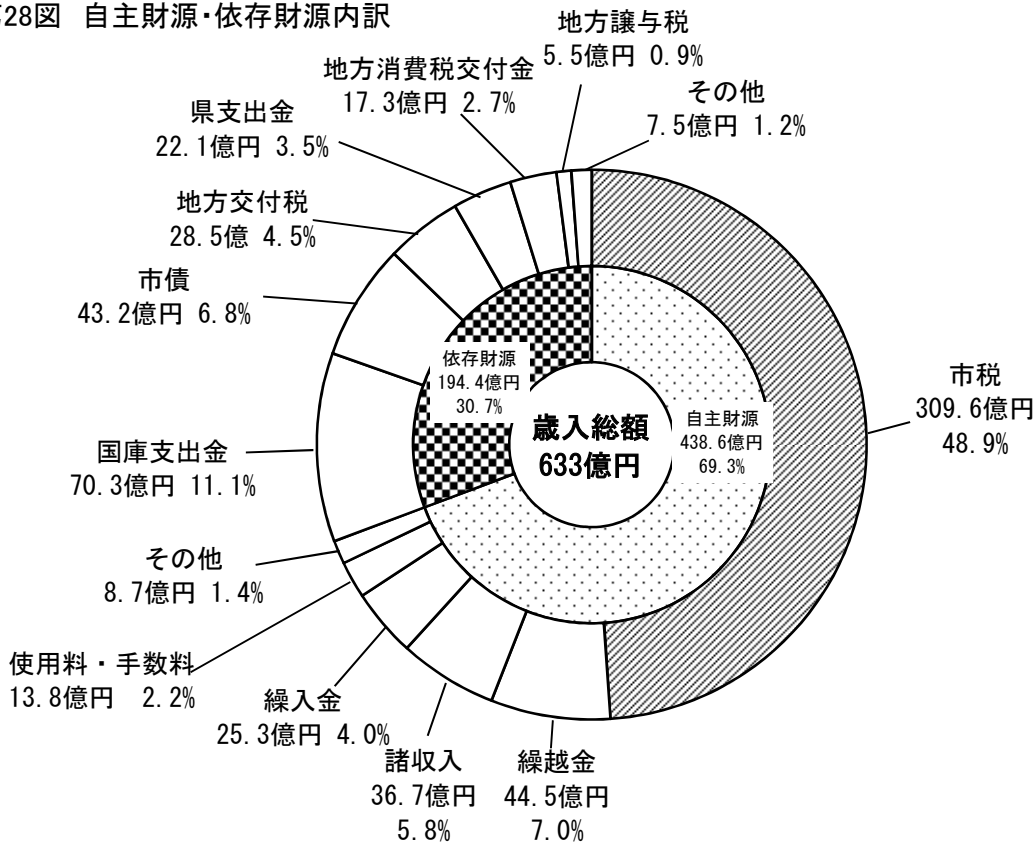
## 2) 歳入の概要

### ○自主財源・依存財源

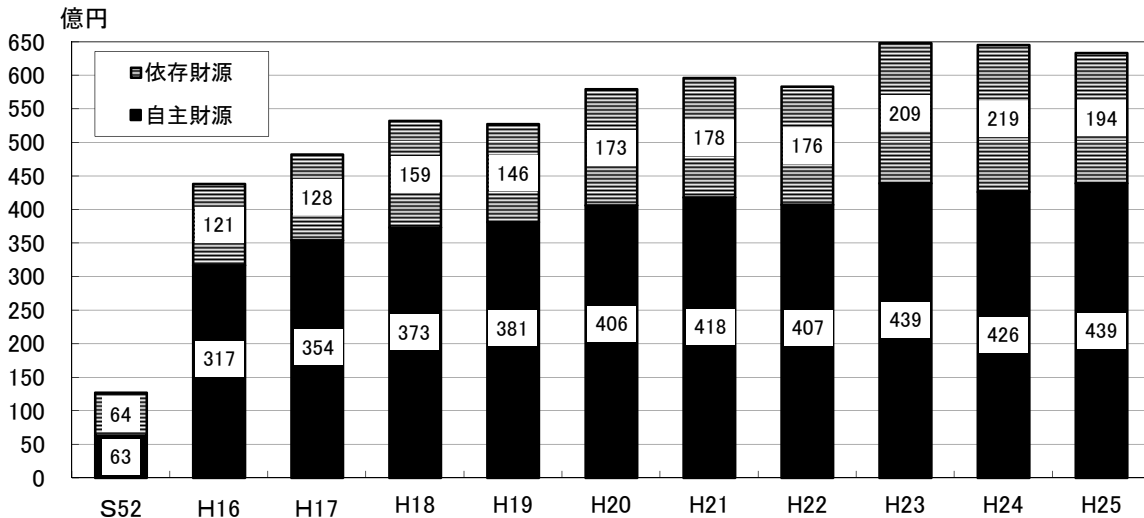
第28図は歳入の内訳を、第29図（次頁）は自主財源・依存財源の推移を示しています。自主的、かつ、自立的な行政活動をするためには自主財源の割合が高い方が望ましいとされています。平成25年度決算における自主財源の割合は69.3%と高く、その中でも市税が約70%を占めています。

また、その推移を見ると自主財源は比較的安定的に推移しているのに比べ、依存財源の変動が大きいことがわかります。これは各年度の事業規模に応じて、国・県支出金や市債などが増減することによるものです。

第28図 自主財源・依存財源内訳



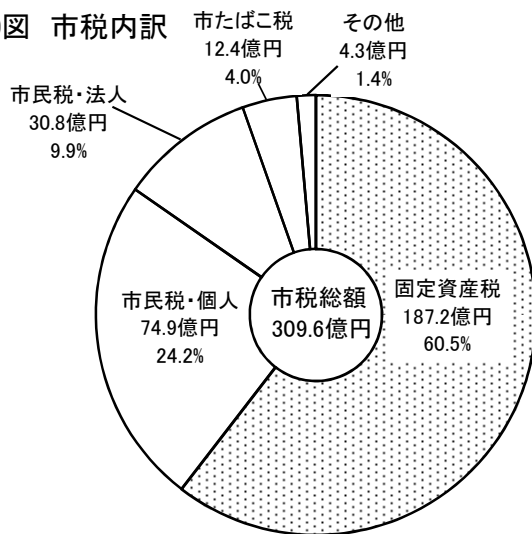
第29図 自主財源・依存財源推移



○市税

歳入の根幹をなす市税の平成 25 年度決算額は 309 億 6 千万円で、歳入全体の 48.9%を占めています。その中でも固定資産税の比重が高く、市税に占める割合は 60.0%です。これは、空港及びこれに関連する法人等からの税収が多いことに起因しています。平成 25 年度決算に係る県内市全体の構成比（見込）と比較してもその高さがわかります。固定資産税は、普遍性及び安定性が他の税目より高いとされ、安定した財政運営ができることとなります。第 30 図は市税の内訳を、第 31 図（次頁）は市税の構成割合の比較を示しています。

第30図 市税内訳



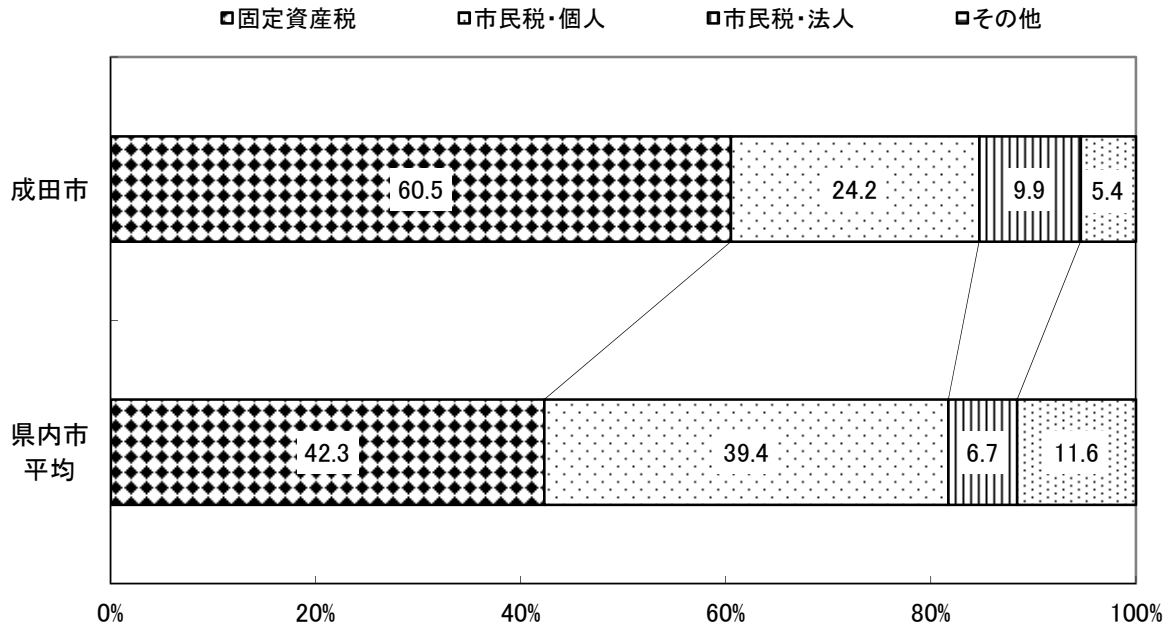
第 32 図（次頁）及び第 13 表（次々頁）の市税の推移を見ると、平成 17 年度以降は大規模な空港関連企業の法人市民税課税や個人市民税における税源移

譲、定率減税および老年者控除の廃止などの要因により増加が続いていましたが、平成 21 年度は企業の業績悪化による法人市民税の大幅な減収により、減少となっています。

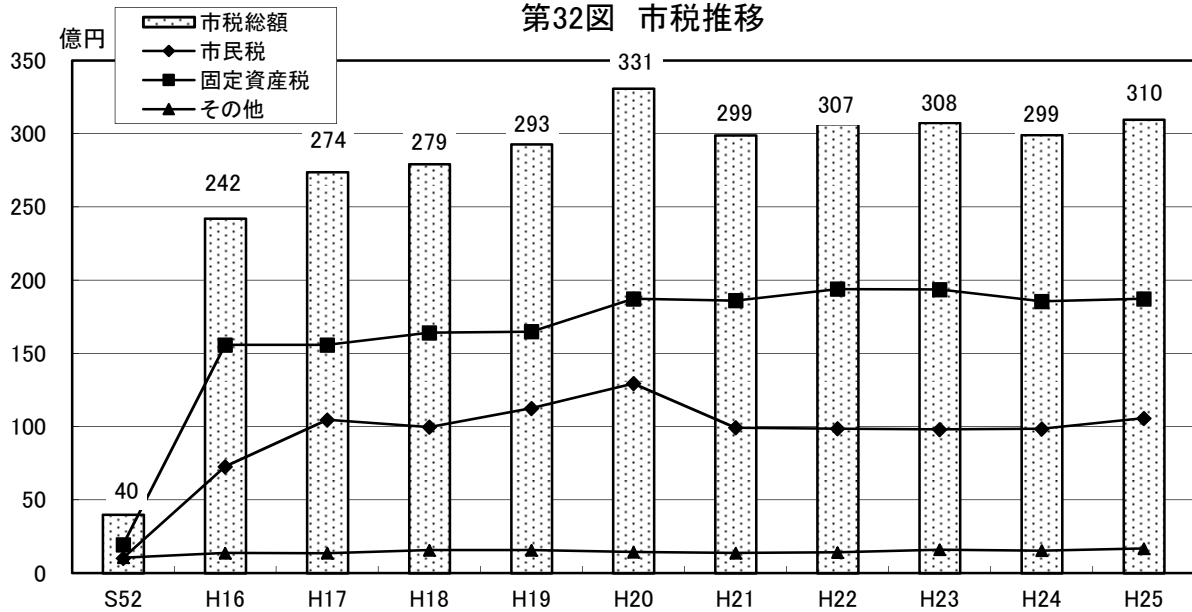
また固定資産税はここ数年、評価替え及び大規模償却資産に対する県課税の発生などの要因により微増で推移していましたが、平成 20 年度は大規模償却資産に対する県課税が発生しなかったことにより増加しました。



第31図 市税構成割合比較(平成25年度決算)



第32図 市税推移



第 13 表 市税推移

(単位：千円)

年度	昭和 52 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
市民税	1,018,905	7,303,307	7,272,797	10,460,481	9,969,090	11,247,332
個人	747,372	5,064,226	4,919,551	5,180,761	6,212,245	7,539,929
法人	271,533	2,239,081	2,353,246	5,279,720	3,756,845	3,707,403
固定資産税	1,930,446	15,740,544	15,574,615	15,575,842	16,410,547	16,487,915
軽自動車税	17,612	96,263	101,171	106,409	149,309	156,068
市たばこ税	193,275	993,059	1,043,132	1,032,555	1,190,265	1,183,235
鉱産税	132	446	466	463	476	465
特別土地保有税	593,617	231,314	26,239	19,361	37,312	27,936
入湯税						
都市計画税	121,167	189,684	192,891	194,696	186,871	194,218
その他	127,187					
合計	4,002,341	24,554,617	24,211,311	27,389,807	27,943,870	29,297,169

年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
市民税	12,942,600	9,926,224	9,858,166	9,806,231	9,845,706	10,571,652
個人	7,739,584	7,810,866	7,472,047	7,135,952	7,406,138	7,492,073
法人	5,203,016	2,115,358	2,386,119	2,670,279	2,439,568	3,079,579
固定資産税	18,725,625	18,608,575	19,396,397	19,356,512	18,544,433	18,722,677
軽自動車税	165,645	175,146	179,363	185,299	193,371	205,243
市たばこ税	1,045,240	975,292	1,010,446	1,165,578	1,127,234	1,244,229
鉱産税	463	470	467	468	449	467
特別土地保有税	16,110	20,429	14,110	36,963	16,120	14,343
入湯税					3,701	7,621
都市計画税	198,942	198,317	205,651	205,825	193,831	196,080
その他						
合計	33,094,625	29,904,453	30,664,600	30,756,876	29,924,845	30,962,312

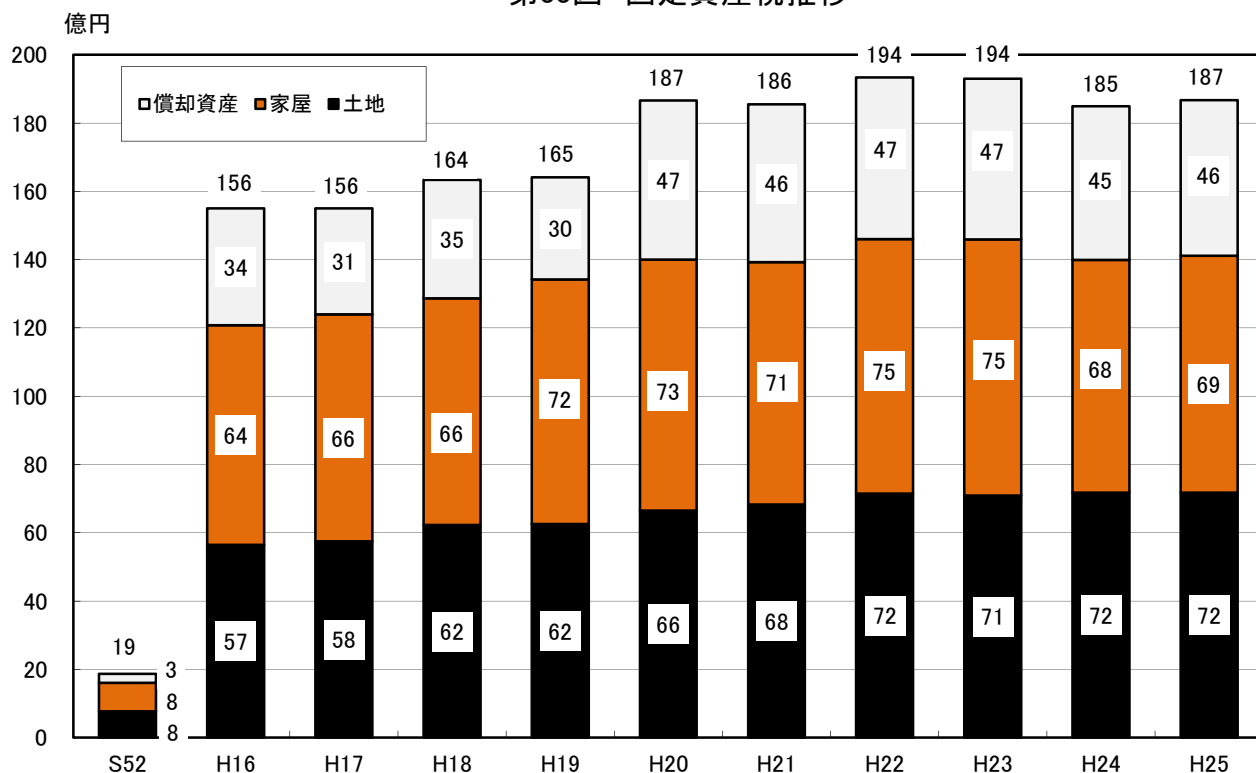
## ・ 固定資産税

土地は、平成 22 年度に地方税制の改正等により増収となり、以降ほぼ横ばいで推移しています。

家屋は、評価替えを行った平成 21 年度、24 年度において評価額が下落したことにより減少しているものの、新築等の増によりその他の年度は前年度に比べ概ね増加しています。

償却資産は、会社や個人で工場や商店などを経営している人や不動産を貸し付けている人が、その事業のために用いている構築物・機械・器具・備品などのことで、設備投資の動向により伸び率も増減します。平成 19 年度から平成 20 年度にかけ、大規模償却資産に対する県課税が発生しなかったことにより大幅に増加し、以降ほぼ横ばいで推移しています。第 33 図は固定資産税の推移を示しています。

第33図 固定資産税推移



※固定資産税には、この他国有資産所在市町村交付金(0.6~0.8億円)が含まれるため、各項目の合計値が一致しません。

## 【用語解説】

### ① 固定資産税の評価替え

土地・家屋の評価額については、3年ごとに新たな価格へ評価替えが行われます。この評価替えの年を基準年度といい、この年度に決定した価格は原則として3年間据え置かれます。直近では平成 24 年度が基準年度となっています。

### ② 大規模償却資産に対する県課税

本来、固定資産税は市町村税ですが、大規模償却資産（構築物、機械など）については、市町村財政の均衡上、市町村の課税限度額が法律で定められていま

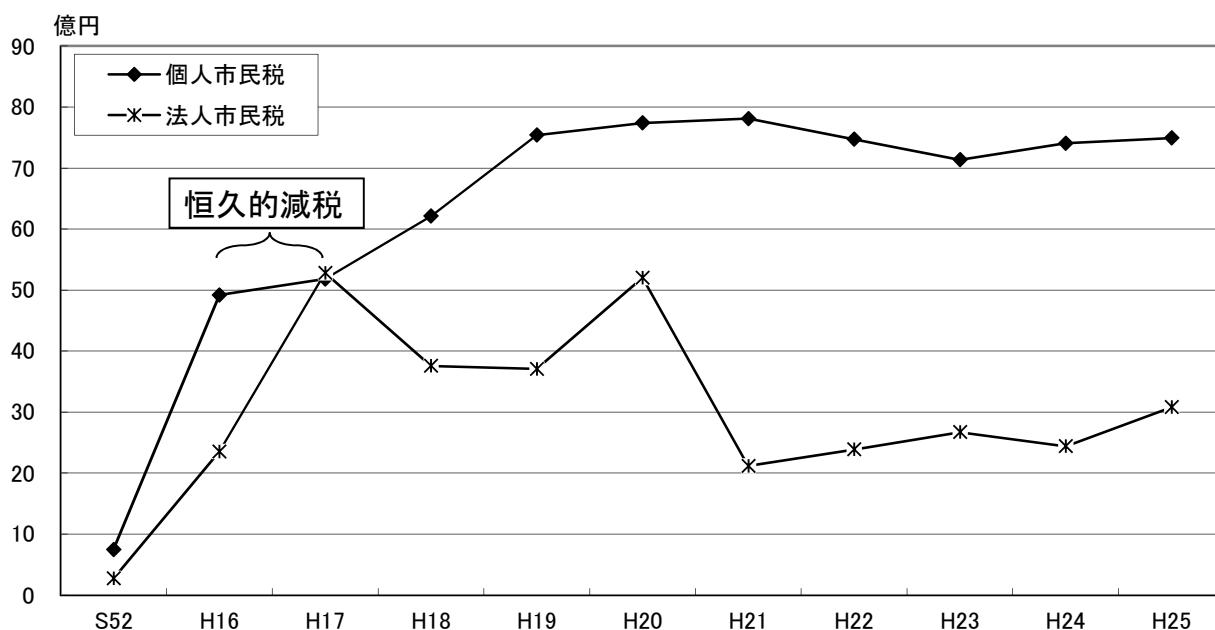
す。この限度額を超える部分については課税の特例として県が課税することになっています。

## ・市民税

個人市民税は、平成 18 年度から 19 年度にかけ、税制改正による老年者控除、老年者非課税措置及び定率減税の廃止、税源移譲などの要因により著しい増加となりました。平成 21 年度から平成 23 年度にかけ、個人所得の低迷等により減少しているものの、以降景気回復等により、平成 25 年度まで緩やかに増加しています。

法人市民税は、景気の変動に影響されやすい税で、バブル崩壊後は増減を繰り返しています。平成 17 年度は大規模な空港関連企業への法人市民税課税などの要因もあって伸びが著しく、個人市民税をしのぐ水準となっていますが、平成 21 年度は企業の業績悪化により、大幅な減少となりました。以降緩やかに増減し、平成 25 年は景気回復等による企業の業績改善により増加しています。第 34 図は市民税の推移を示しています。

第34図 市民税推移



### 【用語解説】

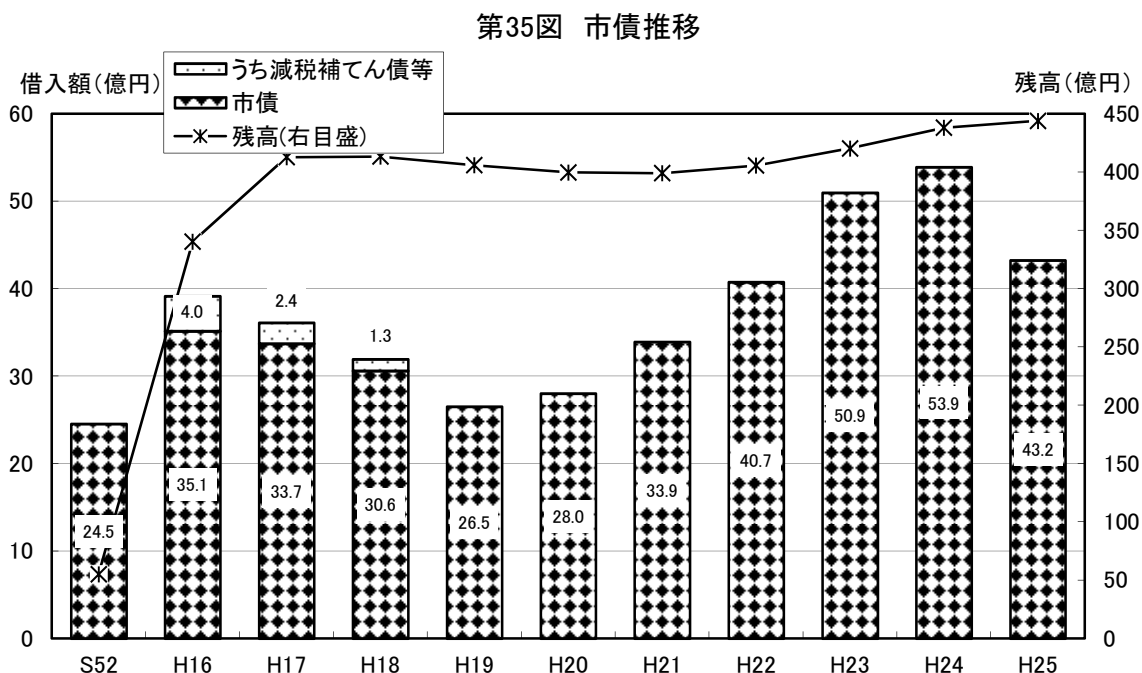
#### ① 税源移譲

納税者が国に納める税（国税）を減らし、都道府県や市町村に納める税（地方税）を増やすことで、国から地方へ税源を移すことです。「地方にできることは地方に」という方針の下、国の関与を縮小し、地方の権限・責任を拡大して、地方分権を一層推進することを目指す「三位一体の改革」の一環として平成 19 年度から行われたものです。

## ○市債

平成 25 年度の市債借入額は 43 億 2 千万円です。主なものとしては、大学整備事業債で 15 億 3 千万円、小学校建設事業債で 6 億 9 千万円、市街地再開発事業債で 6 億 1 千万円、学校給食共同調理場整備事業債で 5 億 4 千万円、スポーツ広場整備事業債で 1 億 1 千万円などがあり、市民生活に密着した公共施設整備を進めています。なお、借入額は対前年度比 10 億 7 千万円（19.8%）の減となりました。市債残高は、平成 25 年度末で 443 億 7 千万円となり、前年より 5 億 9 千万円の増加となりました。

第 35 図は市債の推移を示しています。



### 【用語解説】

#### ① 減税補てん債

減税補てん債とは、国の減税政策により個人住民税などの減税が実施された場合に、その減収額を補てんするために借入れを行う地方債です。平成 7 年度及び平成 10 年度から 18 年度までの間に発行されていました。

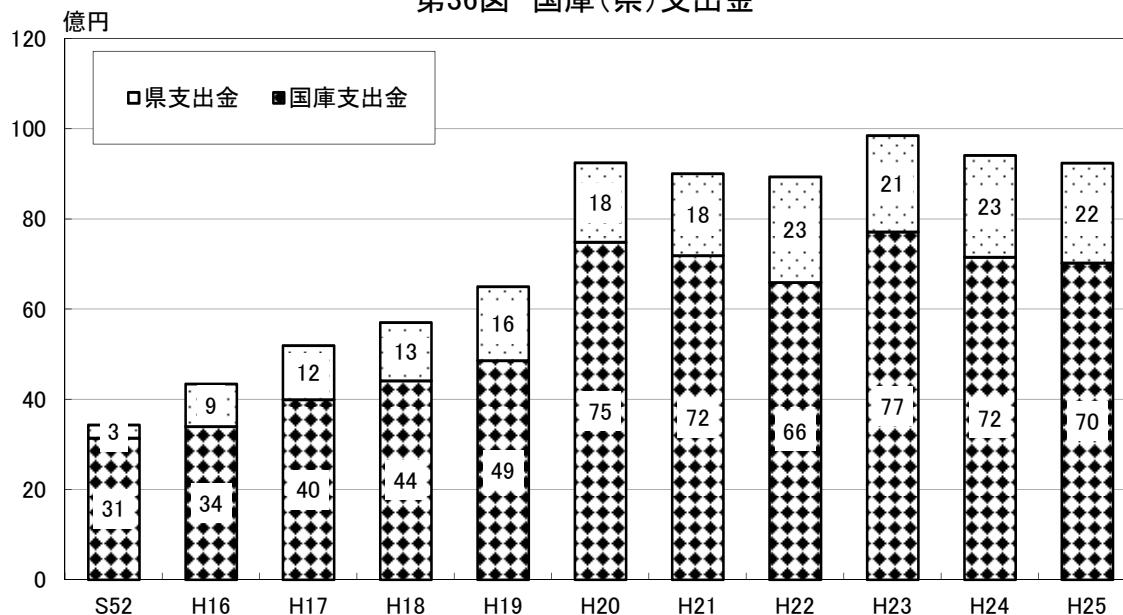
## ○その他の歳入

### ・国庫（県）支出金

国庫（県）支出金は、毎年度の事業規模に応じて増減します。平成 25 年度は 92 億 4 千万円で、対前年度比 1 億 7 千万円（1.8%）の減少となりました。これは、公津の杜中学校建設事業費負担金で 8 億 9 千万円、循環型社会形成推進交付金で 3 億 4 千万円減少したことが主な要因となっています。

第 36 図（次頁）は国庫（県）支出金の推移を示しています。

第36図 国庫(県)支出金



・ 県税からの交付金

第 14 表は、県税からの交付金の推移を示しています。

第 14 表 県税からの交付金の推移

(単位：千円)

年 度	昭和 52 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
利子割交付金		100,031	95,897	66,875	54,667	72,337
配当割交付金			23,032	42,347	69,490	78,263
株式等譲渡所得割交付金			27,462	76,040	64,404	55,998
地方消費税交付金		1,410,461	1,573,900	1,463,817	1,772,864	1,729,587
ゴルフ場利用税交付金	47,095	192,549	193,929	182,507	244,789	255,315
自動車取得税交付金	80,533	294,556	275,468	312,665	401,918	357,363
合 計	127,628	1,997,597	2,189,688	2,144,251	2,608,132	2,548,863

年 度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
利子割交付金	71,495	59,156	55,133	41,709	36,067	35,843
配当割交付金	33,641	26,900	21,480	48,944	40,599	68,515
株式等譲渡所得割交付金	11,241	13,871	11,888	10,107	11,870	126,239
地方消費税交付金	1,590,347	1,678,422	1,675,537	1,714,485	1,740,530	1,725,696
ゴルフ場利用税交付金	247,887	245,170	226,667	207,341	210,041	214,670
自動車取得税交付金	286,154	187,771	157,605	136,687	125,058	186,603
合 計	2,240,765	2,211,290	2,148,310	2,159,273	2,164,165	2,357,566

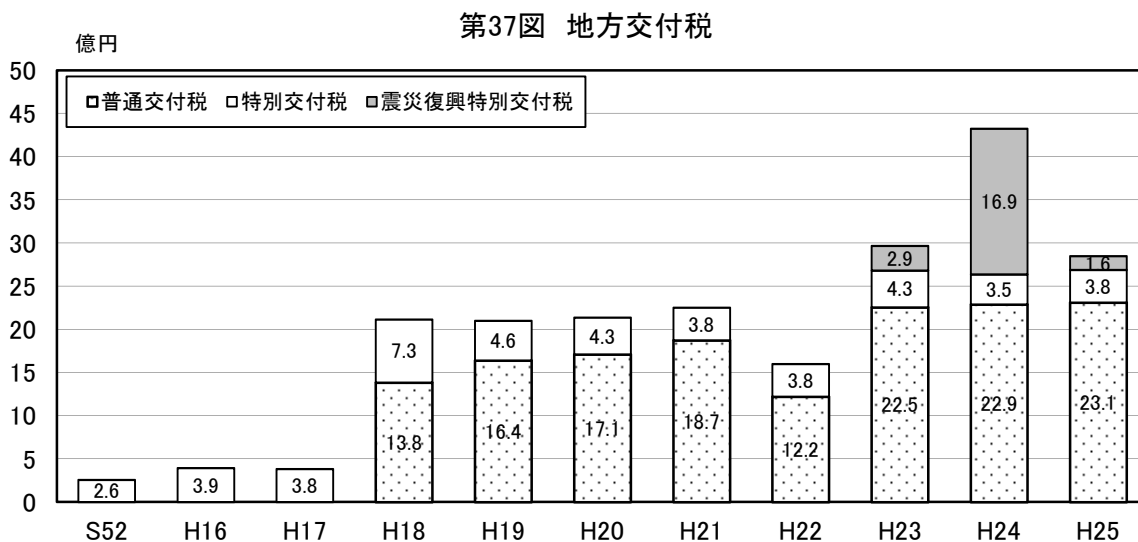
## ・ 地方交付税

普通交付税は、地方公共団体の財政力に応じて交付されるため、本市は財政力指数が高いので通常は交付を受けることができませんが、合併後 15 年間は特例措置により、旧下総町及び旧大栄町が交付を受けることができた普通交付税額（11 年目以降は逡減した額）が保障されるため、平成 25 年度は 23 億 1 千万円の普通交付税が交付されました。平成 22 年度に減少し、平成 23 年度に増加しているのは、臨時財政対策債発行可能額の算出方法の見直しが行われたことによるものです。

特別交付税は、災害や地域固有の特殊な財政需要などにより交付されます。本市では、平成 25 年度は 3 億 8 千万円の特別交付税が交付されました。

震災復興特別交付税は、東日本大震災からの復旧・復興を目的に、平成 23 年度から交付されています。平成 25 年度は 1 億 6 千万円が交付されました。

第 37 図は地方交付税の推移を示しています。



### 【用語解説】

#### ① 臨時財政対策債

臨時財政対策債とは、国から地方公共団体に地方交付税として交付すべき財源が不足した場合に、地方交付税の額を減らし、その穴埋めとして地方自治体自らが地方債を発行するものです。償還に関する費用については後年度に地方交付税として交付されます。発行可能額の算出方法は平成 21 年度まで「人口基礎方式」が採用されていましたが、財政力の弱い地方公共団体に配慮し、財政調整機能を強化する観点から、平成 22 年度以降段階的に廃止され、平成 25 年度から全額「財源不足額基礎方式」に変更されました。

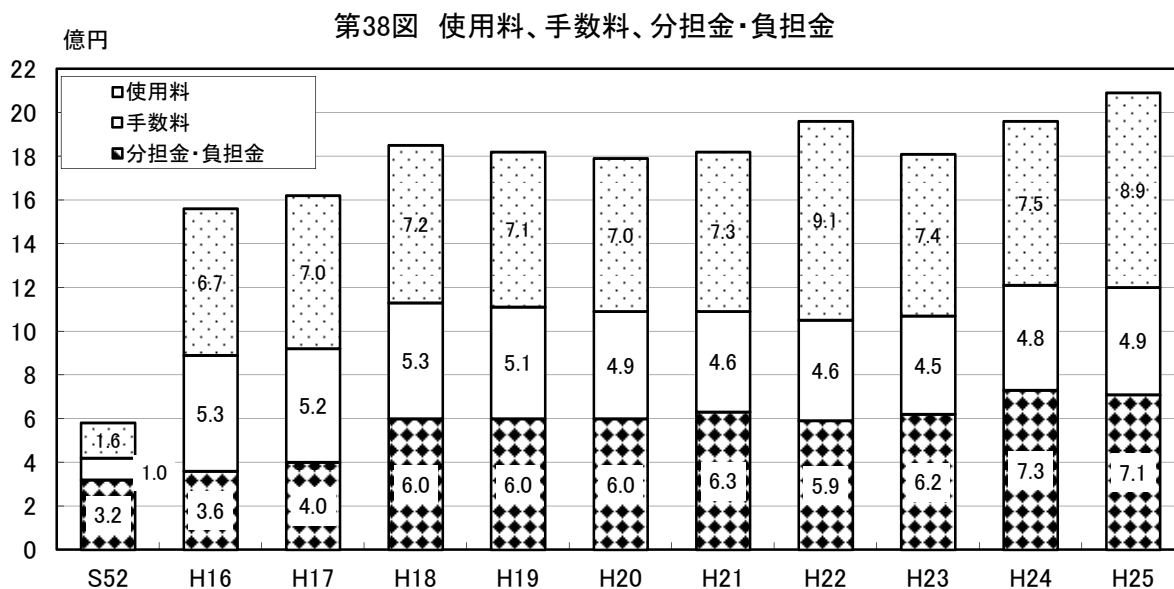
・ 使用料、手数料、分担金・負担金

使用料は、公の施設の利用等の対価としてその利用者に負担してもらうもので、市営住宅使用料などがあります。

手数料は、特定の人のために行うサービスに対して必要な経費を負担してもらうもので、ごみ処理手数料や各種証明書の交付手数料などがあります。

その他に、特定の利益を受けた人に負担をしてもらい、その必要な費用に充てるもので、分担金・負担金があります。

第 38 図は使用料、手数料、分担金・負担金の推移を示しています。





## ○歳入決算額の推移

第15表は、成田国際空港開港前と最近10年間の歳入の決算額の推移を示しています。

第15表 歳入決算額推移

区 分		昭和52年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	
自主財源	市税	4,002,341	24,211,311	27,389,807	27,943,870	29,297,169	
	その他	分担金及び負担金	318,354	363,272	397,599	602,890	604,314
		使用料及び手数料	261,104	1,202,308	1,218,195	1,242,105	1,217,927
		財産収入	632,165	101,820	185,087	150,327	170,142
		寄附金	12,419	23,479	33,370	3,842	6,050
		繰入金		918,490	1,615,535	1,776,280	611,553
		繰越金	243,916	1,977,651	1,474,831	2,461,082	2,738,352
		諸収入	838,617	2,949,506	3,130,366	3,119,506	3,482,819
		計	2,306,575	7,536,526	8,054,983	9,356,032	8,831,157
合 計	6,308,916	31,747,837	35,444,790	37,299,902	38,128,326		
依存財源	国県支出金	国庫支出金	3,142,337	3,397,283	3,992,151	4,411,613	4,858,874
		県支出金	288,715	942,590	1,202,344	1,295,885	1,642,273
		計	3,431,052	4,339,873	5,194,495	5,707,498	6,501,147
	市債	2,451,400	3,913,600	3,607,100	3,189,500	2,648,700	
	その他	地方譲与税	96,773	610,240	826,619	1,472,547	580,630
		利子割交付金		95,897	66,875	54,667	72,337
		配当割交付金		23,032	42,347	69,490	78,263
		株式等譲渡所得割交付金		27,462	76,040	64,404	55,998
		地方消費税交付金		1,573,900	1,463,817	1,772,864	1,729,587
		ゴルフ場利用税交付金	47,095	193,929	182,507	244,789	255,315
		自動車取得税交付金	80,533	275,468	312,665	401,918	357,363
		地方特例交付金		599,101	600,756	803,315	204,893
		地方交付税	255,538	393,151	382,113	2,114,725	2,100,347
		交通安全対策特別交付金	8,418	24,067	25,990	31,145	30,164
		計	488,357	3,816,247	3,979,729	7,029,864	5,464,897
	合 計	6,370,809	12,069,720	12,781,324	15,926,862	14,614,744	
	総 計	12,679,725	43,817,557	48,226,114	53,226,764	52,743,070	

※ 決算統計による区分及び金額に基づき表記してあるため、決算書の数値とは一致しません。

(単位：千円)

平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	区 分	
33,094,625	29,904,453	30,664,600	30,756,876	29,924,845	30,962,312	市税	
604,657	632,750	593,132	624,410	726,852	711,389	分担金及び負担金	
1,181,126	1,193,654	1,375,630	1,190,467	1,233,061	1,382,014	使用料及び手数料	
197,277	147,552	279,545	135,581	116,407	158,080	財産収入	
3,265	4,555	4,369	114,735	117,412	3,225	寄附金	
131,135	2,243,277	1,822,392	3,293,314	2,907,176	2,531,891	繰入金	
2,216,076	4,564,980	2,646,032	3,538,409	3,856,751	4,449,963	繰越金	
3,140,480	3,123,983	3,353,149	4,188,657	3,743,302	3,669,195	諸収入	
7,474,016	11,910,751	10,074,249	13,085,573	12,700,961	12,905,757	計	
40,568,641	41,815,204	40,738,849	43,842,449	42,625,806	43,868,069	合 計	
7,486,579	7,186,545	6,591,981	7,713,041	7,154,148	7,027,529	国庫支出金	
1,757,430	1,820,549	2,344,063	2,140,213	2,253,315	2,212,763	県支出金	
9,244,009	9,007,094	8,936,044	9,853,254	9,407,463	9,240,292	計	
2,799,200	3,388,600	4,074,600	5,094,100	5,388,600	4,322,300	市債	
553,306	525,444	530,960	530,366	526,147	548,972	地方譲与税	
71,495	59,156	55,133	41,709	36,067	35,843	利子割交付金	
33,641	26,900	21,480	48,944	40,599	68,515	配当割付税	
11,241	13,871	11,888	10,107	11,870	126,239	株式等譲渡 所得割交付金	
1,590,347	1,678,422	1,675,537	1,714,485	1,740,530	1,725,696	地方消費税 交付金	
247,887	245,170	226,667	207,341	210,041	214,670	ゴルフ場利用税 交付金	
286,154	187,771	157,605	136,687	125,058	186,603	自動車取得税 交付金	
325,659	338,414	272,150	290,048	90,887	92,771	地方特例交付金	
2,134,508	2,249,784	1,599,678	2,967,703	4,322,374	2,847,305	地方交付税	
26,418	25,776	24,514	24,324	23,568	22,752	交通安全対策 特別交付金	
5,280,656	5,350,708	4,575,612	5,971,714	7,127,141	5,869,366	計	
17,323,865	17,746,402	17,586,256	20,919,068	21,923,204	19,431,958	合 計	
57,892,506	59,561,606	58,325,105	64,761,517	64,549,010	63,300,027	総 計	

### 3) 歳出の概要

#### ○目的別経費

第16表は平成25年度普通会計決算額の目的別経費の前年度比較です。

第16表 目的別経費前年度比較表

	平成25年度		平成24年度		増減額 (千円)	増減率 (%)
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
議会費	455,507	0.8	476,419	0.8	▲20,912	▲4.4
総務費	7,504,249	12.9	8,865,941	14.8	▲1,361,692	▲15.4
民生費	16,188,814	27.9	15,815,480	26.3	373,334	2.4
衛生費	5,900,483	10.2	8,871,204	14.8	▲2,970,721	▲33.5
労働費	54,185	0.1	44,798	0.1	9,387	21.0
農林水産業費	1,242,081	2.1	1,132,893	1.9	109,188	9.6
商工費	1,820,593	3.1	1,743,687	2.9	76,906	4.4
土木費	6,588,455	11.4	5,500,441	9.1	1,088,014	19.8
消防費	2,496,165	4.3	3,622,857	6.0	▲1,126,692	▲31.1
教育費	11,261,695	19.4	9,760,035	16.2	1,501,660	15.4
災害復旧費	177,182	0.3	0	0.0	177,182	皆増
公債費	4,333,133	7.5	4,265,292	7.1	67,841	1.6
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
歳出合計	58,022,542	100.0	60,099,047	100.0	▲2,076,505	▲3.5

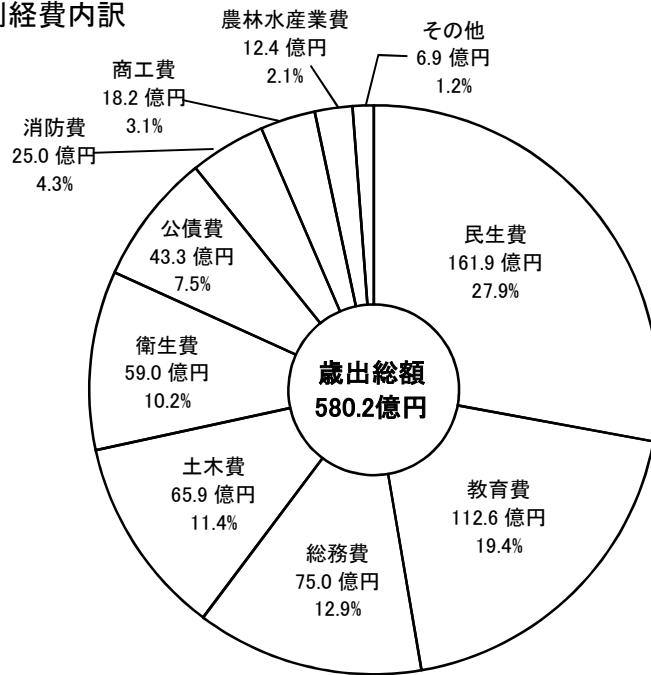
#### 〔各費目の主な増減理由〕

- 総務費** 成田ブランド確立調査委託料、公津の杜複合施設建設工事費などの減により、13億6千万円、15.4%の減となりました。
- 民生費** 愛光園民営化補助金、橋賀台保育園改修工事費などの増により、3億7千万円、2.4%の増となりました。
- 土木費** J R・京成成田駅中央口地区整地整備工事費などの増により、10億9千万円、19.8%の増となりました。
- 教育費** 下総小学校建設工事費、本城小学校学校給食共同調理場建設工事費などの増により、15億円、15.4%の増となりました。

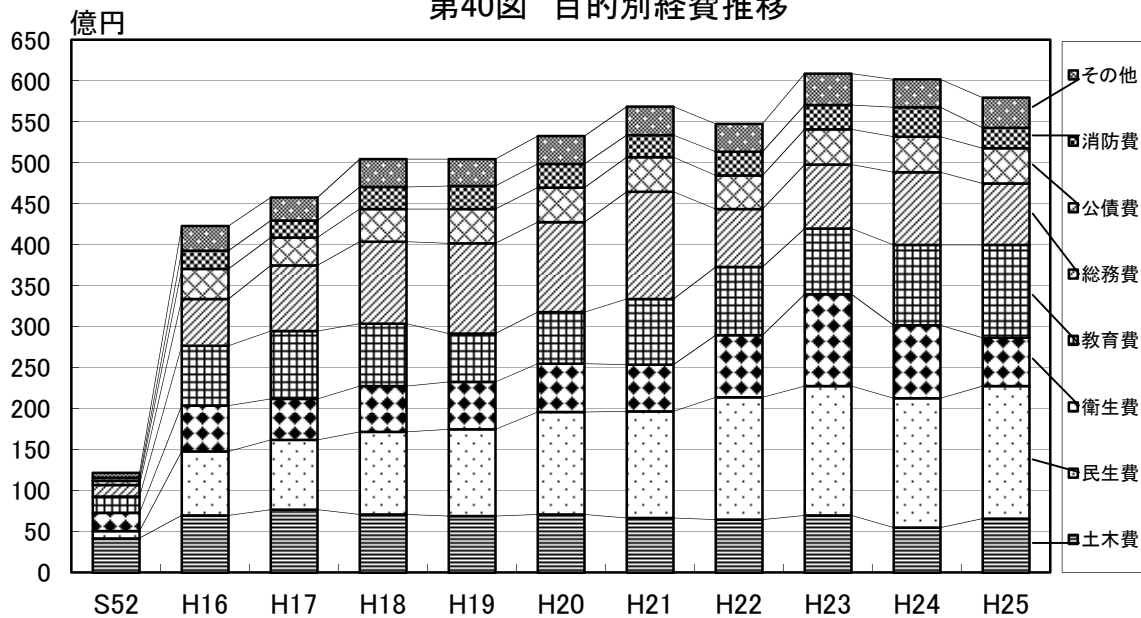
・ 目的別経費内訳

第 39 図は歳出を行政の目的別経費に分類したもので、第 40 図はその推移を示しています。決算額が大きなものは、「民生費」、「教育費」、「総務費」、「土木費」、「衛生費」であり、平成 25 年度はこれらで 8 割以上を占めています。

第39図 目的別経費内訳

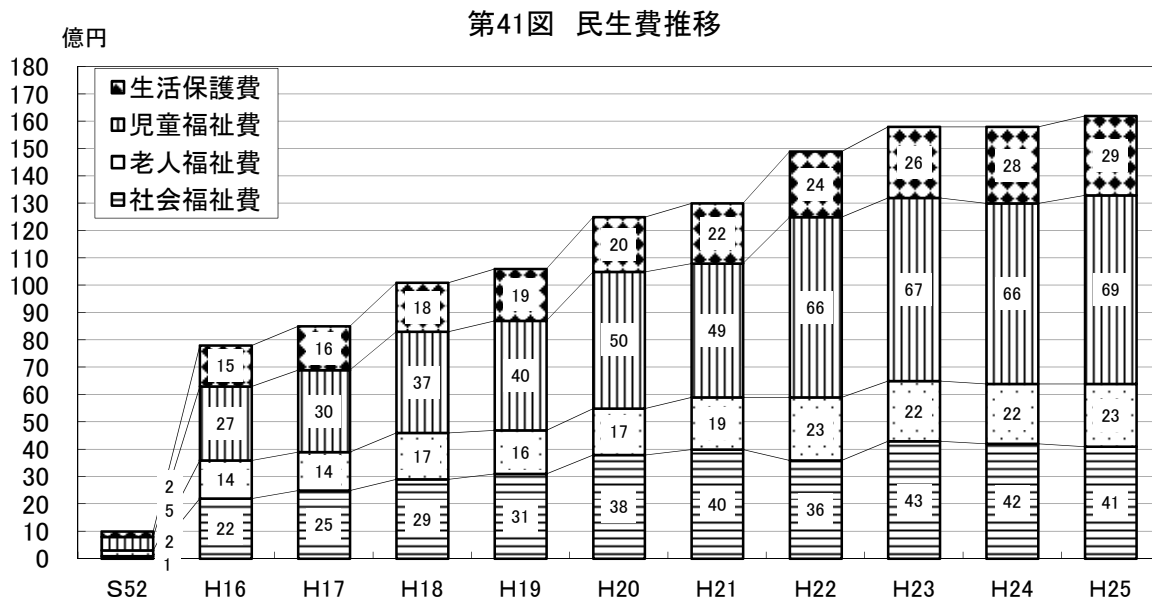


第40図 目的別経費推移



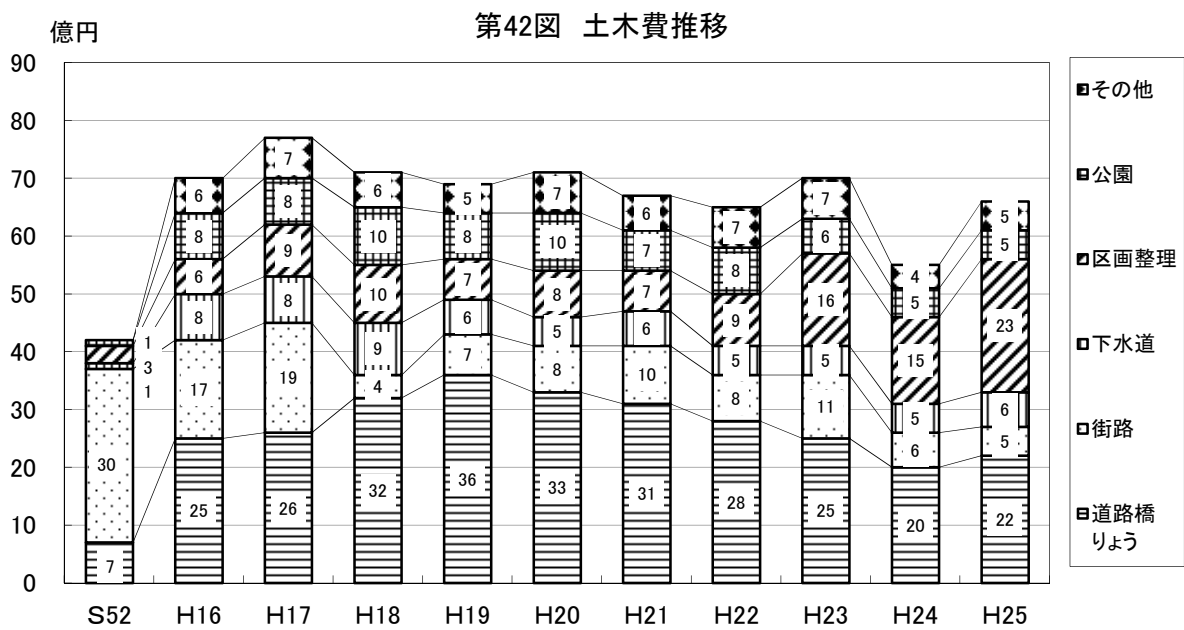
### ・民生費推移

第41図は民生費の推移を示しています。平成18年度以降は生活保護費や児童手当、子ども手当などの扶助費の増によるほか、合併による要因により全般的に増加しており、この10年間で2倍以上になっています。



### ・土木費推移

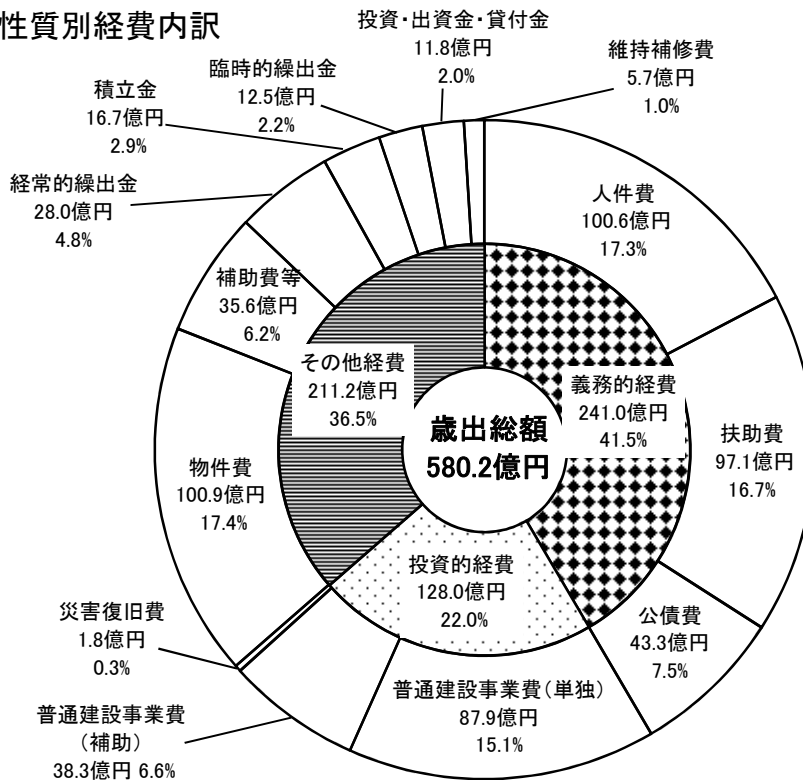
土木費は道路や公園などの社会資本形成に向けられる経費ですが、毎年度の事業の進捗状況により増減します。平成24年度は生活道路整備事業の減などにより減少していますが、平成25年度はJ R・京成成田駅中央口整備事業の増などにより増加しています。第42図は土木費の推移を示しています。



## ○性質別経費

平成25年度の歳出額580億2千万円を性質別に分類すると第43図のとおりとなります。義務的経費は法令等の規定により任意に削減できないため、この比率が高いと財政構造が硬直化しているといえます。平成25年度は、この義務的経費が41.5%を占めていますが、普通建設事業費のように行政水準の向上に積極的に寄与する投資的経費は22.0%を確保しています。第17表は性質別経費の前年度比較です。

第43図 性質別経費内訳



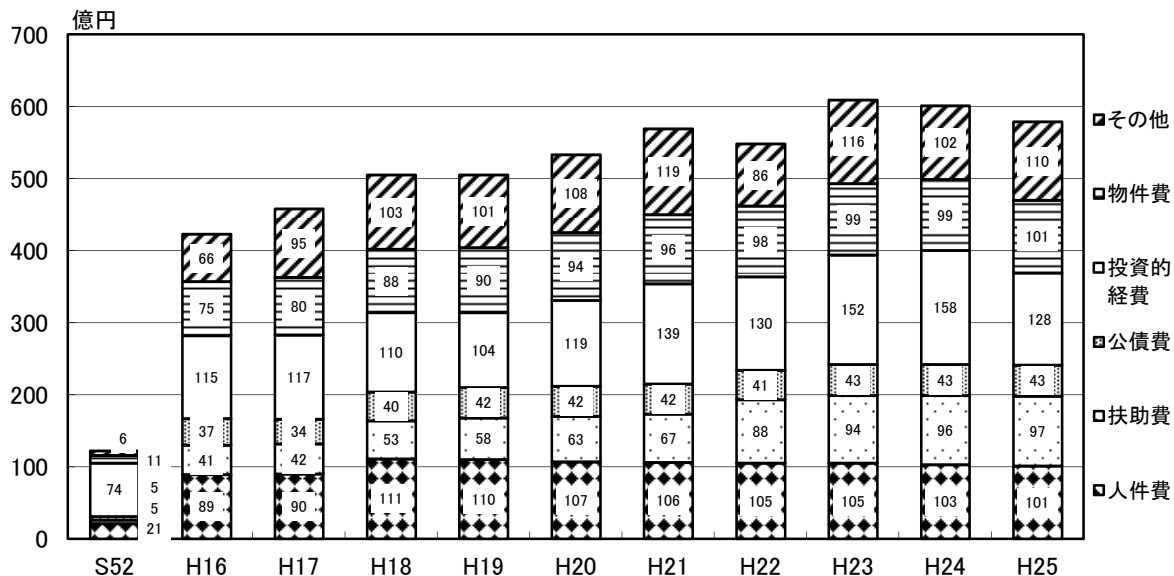
第17表 性質別経費前年度比較

		平成25年度		平成24年度		増減額 (千円)	増減率 (%)
		決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
義務的経費	人件費	10,055,145	17.3	10,261,173	17.1	▲206,028	▲2.0
	扶助費	9,710,314	16.7	9,577,561	15.9	132,753	1.4
	公債費	4,333,133	7.5	4,265,292	7.1	67,841	1.6
	小計	24,098,592	41.5	24,104,026	40.1	▲5,434	0.0
投資的経費		12,791,487	22.0	15,766,674	26.2	▲2,975,187	▲18.9
その他の経費	物件費	10,087,854	17.4	9,948,726	16.6	139,128	1.4
	維持補修費	568,740	1.0	577,998	0.9	▲9,258	▲1.6
	補助費等	3,564,846	6.2	3,369,125	5.6	195,721	5.8
	繰出金	4,054,638	7.0	3,964,243	6.6	90,395	2.3
	積立金	1,671,032	2.9	1,245,074	2.1	425,958	34.2
	投資・出資・貸付金	1,185,353	2.0	1,123,181	1.9	62,172	5.5
小計		21,132,463	36.5	20,228,347	33.7	904,116	4.5
歳出合計		58,022,542	100.0	60,099,047	100.0	▲2,076,505	▲3.5

・ 性質別経費推移

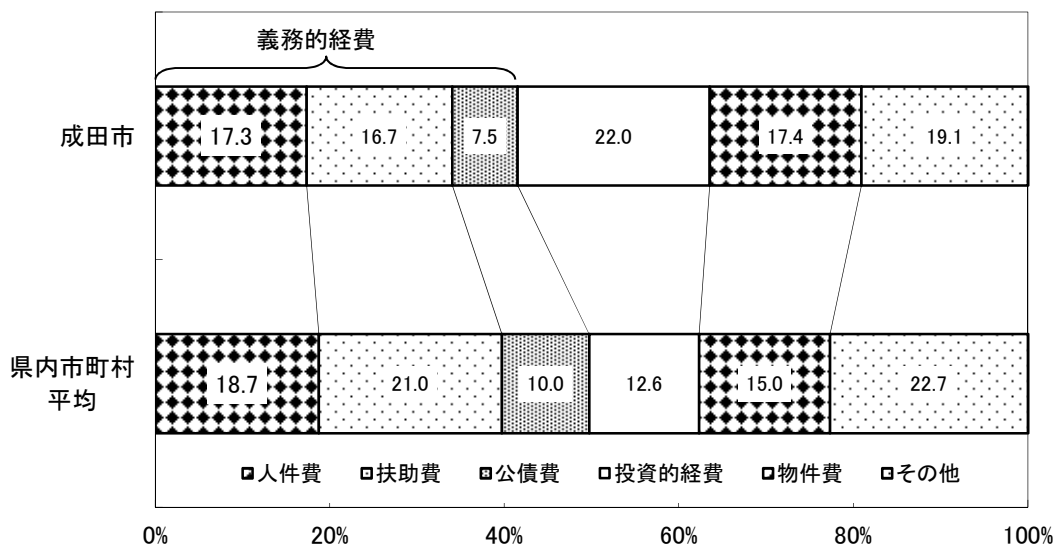
義務的経費（人件費・扶助費・公債費）は平成 23 年度までは増加傾向にありましたが、以降はほぼ横ばいで推移しています。投資的経費は公共施設整備の状況により増減しています。第 44 図は性質別経費の推移を示しています。

第44図 性質別経費推移



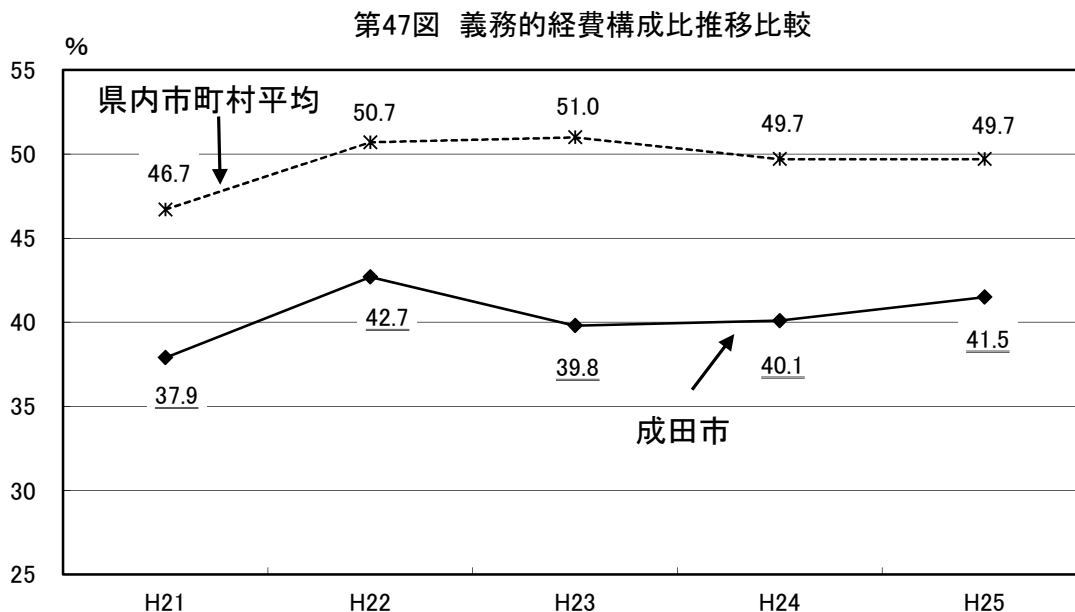
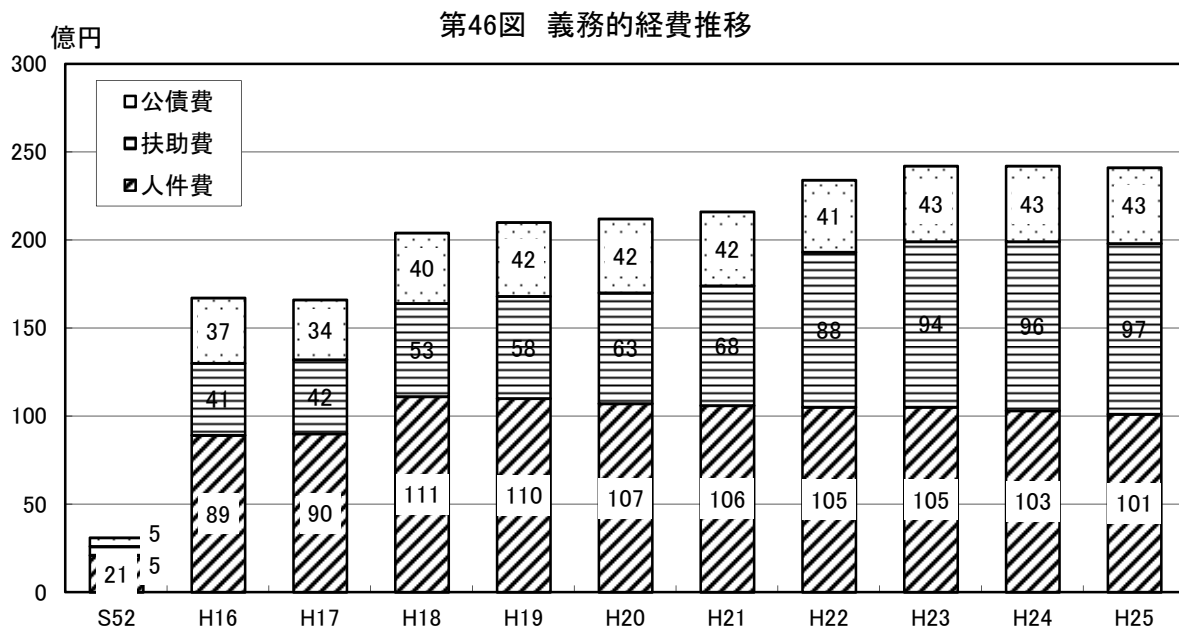
第 45 図は平成 25 年度決算の性質別経費の構成比を県内市町村決算（見込）の平均値と比較したものです。県内市町村と比較すると、人件費等の義務的経費の割合が低く（マイナス 8.2%）、公共施設整備等に充てることができる投資的経費の割合が高い（プラス 9.4%）ことから、本市の財政の硬直度が低いことを示しています。

第45図 性質別経費構成比比較（平成25年度決算）



・義務的経費推移

義務的経費を見ますと、扶助費の増加等により近年増加傾向にあり、平成 23 年度以降はほぼ横ばいで推移しています。義務的経費は任意に削減できない経費であるため、特に注意が必要です。第 46 図は義務的経費の推移を示し、第 47 図は歳出に占める義務的経費の構成比を県内市町村決算（見込）の平均値と比較したものです。県内市町村と比べて低い水準で推移しており、本市の財政が弾力性を維持していることがわかります。



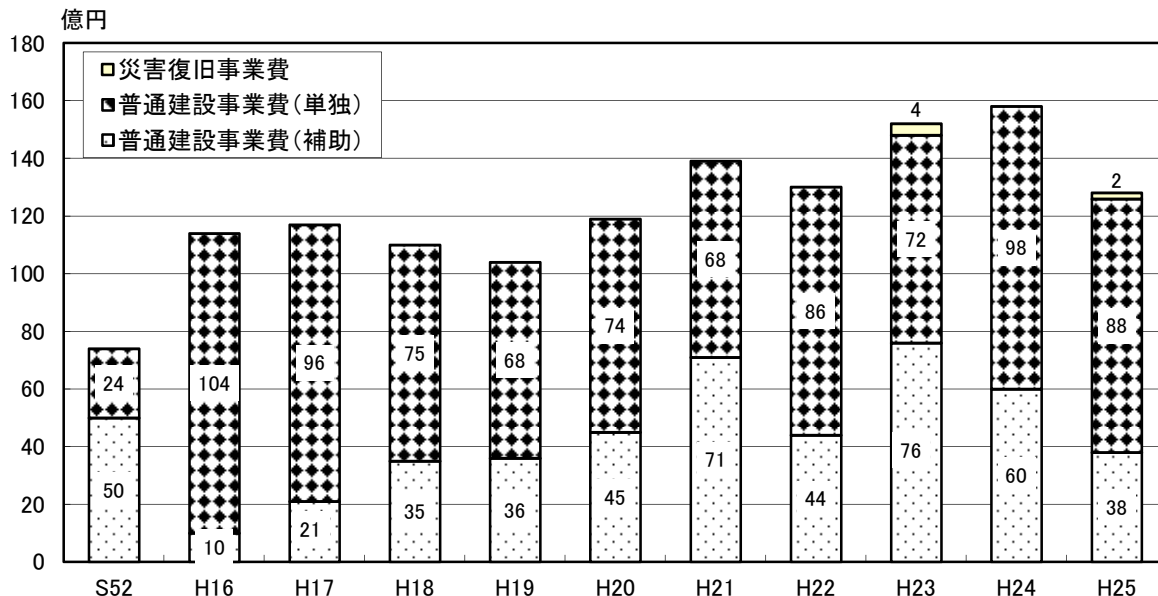


・ 投資的経費推移

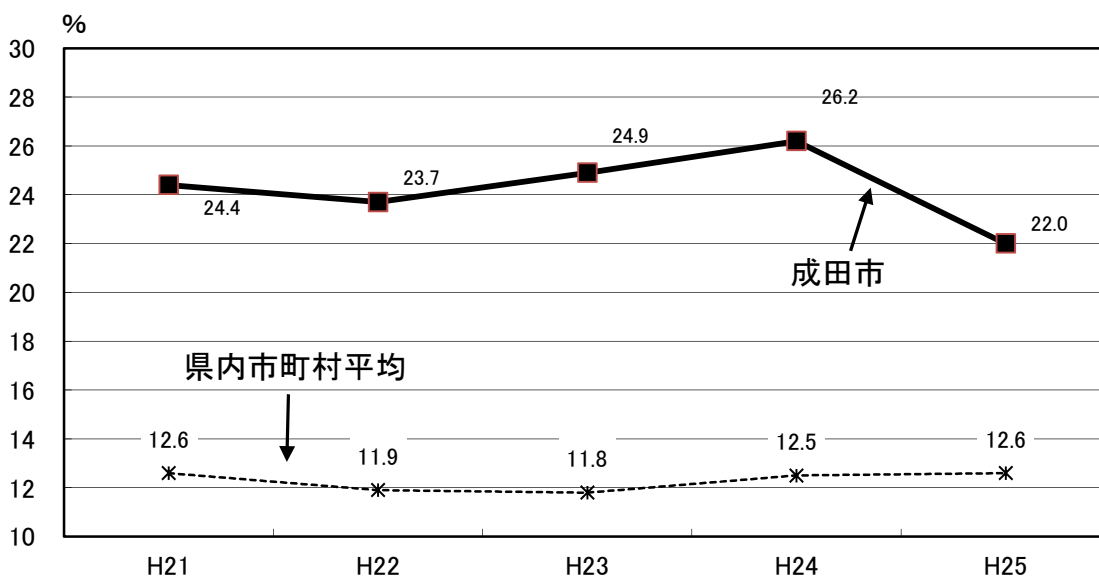
平成 25 年度の普通建設事業費は、新清掃工場整備事業、公津の杜中学校建設事業などの大規模な公共施設整備事業が終了したことにより減少しています。

第 48 図は投資的経費の推移を示し、第 49 図は歳出に占める投資的経費の構成比を県内市町村決算（見込）の平均値と比較したものです。年度によって増減がありますが、全体的には県内市町村より高い水準を維持しています。

第48図 投資的経費推移



第49図 投資的経費構成比推移比較

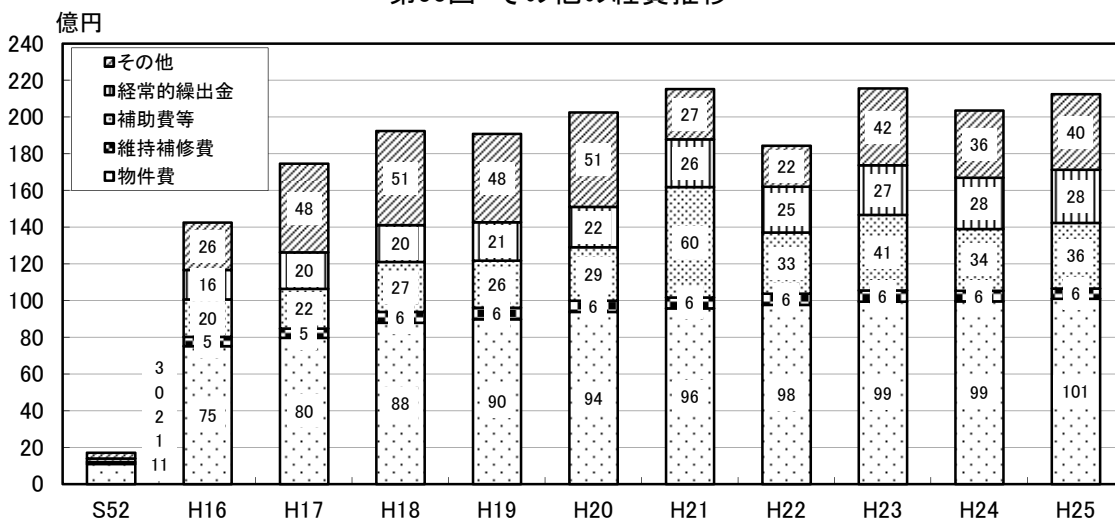


・その他の経費推移

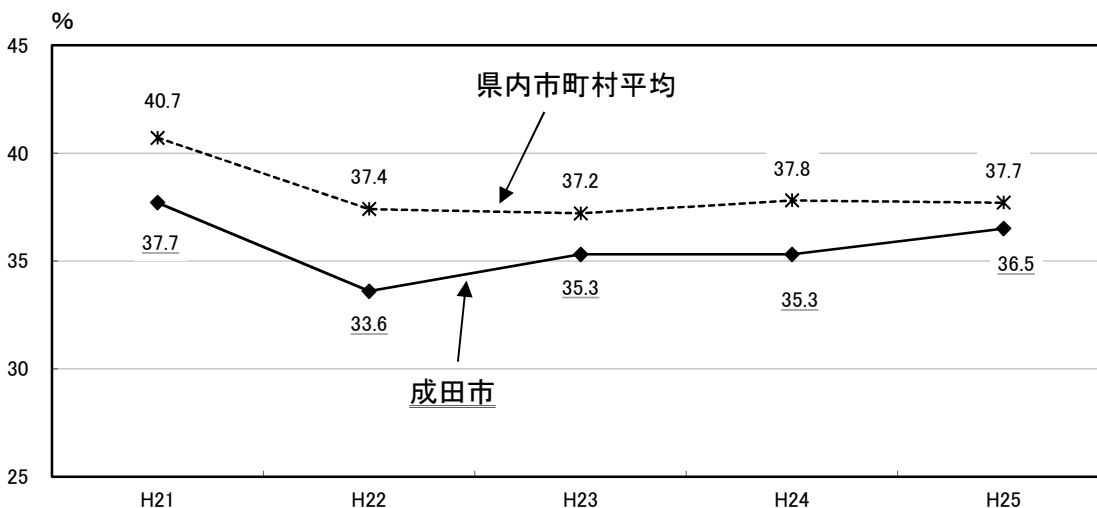
その他の経費のうち、最も大きい割合を占めるのが物件費です。物件費は消耗品の購入等の需用費、市の施設の管理運営を民間企業に委託する委託料等があり、毎年経常的に支出されるものです。このような経常的経費については、予算編成方針においても掲げているとおり徹底的に事務の精査を行い削減できるよう努めています。

第50図はその他の経費の推移を示し、第51図は歳出に占めるその他の経費の構成比を県内市町村決算（見込）の平均値と比較したものです。

第50図 その他の経費推移



第51図 その他の経費構成比推移比較



【用語解説】

① 経常的経費

毎年継続して固定的に支出される経費で、一時的、偶発的な行政需要に対応して支出される経費である臨時的経費と区分されるものです。これには義務的経費のほかに、物件費、維持補修費、補助費等、経常的繰出金が該当します。

○歳出決算額の推移

第 18 表 歳出決算額推移

成田国際空港開港前と最近 10 年間の決算額（歳出）の推移です。

区 分		昭和 52 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	
歳出 (目的別)	議会費	119,843	402,991	405,454	548,406	459,307	
	総務費	1,410,695	5,698,674	7,958,674	10,002,492	10,956,236	
	民生費	951,275	7,829,014	8,509,816	10,065,966	10,621,080	
	衛生費	2,164,476	5,589,913	5,049,320	5,629,740	5,832,369	
	労働費		37,720	31,729	33,406	35,730	
	農林水産業費	317,249	897,677	857,292	1,290,563	1,269,017	
	商工費	142,764	1,658,406	1,500,079	1,523,132	1,556,751	
	土木費	4,164,738	7,051,565	7,692,990	7,130,091	6,910,309	
	消防費	442,559	2,247,746	2,143,751	2,647,232	2,771,696	
	教育費	2,011,275	7,272,891	8,252,812	7,617,812	5,911,336	
	災害復旧費	5,275					
	公債費	454,242	3,656,129	3,363,115	3,999,572	4,203,163	
	諸支出金						
	前年度繰上充用金						
目的別合計		12,184,391	42,342,726	45,765,032	50,488,412	50,526,994	
歳出 (性質別)	義務的経費	人件費	2,063,555	8,901,884	9,000,540	11,070,076	10,956,857
		扶助費	539,416	4,101,328	4,249,341	5,280,463	5,853,547
		公債費	454,207	3,656,118	3,363,115	3,999,572	4,203,163
	小計		3,057,178	16,659,330	16,612,996	20,350,111	21,013,567
	投資的経費	普通建設事業費（補助）	5,047,286	1,062,062	2,106,625	3,497,893	3,579,291
		普通建設事業費（単独）	2,377,605	10,405,217	9,622,627	7,456,089	6,792,172
		災害復旧事業費	5,275				
	小計		7,430,166	11,467,279	11,729,252	10,953,982	10,371,463
	その他	物件費	1,091,969	7,522,251	7,972,896	8,790,361	8,973,223
		維持補修費	97,717	491,183	498,289	593,064	628,225
		補助費等	239,897	2,043,830	2,161,432	2,714,306	2,664,313
		経常的繰出金		1,565,170	1,972,272	2,045,299	2,071,607
		積立金	85,679	239,095	2,542,713	2,106,448	1,681,774
		投資・出資金・貸付金	18,841	1,148,989	1,396,570	1,863,310	2,083,084
		臨時的繰出金	162,944	1,205,599	878,612	1,071,531	1,039,738
		前年度繰上充用金					
	小計		1,697,047	14,216,117	17,422,784	19,184,319	19,141,964
性質別合計		12,184,391	42,342,726	45,765,032	50,488,412	50,526,994	

(単位：千円)

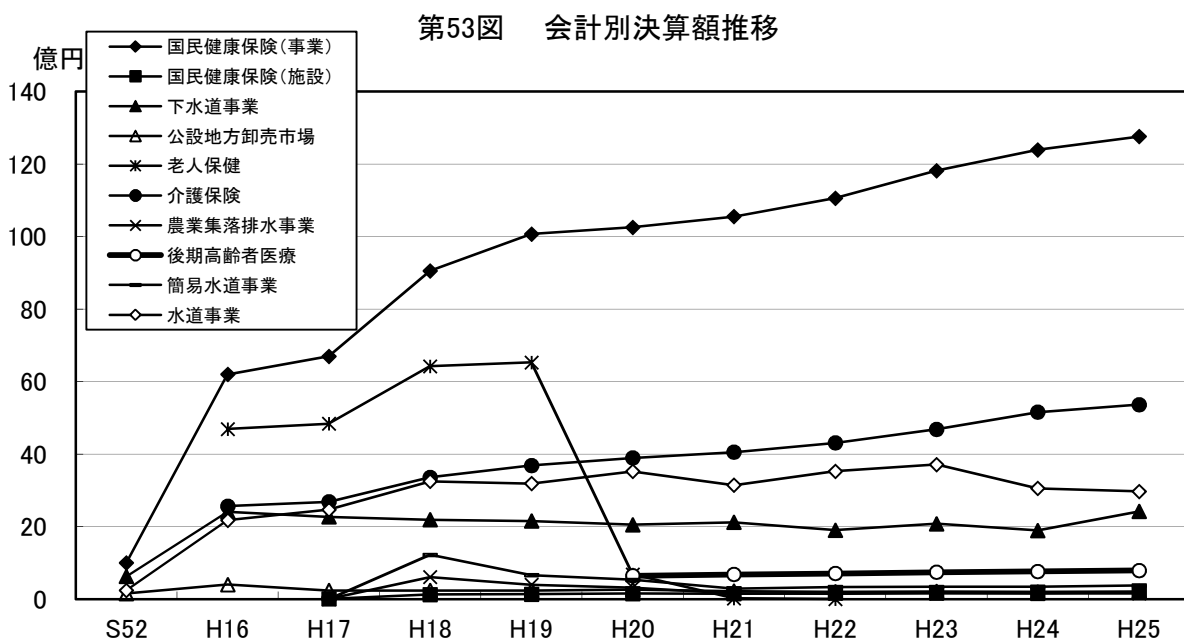
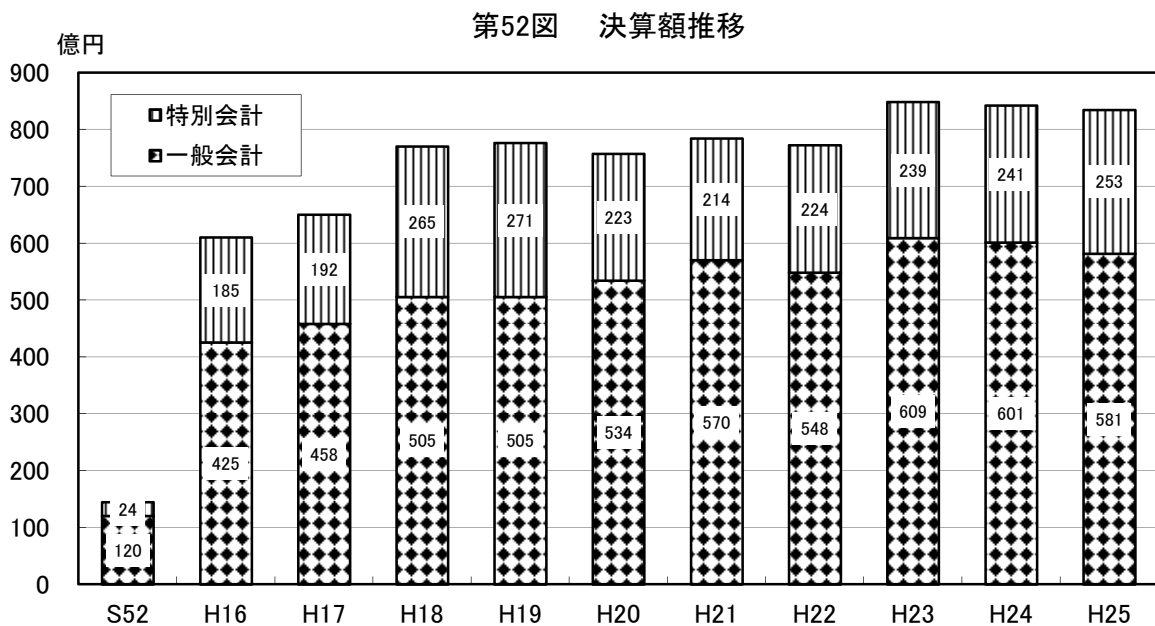
平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	区	分
400,843	406,241	398,773	517,397	476,419	455,507	議会費	歳出 (目的別)
11,022,364	13,069,983	7,131,551	7,834,885	8,865,941	7,504,249	総務費	
12,549,194	13,016,893	14,934,204	15,825,731	15,815,480	16,188,814	民生費	
5,866,540	5,754,584	7,592,912	11,139,413	8,871,204	5,900,483	衛生費	
40,520	67,866	193,388	155,941	44,798	54,185	労働費	
1,257,950	1,270,363	1,179,656	1,164,102	1,132,893	1,242,081	農林水産業費	
1,654,996	1,743,210	1,580,774	1,586,495	1,743,687	1,820,593	商工費	
7,120,083	6,708,512	6,486,860	7,028,225	5,550,441	6,588,455	土木費	
2,881,398	2,714,116	2,857,421	2,967,286	3,622,857	2,496,165	消防費	
6,339,461	7,967,154	8,295,843	8,017,902	9,760,035	11,261,695	教育費	
		21,161	379,596		177,182	災害復旧費	
4,194,177	4,196,652	4,114,153	4,287,793	4,265,292	4,333,133	公債費	
						諸支出金	
						前年度繰上充用金	
53,327,526	56,915,574	54,786,696	60,904,766	60,099,047	58,022,542	目的別合計	
10,703,325	10,616,936	10,493,540	10,528,791	10,261,173	10,055,145	人件費	義務的経費
6,340,654	6,762,389	8,790,932	9,417,369	9,577,561	9,710,314	扶助費	
4,194,177	4,196,652	4,114,153	4,287,793	4,265,292	4,333,133	公債費	
21,238,156	21,575,977	23,398,625	24,233,953	24,104,026	24,098,592	小計	
4,443,528	7,123,482	4,372,356	7,613,493	5,960,753	3,825,552	普通建設事業費 (補助)	投資的経費
7,437,090	6,767,459	8,575,512	7,191,378	9,805,921	8,788,753	普通建設事業費 (単独)	
		21,161	379,596		177,182	災害復旧事業費	
11,880,618	13,890,941	12,969,029	15,184,467	15,766,674	12,791,487	小計	
9,378,071	9,575,814	9,771,695	9,937,302	9,948,726	10,087,854	物件費	歳出 (性質別)
611,543	596,048	603,239	617,703	577,998	568,740	維持補修費	
2,905,545	6,011,481	3,327,384	4,112,952	3,369,125	3,564,846	補助費等	
2,165,627	2,534,450	2,493,151	2,638,721	2,685,152	2,797,523	経常的繰出金	
2,479,286	48,393	87,815	1,643,651	1,245,074	1,671,032	積立金	
1,152,549	1,096,954	1,094,036	1,105,498	1,123,181	1,185,353	投資・出資金・貸付金	
1,516,131	1,585,516	1,041,722	1,430,519	1,279,091	1,257,115	臨時的繰出金	
						前年度繰上充用金	
20,208,752	21,448,656	18,419,04	21,486,346	20,228,347	21,132,463	小計	
53,327,526	56,915,574	54,786,696	60,904,766	60,099,047	58,022,542	性質別合計	

※ 決算統計による区分及び金額に基づき表記してあるため、決算書の数値とは一致しません。

### 第3節 特別会計決算

#### ○決算額の推移

特別会計とは、特定の事業を行う場合に一般会計と区分して経理する必要があるときに設ける会計で、平成12年度には介護保険会計が新設され、平成17年度には合併により大栄診療所を対象とする国民健康保険会計の施設勘定、農業集落排水事業会計及び簡易水道事業会計が加わり、平成20年度には後期高齢者医療会計が新設、また、老人保健会計が平成22年度末で廃止され、現在8会計（9勘定）（企業会計を含む。）となっています。下水道事業や水道事業などは、その性格から施設整備の状況により決算額が増減していますが、国民健康保険は、医療費の増大により増加傾向にあります。第52図、第53図及び第19表（次頁）は、歳出決算額の推移を示しています。



第19表 決算額の推移

(単位：千円)

	昭和52年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
国民健康保険（事業勘定）	999,338	5,853,842	6,197,740	6,697,111	9,057,307	10,072,211
うち一般会計繰入	10,000	636,769	744,821	888,796	858,183	979,142
国民健康保険（施設勘定）				7,611	126,418	136,088
うち一般会計繰入						
下水道事業	627,173	2,575,217	2,412,950	2,272,096	2,189,476	2,156,961
うち一般会計繰入	122,674	871,729	746,005	794,810	877,967	595,694
公設地方卸売市場	154,986	364,383	402,719	238,208	240,518	238,903
うち一般会計繰入	57,746	209,894	266,615	83,642	85,572	104,019
老人保健		4,685,433	4,693,343	4,841,605	6,423,053	6,528,964
うち一般会計繰入		161,812	401,061	448,910	354,955	421,413
介護保険		2,402,228	2,565,517	2,683,178	3,361,398	3,689,360
うち一般会計繰入		311,357	365,646	383,962	455,819	494,996
学校給食センター	395,484					
うち一般会計繰入	166,864					
交通災害共済	10,659					
うち一般会計繰入	3,809					
農業集落排水事業				4,367	607,945	396,026
うち一般会計繰入					130,866	136,537
簡易水道事業				560	1,224,029	662,885
うち一般会計繰入					162,464	119,543
水道事業	242,719	2,472,894	2,244,498	2,468,887	3,252,092	3,190,272
うち一般会計繰入		96,348	105,269	165,206	143,692	135,966
特別会計合計	2,430,359	18,353,997	18,516,767	19,213,623	26,482,236	27,071,670
うち一般会計繰入	361,093	2,191,561	2,629,417	2,600,120	2,763,362	2,731,801

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
国民健康保険（事業勘定）	10,258,280	10,552,413	11,060,475	11,822,488	12,392,537	12,761,757
うち一般会計繰入	1,405,375	1,647,270	1,155,925	1,611,285	1,558,380	1,301,035
国民健康保険（施設勘定）	154,676	150,902	169,446	166,869	163,632	190,968
うち一般会計繰入						
下水道事業	2,054,024	2,118,922	1,904,951	2,078,831	1,894,252	2,421,308
うち一般会計繰入	555,542	605,055	482,295	478,303	521,321	631,061
公設地方卸売市場	266,209	221,987	203,424	213,640	200,243	211,173
うち一般会計繰入	129,345	95,985	56,775	71,902	79,670	60,883
老人保健	684,012	24,197	5,039			
うち一般会計繰入	0	121	1			
介護保険	3,894,106	4,051,738	4,311,858	4,686,791	5,158,187	5,366,803
うち一般会計繰入	498,811	552,324	582,436	654,323	685,921	739,162
学校給食センター						
うち一般会計繰入						
交通災害共済						
うち一般会計繰入						
農業集落排水事業	320,095	161,241	152,610	162,199	156,697	159,194
うち一般会計繰入	125,746	130,091	122,891	122,096	123,424	127,858
後期高齢者医療	645,338	682,388	708,552	743,569	762,913	791,111
うち一般会計繰入	131,118	134,552	148,011	149,673	138,947	171,673
簡易水道事業	534,909	293,676	334,284	339,395	344,717	381,423
うち一般会計繰入	146,608	183,646	216,857	204,641	188,164	208,507
水道事業	3,524,509	3,142,213	3,528,949	3,715,861	3,056,232	2,970,568
うち一般会計繰入	134,511	119,593	119,171	150,101	237,647	237,743
特別会計合計	22,336,158	21,399,677	22,379,588	23,929,643	24,129,410	25,254,305
うち一般会計繰入	2,845,937	3,468,637	2,884,362	3,442,324	3,533,474	3,477,922

※簡易水道事業及び水道事業は、収益的支出額と資本的支出額の合計額です。

学校給食センター特別会計は昭和63年度末、交通災害共済特別会計は平成10年度末、老人保健特別会計は、平成22年度末でそれぞれ廃止となりました。

## 第4節 財務分析

### 1) 財務分析

#### ○財政力指数

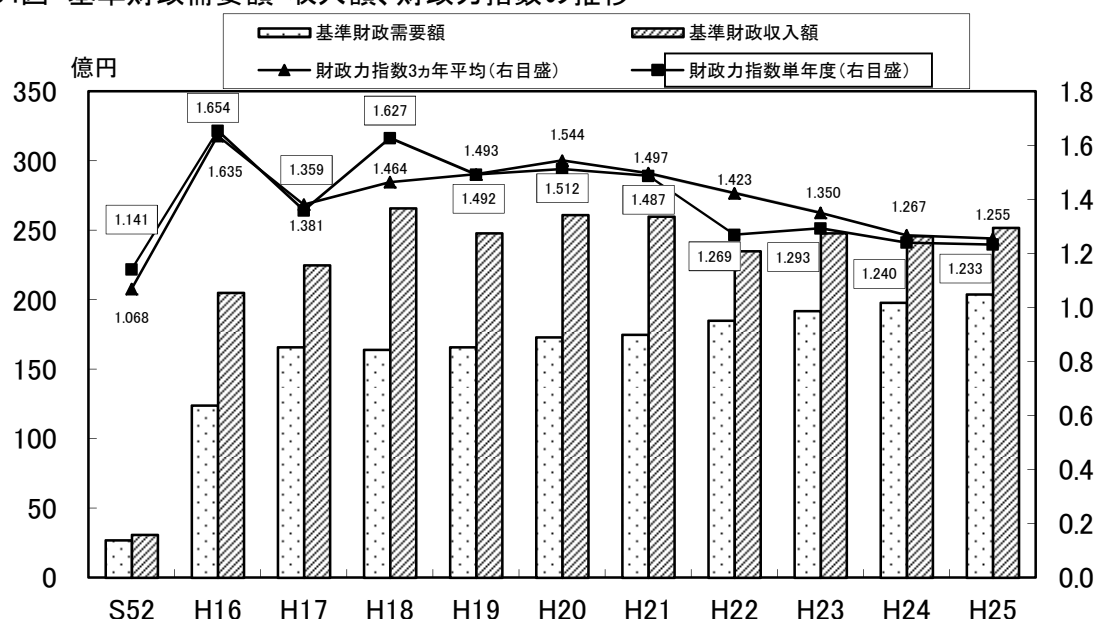
財政力指数は、地方公共団体の財政基盤の強弱を示す指数で、標準的な行政活動に必要な財源をどれくらい自力で調達できるかを表しており、普通交付税の算定基礎となる基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3ヵ年の平均値をいいます。

基準財政収入額が基準財政需要額を下回る場合は、それを補うために普通交付税が交付されます。本市の場合は大幅に上回っているため通常、普通交付税は交付されませんが、合併の特例措置により一定期間交付を受けることができます。財政力指数が「1」を超えている場合には、基準財政需要額を超えた分だけ通常水準を超えた行政活動が可能であるといえるため、財政力は高いといえます。

第54図は、基準財政需要額、基準財政収入額、財政力指数の推移です。

$$\text{財政力指数} = \frac{\text{基準財政収入額}}{\text{基準財政需要額}} \quad (3 \text{ ヵ年平均})$$

第54図 基準財政需要額・収入額、財政力指数の推移



#### 【用語解説】

##### ① 基準財政収入額、基準財政需要額

基準財政収入額とは、普通交付税の算定に用いるもので、各地方公共団体の財政力を合理的に測定するために、標準的な状態において徴収が見込まれる税収入等を一定の方法によって算定した額の合計額をいいます。

基準財政需要額とは、普通交付税の算定に用いるもので、各地方公共団体が合理的、かつ、妥当な水準における行政を行い、又は施設を維持するための財政需要を一定の方法によって合理的に算定した額をいいます。

## ○経常収支比率

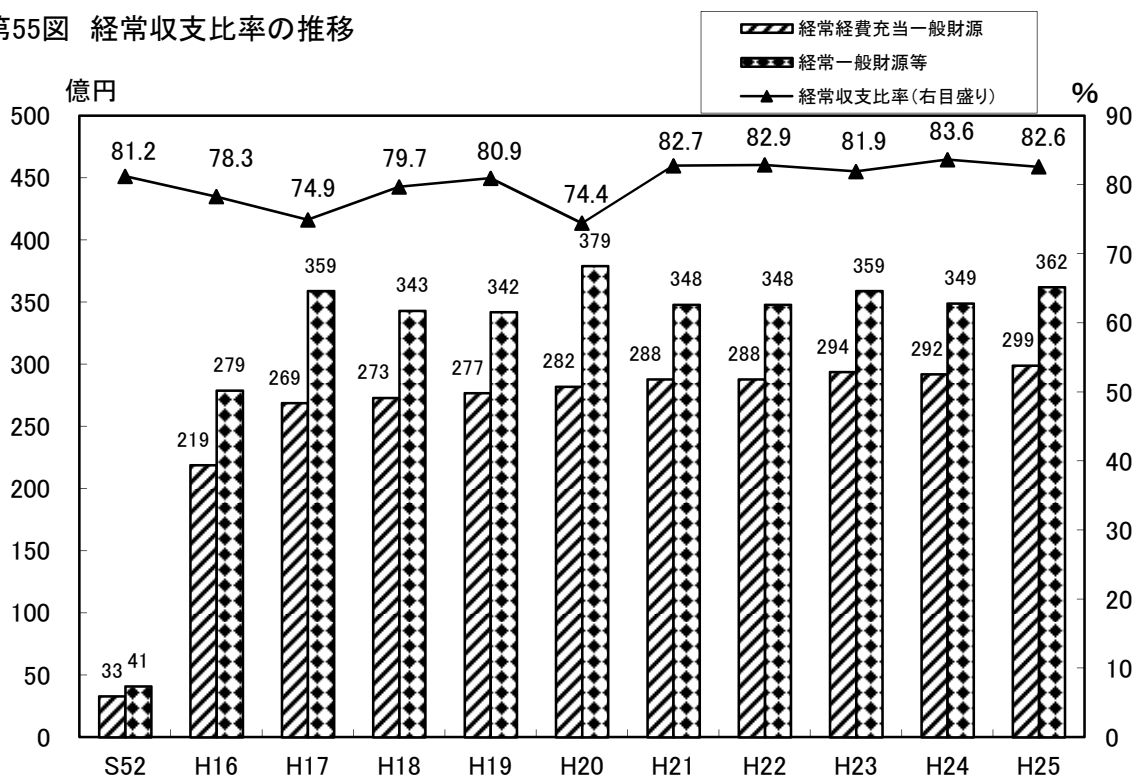
経常収支比率とは、財政構造の弾力性を判断するための指標で、税など毎年度経常的に収入される一般財源を、人件費、扶助費、公債費などの毎年度経常的に支出する経費にどの程度充当しているかを表す比率です。この比率が高いほど、公共施設の整備などの投資的な経費に充てる財源が少なくなり、財政運営が厳しくなります。

第 55 図は経常収支比率の推移を示しています。この 10 年間は、80%前後で推移しており財政の健全性を維持しています。平成 17 年度は法人市民税の増加などにより下がり、平成 18 年度以降再び上がりましたが、平成 20 年度は固定資産税の増加などにより下がりました。平成 21 年度及び平成 24 年度は、法人市民税並びに固定資産税の減少、扶助費の増加などにより上がりましたが、平成 25 年度は法人市民税並びに固定資産税の増加などにより下がっています。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費充当一般財源}}{\text{経常一般財源等}} \times 100$$

※ 経常一般財源等には、合併に伴い、平成 17 年度から旧下総町及び旧大栄町の臨時財政対策債が含まれています。

第55図 経常収支比率の推移





## 【用語解説】

### ① 一般財源

一般財源とは、歳入のうち税などのように使途が特定されず、どのような経費にも使用することができるものをいいます。また、生活保護費の負担金や道路整備のための補助金などのように、使途が限定されているものは、特定財源といいます。

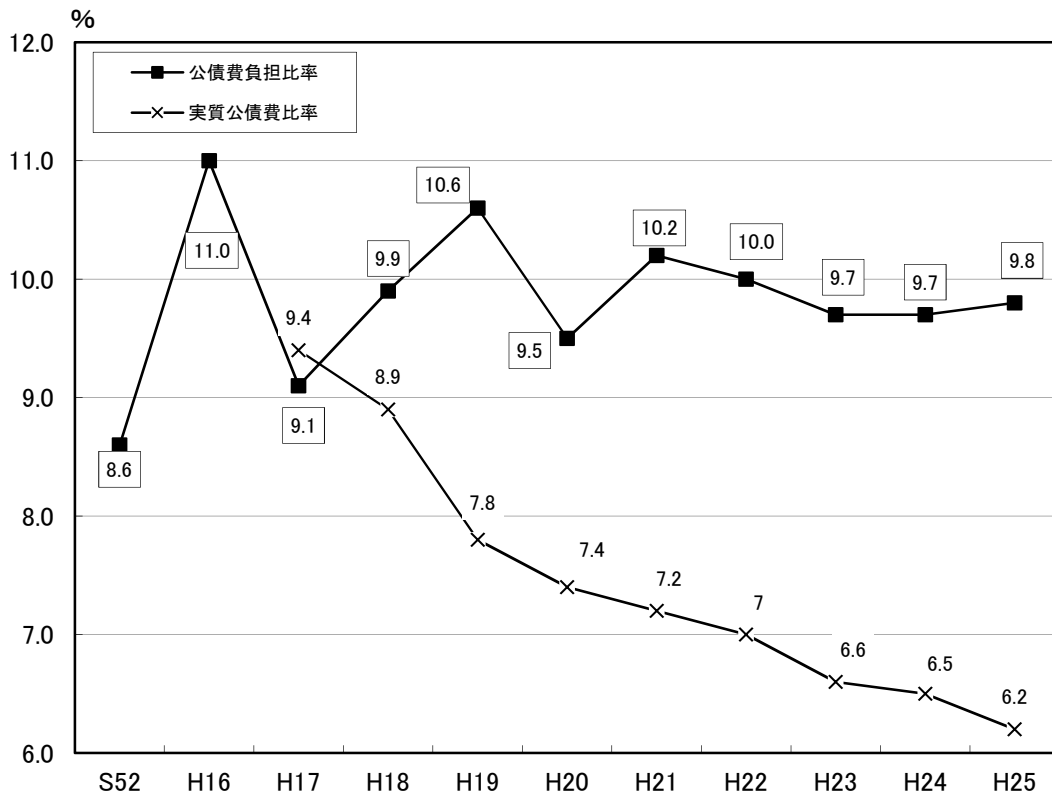
## ○市債

市債は、財政運営上の資金調達手段であると同時に、学校、道路、公園などの長期間にわたり効果を生ずる施設整備について、将来利用する住民の方々にもその一部を負担していただく方法として活用しています。

公債費はこの市債に対する元利償還金であり、義務的経費の中でも特に弾力性が乏しい経費であるので、その動向には十分留意する必要があります。

この公債費の財政負担の割合を判断する指標には、「公債費負担比率」、「実質公債費比率」などがあります。第56図は各指標の推移を示しています。

第56図 公債費に関する指標



・ **公債費負担比率**

公債費負担比率とは、一般財源総額に対する公債費に充当された一般財源（一時借入金利子等を含む）の占める割合を表す比率です。すなわち、公債費により一般財源の用途がどの程度制約されているかをみるものであり、財政構造の弾力性を判断する指標となります。本市は、10%前後で推移しており財政構造の弾力性を維持しています。平成 16 年度の比率が 11%と高い理由は、減税補てん債の一括償還という一時的なものによるものです。

$$\text{公債費負担比率} = \frac{\text{公債費充当一般財源}}{\text{一般財源総額}} \times 100$$

・ **実質公債費比率**

実質公債費比率とは、平成 18 年度に地方債制度が「許可制度」から「協議制度」に移行したことに伴い設けられた新たな財政指標で、標準財政規模に占める実質的な公債費に費やした一般財源の割合の 3 カ年の平均値をいいます。

従来の公債費負担比率との主な相違点は、上水道などの公営企業等の支出する元利償還金への一般会計からの繰出金、一部事務組合等の地方債の元利償還金に対する負担金及び公債費に準ずる債務負担行為に係る額を準元利償還金として算入していることにあります。

この実質公債費比率が 18%を超えると地方債許可団体となり、25%を超えると単独事業の起債が認められなくなり、35%以上の団体は、これらに加えて一部の一般公共事業債についても制限されることとなります。本市の平成 25 年度の実質公債費比率は 6.2%となっています。

$$\text{実質公債費比率} = \frac{(\text{公債費充当一般財源}) + (\text{準公債費充当一般財源}) - (\text{基準財政需要額算入公債費及び準公債費})}{(\text{標準財政規模}) - (\text{基準財政需要額算入公債費及び準公債費})} \times 100$$

## 【用語解説】

### ① 標準財政規模

標準財政規模とは、市が標準的な状態で通常収入されるであろう一般財源の規模を示すもので、市が通常水準の行政サービスを提供する上で必要な一般財源の目安となる数値です。

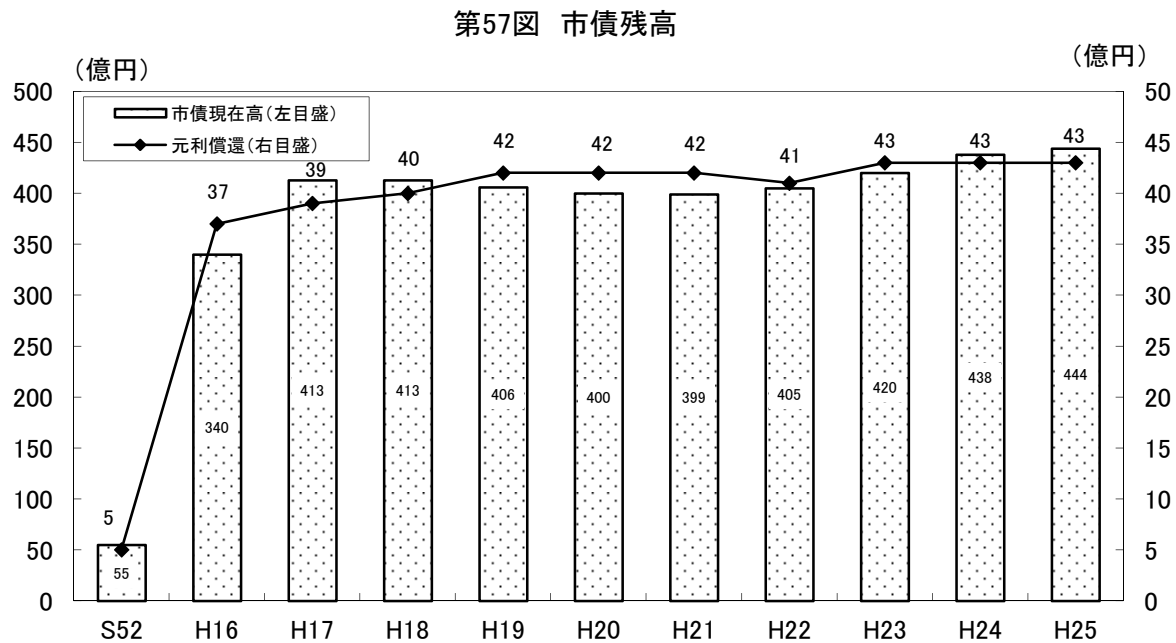
$$\text{算式} = \{ \text{基準財政収入額} - (\text{所得割における税源移譲相当額の 25\%}) - \text{地方譲与税} - \text{交通安全対策特別交付金} \} \times 100/75 + \text{地方譲与税} + \text{交通安全対策特別交付金} + \text{普通交付税} + \text{臨時財政対策債発行可能額}$$

### ② 債務負担行為

予算は単一年度で完結することが原則ですが、将来にわたる支払い義務に対応するため、あらかじめ後年度の債務を約束する行為を債務負担行為といいます。これを行う場合には、その事項、期間及び限度額について予算の項目の一つとして定める必要があります。

## ・市債残高

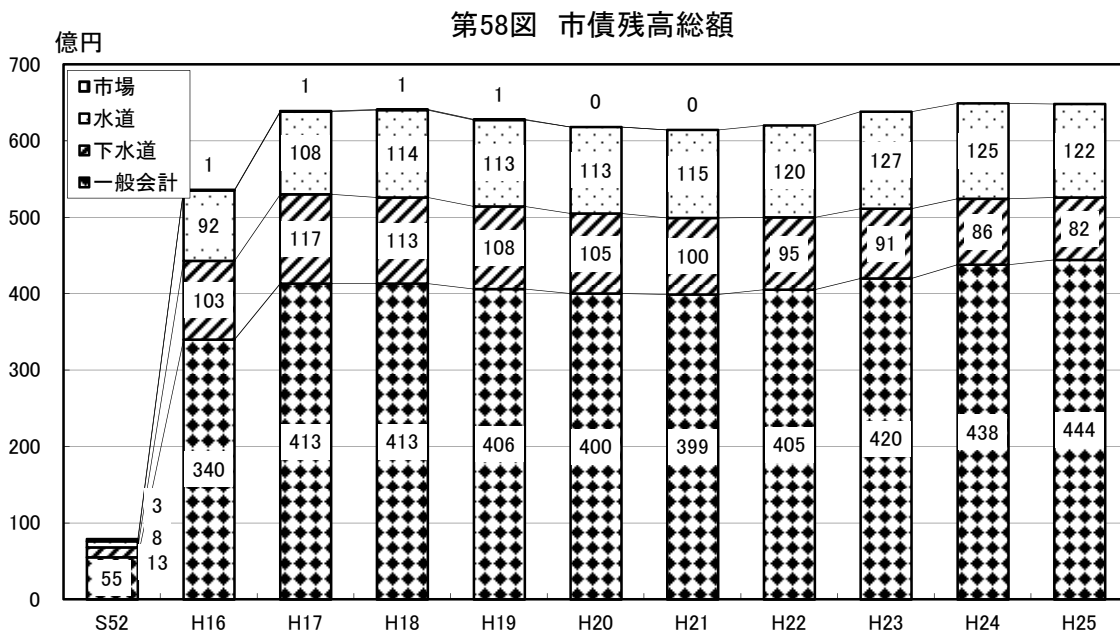
市債残高は施設整備の進捗に伴い 400 億円を超える水準にあり、公債費（元利償還金）は平成 16 年度以降、40 億円前後で推移しています。第 57 図は市債残高と公債費の推移を示しています。



・ 特別会計を含めた市債残高総額

特別会計を含めた市債残高は平成 21 年度までは緩やかに減少していましたが、平成 22 年度からは野球場整備事業、公津の杜複合施設整備事業、新清掃工場整備事業など大規模事業の影響により増加に転じ、平成 24 年度から平成 25 年度にかけてはほぼ横ばいで推移しています。上下水道事業を含めた平成 25 年度末の市債残高総額は 648 億円となっています。市民一人当たりの市債残高は約 493,582 円となります。第 58 図は市債残高総額の推移を示しています。

※平成 25 年度末市債残高（647 億 7,421 万円）÷平成 26 年 3 月末人口（131,233 人）  
 ≒493,582 円



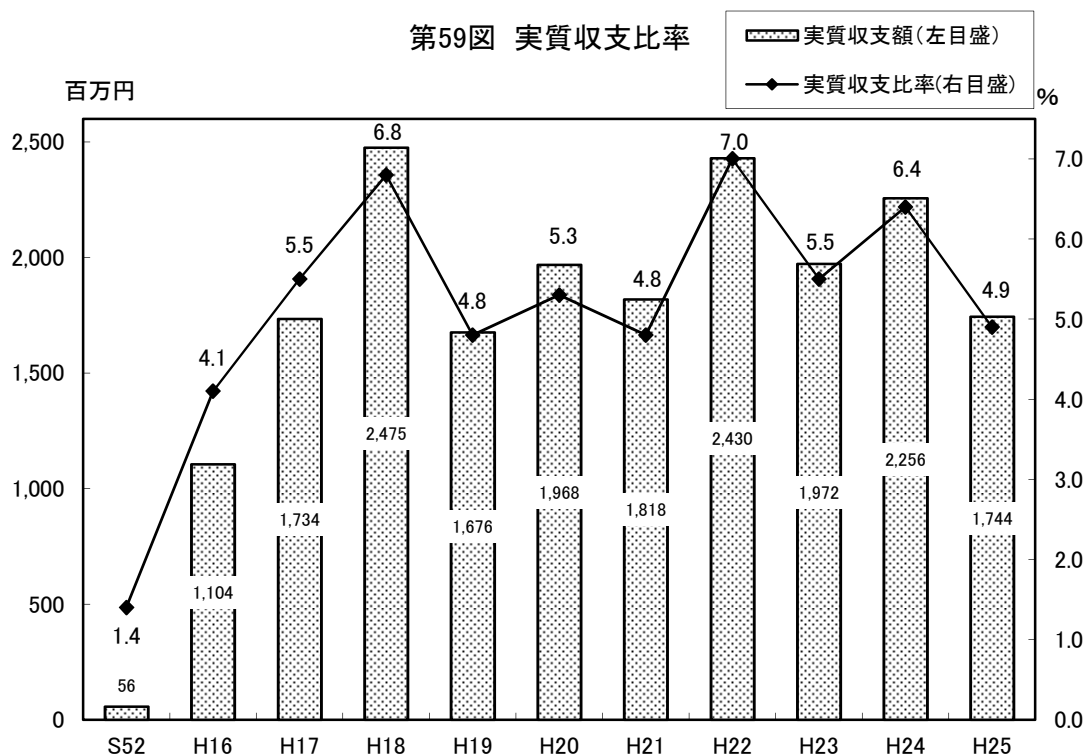
・ 水道には簡易水道事業を、下水道には農業集落排水事業を含んでいます。

## ○実質収支比率

実質収支比率とは、標準財政規模に対する実質収支の割合をいいます。実質収支は、その年度に属すべき収入と支出の実質的な差額（形式収支から翌年度に繰越すべき財源を差し引いたもの）で、当該団体の純剰余又は純損失を意味するものであり、財政運営の状況を判断する指標の一つとなります。一般的には、3～5%程度が望ましいとされていますが、都道府県においてはマイナス5%、市町村においてはマイナス20%以上になると、財政再建計画を策定して財政再建を行う場合でなければ地方債をもって公共施設等の建設事業の財源とすることができなくなります。

第59図は実質収支比率の推移を示しています。年度によって増減はありますが、概ね望ましい範囲内で推移しており、財政運営の健全性を維持しています。

$$\text{実質収支比率} = \frac{\text{実質収支額}}{\text{標準財政規模}} \times 100$$



## ○将来負担比率

将来負担比率とは、平成19年度決算から地方公共団体の財政の健全化に関する法律によって新たに導入された4つの財政指標の1つで、地方公共団体の借入金など、現在抱えている負債の大きさを、その地方公共団体の標準財政規模に対する割合で表したものです。この比率が、早期健全化基準である350%以上になると、早期健全化団体に指定され、財政健全化計画の策定が義務付けられます。

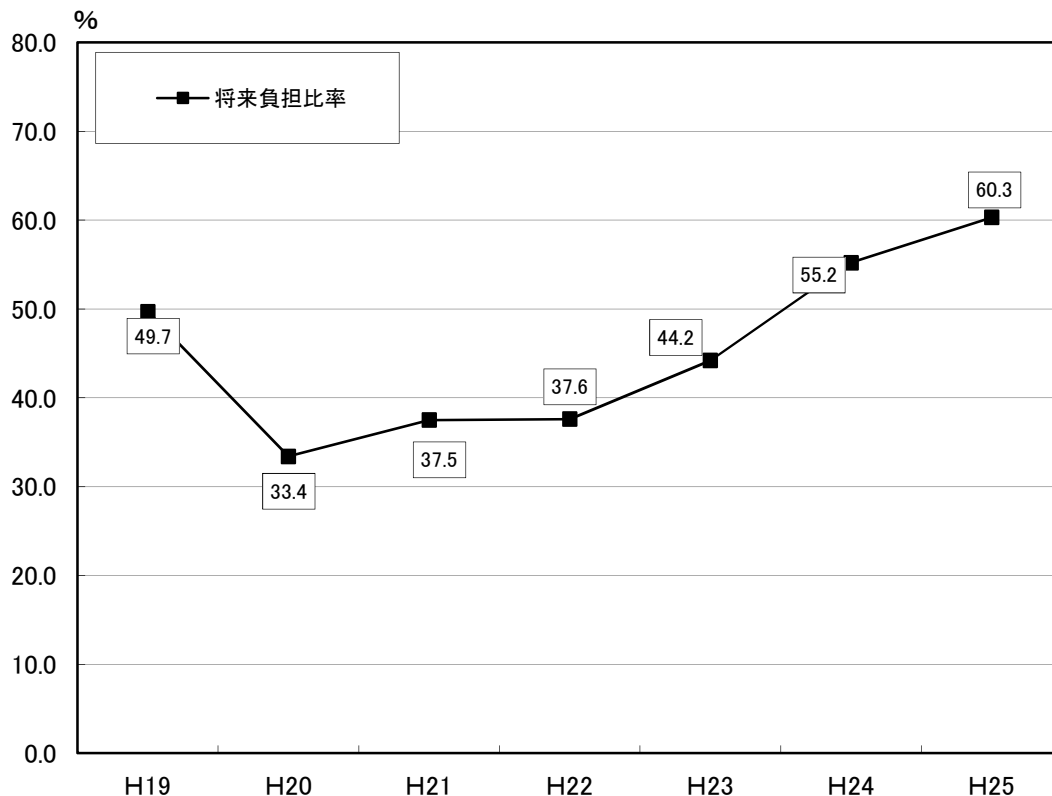
本市の平成25年度の将来負担比率は60.3%で、早期健全化基準を大幅に下回っており、財政運営の健全性を維持しています。

第 60 図は将来負担比率の推移を示しています。

将来負担比率＝

$$\frac{\text{(将来負担額)} \times 100}{\text{(標準財政規模)} - \text{(元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額)}} = \frac{\text{(充当可能基金額} + \text{特定財源見込額} + \text{地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額)}}{\text{(標準財政規模)} - \text{(元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額)}} \times 100$$

第60図 将来負担比率



## ○基金

基金は、積立基金と定額運用基金の2つに区分されます。

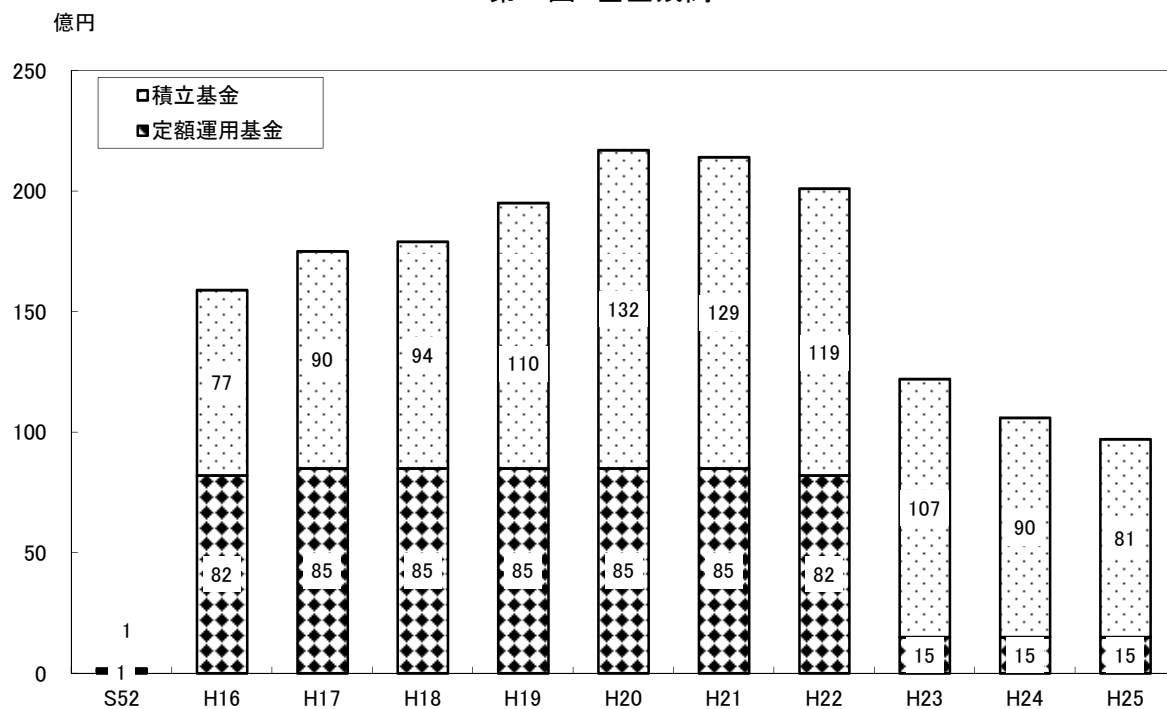
積立基金とは、特定の目的のために資金を積み立て、必要な時に取崩して使用することで財源の調整機能を果たすものです。平成 25 年度は財政調整基金などに積立を行っています。

定額運用基金とは、土地開発基金のように特定の目的のために定額の資金を運用するものです。

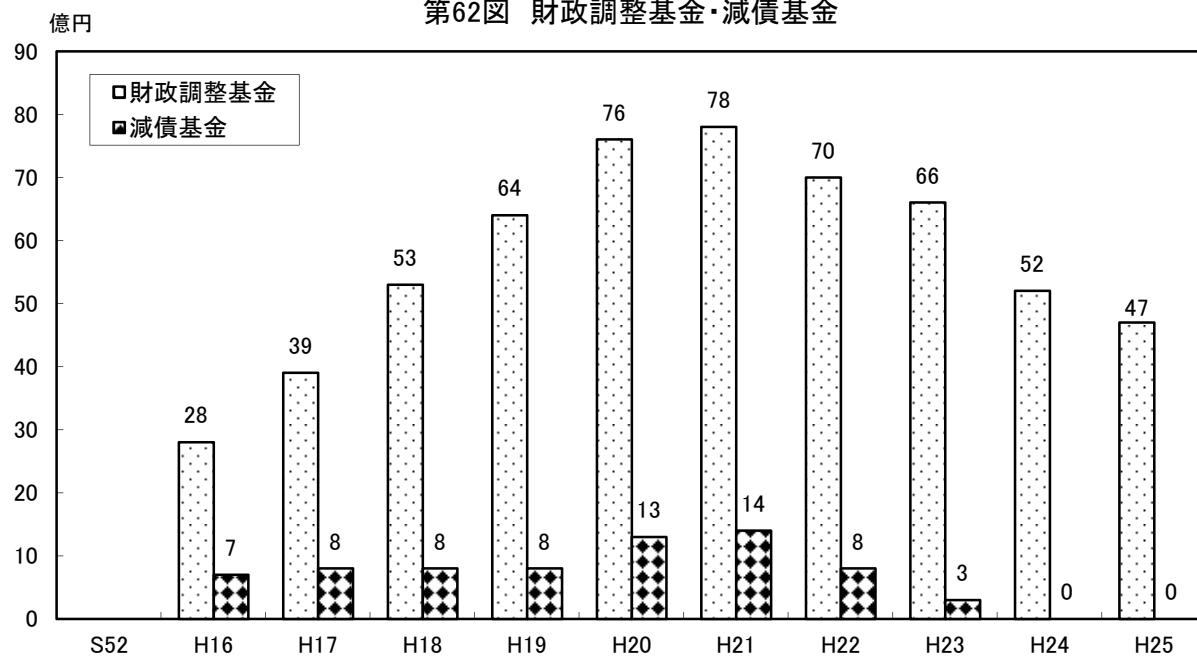
第 61 図及び第 62 図（いずれも次頁）は基金残高の推移を示しています。また、第 20 表（次々頁）は市の保有する基金の状況です（水道事業会計分は除く。）。平成 23 年度における大幅な減額は、土地開発基金の利用状況を踏まえ、基金の適正化を図るため、条例改正を行い財産区分の変更を行ったことによるものです。平成 25 年度の基金残高は、財政調整基金、高齢者社会対策基金などの取崩しにより、前年度と比較

して9億円の減となりました。今後も安全で有利な有価証券への預託など引き続き適正な運用に努めていきます。

第61図 基金残高



第62図 財政調整基金・減債基金



第20表 基金推移

区 分		昭和52年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
積立基金	財政調整基金	7,836	2,782,774	3,878,423	5,279,415	6,388,810
	庁舎再建設基金	12,258	1,215	1,215	1,216	1,218
	減債基金		726,244	752,323	763,970	822,459
	社会福祉事業基金	8,888	192,520	449,236	194,126	198,055
	開発整備基金	80,000				
	一世紀夢の基金		4,026	4,027	4,031	4,043
	ふるさと基金		261,800	291,800	291,800	291,800
	空港周辺対策事業基金		1,113,457	1,013,566	916,923	1,261,177
	国際交流基金		200,000	214,066	214,066	214,066
	高齢者社会対策基金		450,000	507,882	507,882	507,882
	と畜場跡地整備基金		76,511	78,504	80,632	80,915
	子ども夢基金		18,477	16,280	13,257	10,678
	中学校建設基金		1,479,798	545,240		
	交通・火災共済財政調整基金	16,336				
	国民健康保険財政調整基金（事業勘定）	13,928	69,864	129,337	129,467	129,706
	国民健康保険財政調整基金（施設勘定）			125,142	122,947	123,205
	介護保険財政調整基金		328,016	529,715	470,750	519,182
	大栄工業団地汚水処理施設等維持管理基金			201,808	201,970	202,320
	準用河川天昌寺川整備基金			200,492	200,644	201,131
	伊能歌舞伎基金			20,000	17,570	15,140
	介護従事者処遇改善臨時特例基金					
文化基金						
東日本大震災復興基金（「がんばろう！千葉」市町村復興基金）						
積立基金 合計		139,246	7,704,702	8,959,056	9,410,666	10,971,787
定額運用基金	国民年金印紙調達基金	15,000				
	用品調達基金	1,000	5,000			
	交通遺児及び母子家庭等就学資金貸付基金	1,781	23,845	23,845	23,845	23,845
	土地開発基金	96,961	7,783,817	8,075,741	8,076,333	8,077,445
	文化基金		398,951	399,111	400,771	402,713
	国民健康保険出産費資金貸付基金		5,000	6,000	6,000	6,000
	国民健康保険高額医療費資金貸付基金		6,000	10,000	10,000	10,000
	農業集落排水事業宅内接続費資金貸付基金			5,000	5,000	5,000
定額運用基金 合計		114,742	8,222,613	8,519,697	8,521,949	8,525,003
基金 合計		253,988	15,927,315	17,478,753	17,932,615	19,496,790



(単位:千円)

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	区 分
7,566,162	7,803,702	7,037,572	6,590,352	5,241,707	4,717,251	財政調整基金
1,222	1,223	1,224	1,225	1,225	1,225	庁舎再建設基金
1,325,630	1,378,219	830,984	267,909	910	911	減債基金
199,384	200,917	201,108	151,260	100,360	4,428	社会福祉事業基金
						開発整備基金
4,054	4,060	4,063	4,065	4,067	4,069	一世紀夢の基金
291,800	291,800	291,800	354,100	354,100	354,100	ふるさと基金
1,620,335	1,187,967	1,234,683	1,233,721	1,239,359	1,204,136	空港周辺対策事業基金
214,066	214,066	214,066	213,834	211,992	211,159	国際交流基金
507,882	507,882	509,969	506,873	491,803	352,612	高齢者社会対策基金
85,106	87,185	89,238	90,445	81,088	83,119	と畜場跡地整備基金
9,064	7,372	5,626	2,304	765	443	子ども夢基金
						中学校建設基金
						交通・火災共済財政調整基金
129,996	130,171	130,295	130,393	491	491	国民健康保険財政調整基金(事業勘定)
117,126	124,143	133,909	129,194	131,769	104,157	国民健康保険財政調整基金(施設勘定)
605,191	539,411	425,818	206,269	351,685	329,315	介護保険財政調整基金
202,772	203,101	203,326	203,524	203,742	203,865	大栄工業団地汚水処理施設等維持管理基金
201,580	201,847	202,048	202,230	190,072	179,296	準用河川天昌寺川整備基金
12,710	10,280	7,850	6,420	5,065	3,710	伊能歌舞伎基金
38,537	15,822	3,946				介護従事者処遇改善臨時特例基金
		409,376	405,316	407,495	409,668	文化基金
				37,725	7,405	東日本大震災復興基金(「がんばろう!千葉」市町村復興基金)
13,132,617	12,909,168	11,936,901	10,699,434	9,055,420	8,171,360	積立基金 合計
						国民年金印紙調達基金
						用品調達基金
23,845	23,845	23,845	23,845	23,845	23,845	交通遺児及び母子家庭等就学資金貸付基金
8,079,102	8,079,924	8,109,575	1,500,000	1,500,000	1,500,000	土地開発基金
405,251	407,174					文化基金
6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	国民健康保険出産費資金貸付基金
10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	国民健康保険高額医療費資金貸付基金
5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	農業集落排水事業宅内接続費資金貸付基金
8,529,198	8,531,943	8,154,420	1,544,845	1,544,845	1,544,845	定額運用基金 合計
21,661,815	21,441,111	20,091,321	12,244,279	10,600,265	9,716,205	基金 合計

※開発整備基金は平成10年度末、中学校建設基金は平成18年度末、交通・火災共済財政調整基金は平成10年度末、介護従事者処遇改善臨時特例基金は平成23年度末、国民年金印紙調達基金は平成15年3月17日、用品調達基金は平成17年度末でそれぞれ廃止となりました。文化基金は平成22年10月1日より定額運用基金から積立基金へ移行しています。

## 2) 主な財政指標の全国比較（平成 24 年度決算）

市の財政状況を判断する指標として、ここまでに様々な財政指標を掲載してきました。財政力指数、経常収支比率、公債費に係る各種比率など、いずれの指標においても本市の財政状況が健全であるということを示しています。ここでは、全国の都道府県及び市町村の平均値並びに近隣及び類似団体の状況と比較することにより、本市の財政状況を分析していきます。なお、県外の団体については、本書作成時点で平成 25 年度決算の財政指標が把握できないため、平成 24 年度決算にて比較します。

類似団体は、「人口規模や産業構造が同じような条件及び状況にある団体」をもとに、第 21 表のように分類されています。本市はⅢ－1 に分類されますので、同類型の団体を中心にみていきます。（類型は異なりますが、近隣市の状況も掲載します。）

第 21 表 都市の類型区分

産業構造		Ⅱ次、Ⅲ次 95%以上		Ⅱ次、Ⅲ次 95%未満	
		Ⅲ次 65%以上	Ⅲ次 65%未満	Ⅲ次 55%以上	Ⅲ次 55%未満
人口構造	人口	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ
	類型	3	2	1	0
50,000 人未満	Ⅰ	Ⅰ－3	Ⅰ－2	Ⅰ－1	Ⅰ－0
50,000 人以上 100,000 人未満	Ⅱ	Ⅱ－3	Ⅱ－2	Ⅱ－1	Ⅱ－0
100,000 人以上 150,000 人未満	Ⅲ	Ⅲ－3	Ⅲ－2	<b>Ⅲ－1 (成田市)</b>	Ⅲ－0
150,000 人以上	Ⅳ	Ⅳ－3	Ⅳ－2	Ⅳ－1	Ⅳ－0

（注）人口及び産業構造は、平成 22 年国勢調査による。

第 22 表 比較対象都市の状況（歳出）

（人口：H25. 3. 31 現在）

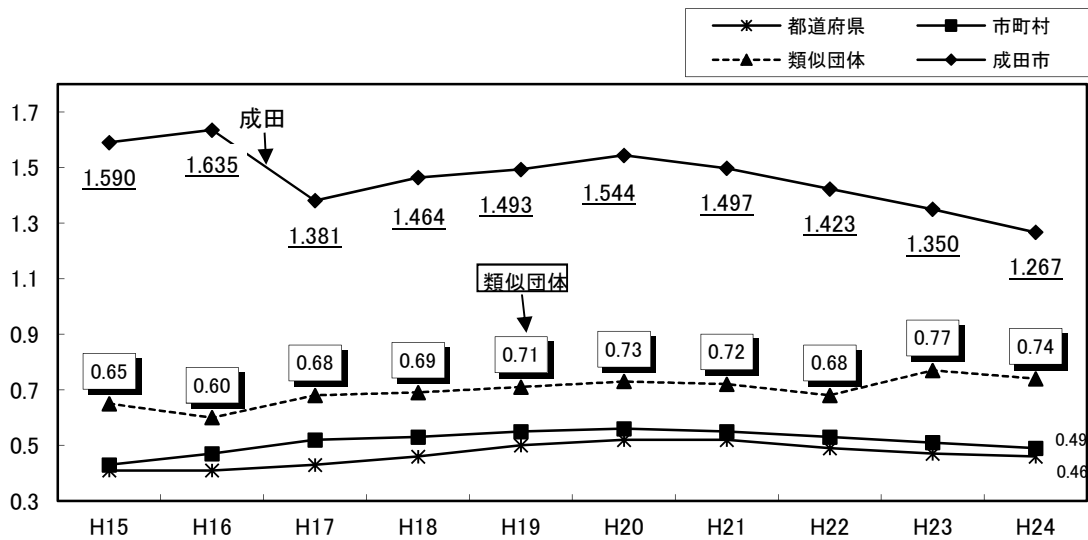
団体名	人口	平成 24 年度決算額	1 人当り決算額	類 型
成 田 市	130,469 人	60,099,047 千円	460,639 円	Ⅲ－1
木更津市	131,760 人	38,309,855 千円	290,755 円	Ⅲ－1
佐 倉 市	177,740 人	41,243,522 千円	232,044 円	Ⅳ－1
四街道市	90,711 人	23,196,903 千円	255,723 円	Ⅱ－1
印 西 市	92,489 人	30,296,346 千円	327,567 円	Ⅱ－1
土 浦 市	145,843 人	49,516,284 千円	339,518 円	Ⅲ－1
鴻 巣 市	120,036 人	38,091,032 千円	317,330 円	Ⅲ－1
新 発 田 市	101,767 人	43,347,213 千円	425,946 円	Ⅲ－1
藤 枝 市	146,214 人	42,116,785 千円	288,049 円	Ⅲ－1
八 代 市	132,775 人	55,690,075 千円	419,432 円	Ⅲ－1

## ○財政力指数

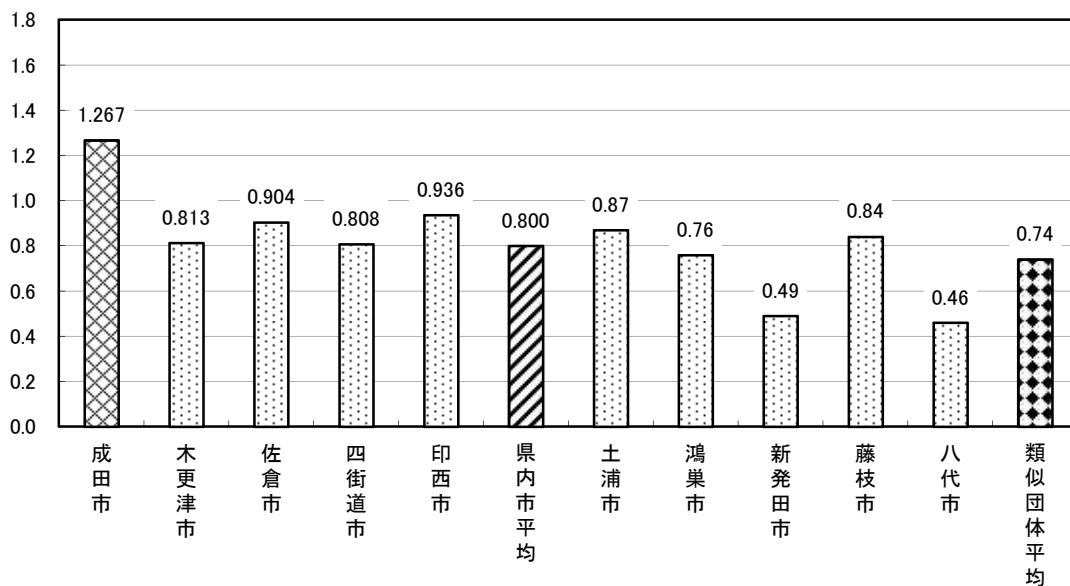
財政力指数が1に満たない団体には普通交付税が交付されます。平成24年度は、全国の都道府県を含む1,766団体のうち1,711団体に交付されました。また、不交付団体は全国で55団体あり、県内では、成田市、市川市、市原市、浦安市、袖ヶ浦市の計5団体となりました。(成田市は不交付団体ですが、合併特例の適用により普通交付税が交付されます。)

第63図及び第64図は全国及び他市の財政力指数の状況ですが、本市の財政力指数が高いことがわかります。

第63図 財政力指数(全国比較)



第64図 財政力指数(他市比較)

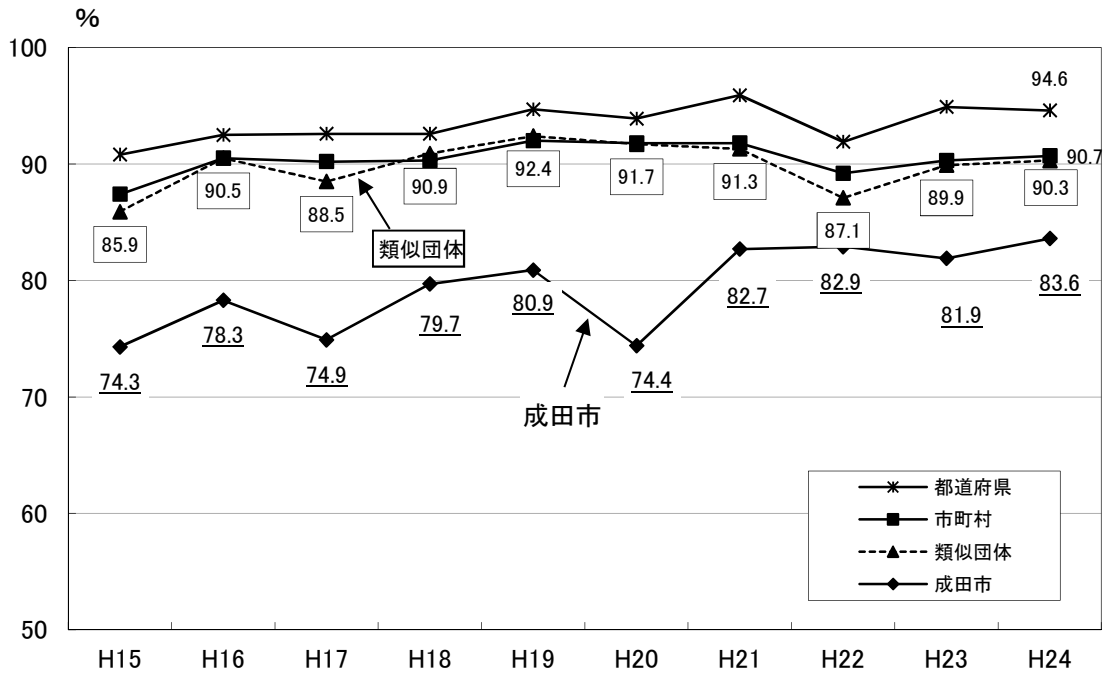


## ○経常収支比率

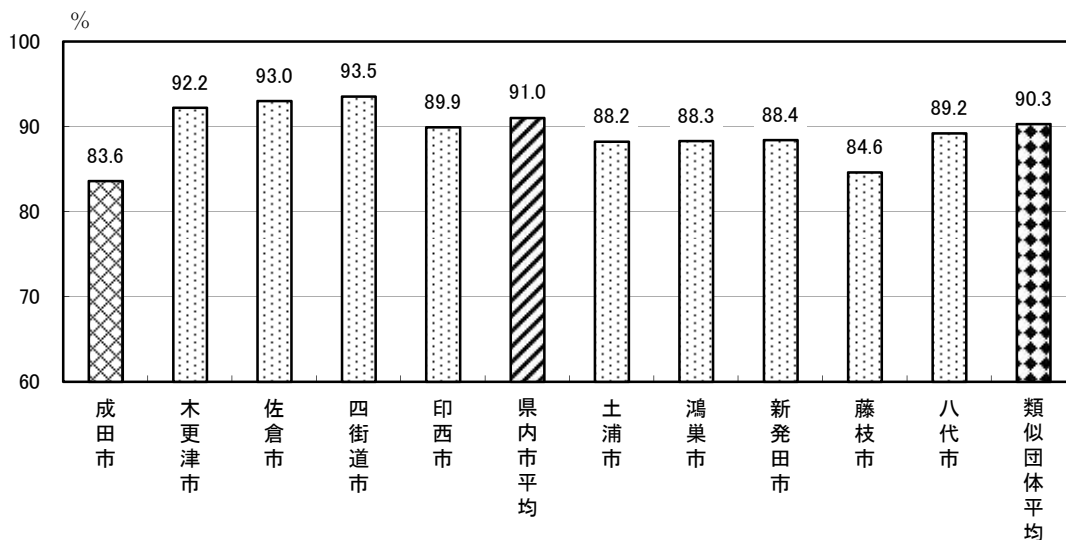
経常収支比率は、経常的支出に充てられた経常一般財源の比率を示すものであり、本市では、類似団体と比較して、低い水準で推移しています。

第 65 図及び第 66 図は全国及び他市の経常収支比率の状況です。

第65図 経常収支比率(全国比較)



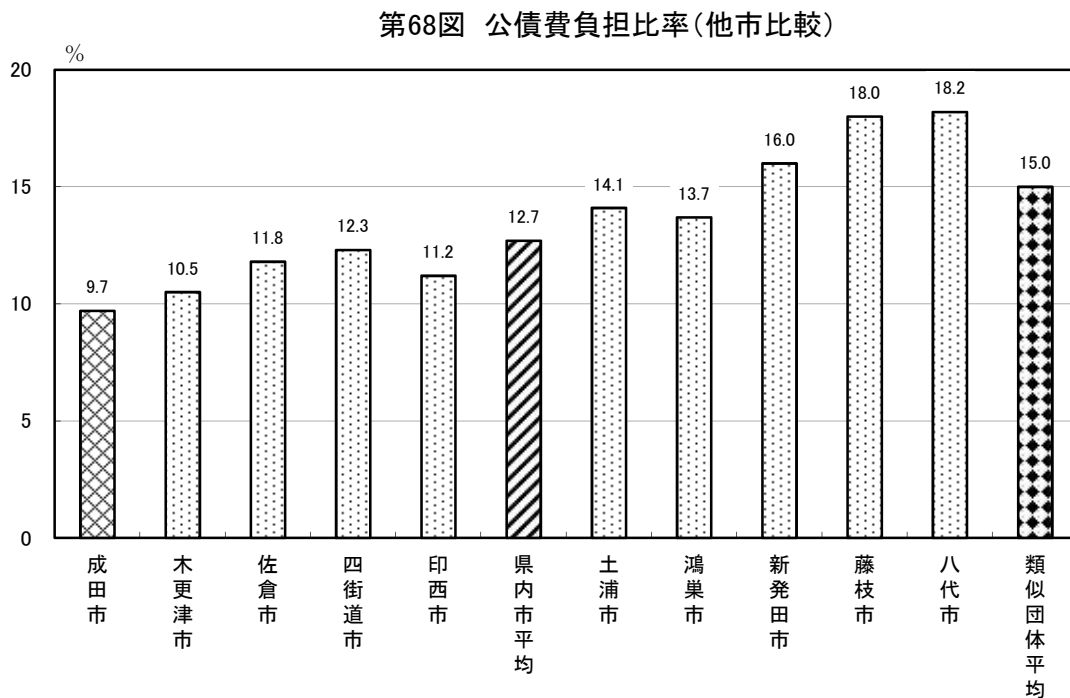
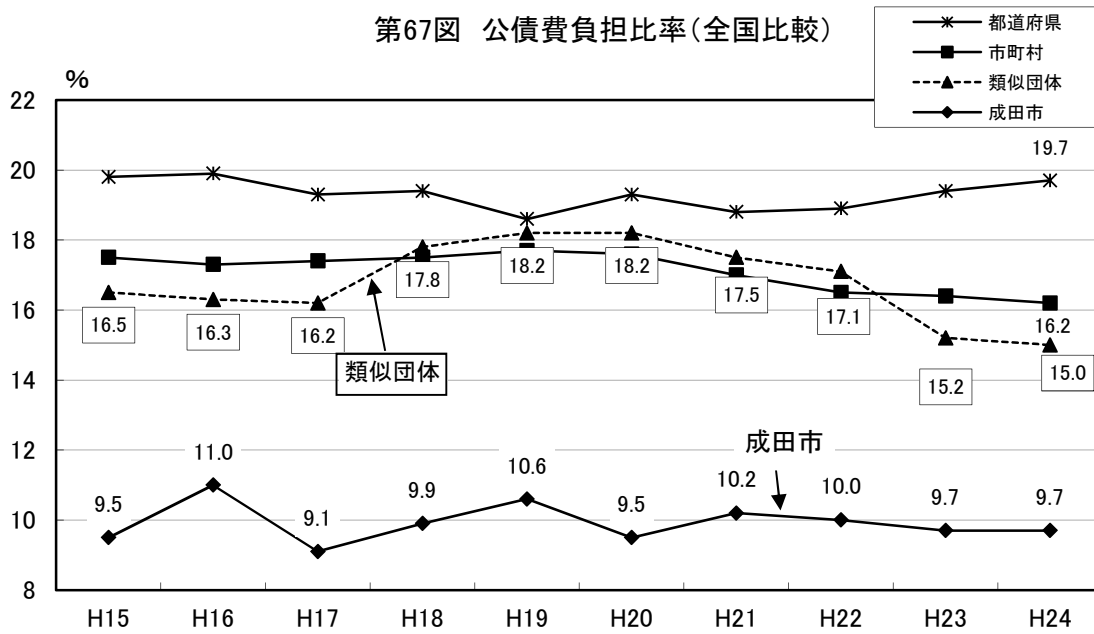
第66図 経常収支比率(他市比較)



## ○公債費負担比率

公債費負担比率は、一般財源が地方債の元利償還金にどの程度充当されているかの割合を示す指標です。本市では、類似団体と比較して、低い水準で推移しており財政の健全性を確保しています。

第 67 図及び第 68 図は全国及び他市の公債費負担比率の状況です。

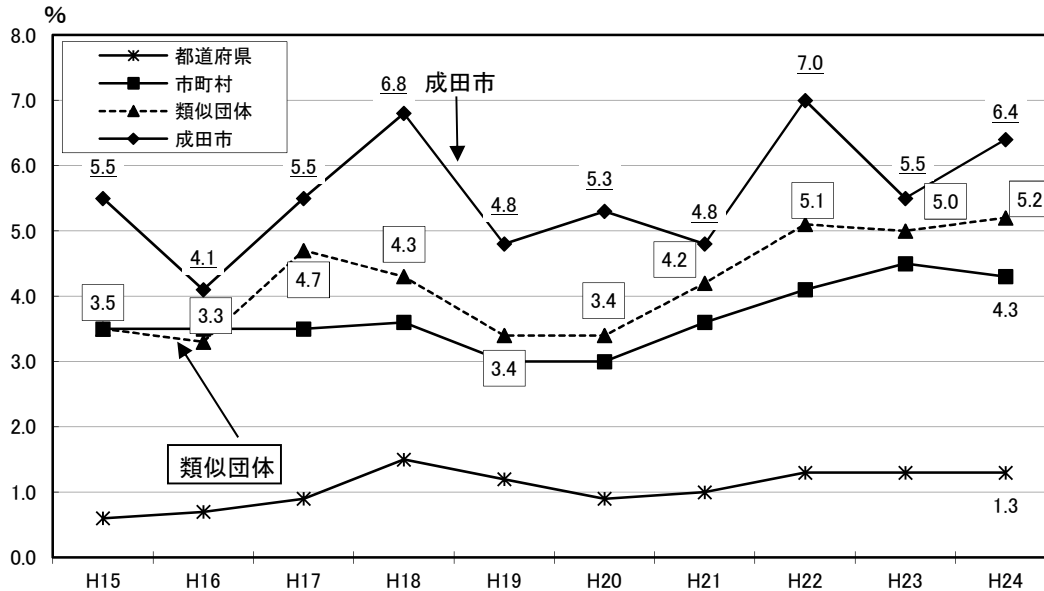


## ○実質収支比率

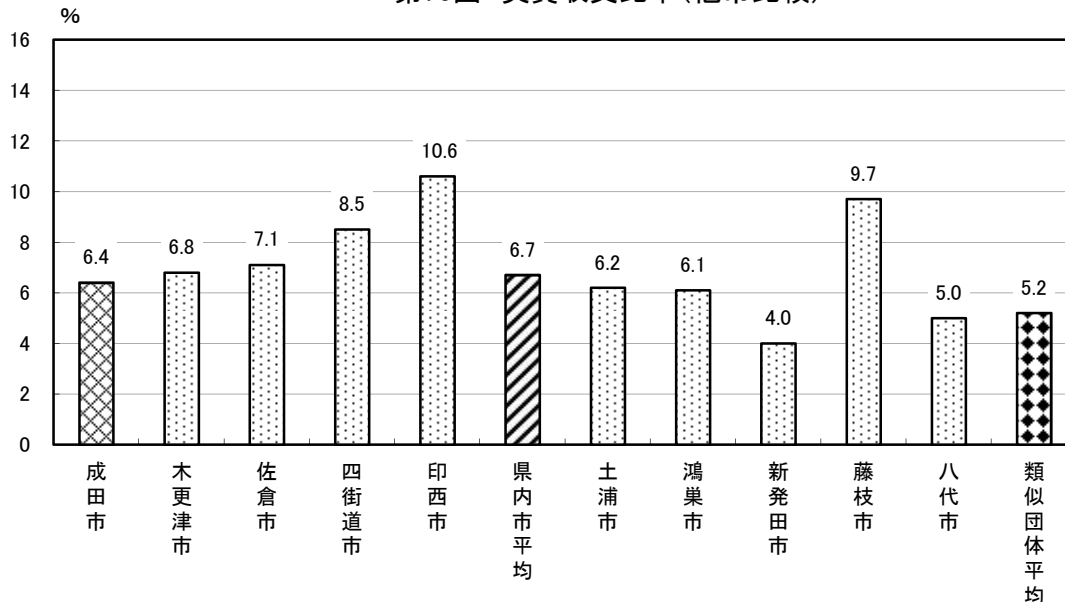
実質収支比率は、3~5%程度が望ましいとされています。本市では類似団体と比較すると、増減の幅は大きいものの概ね良好な範囲で推移しています。全国的にみると、都道府県においては、大変低い水準で推移しており、厳しい財政状況が続いています。

第69図及び第70図は全国及び他市の実質収支比率の状況です。

第69図 実質収支比率(全国比較)



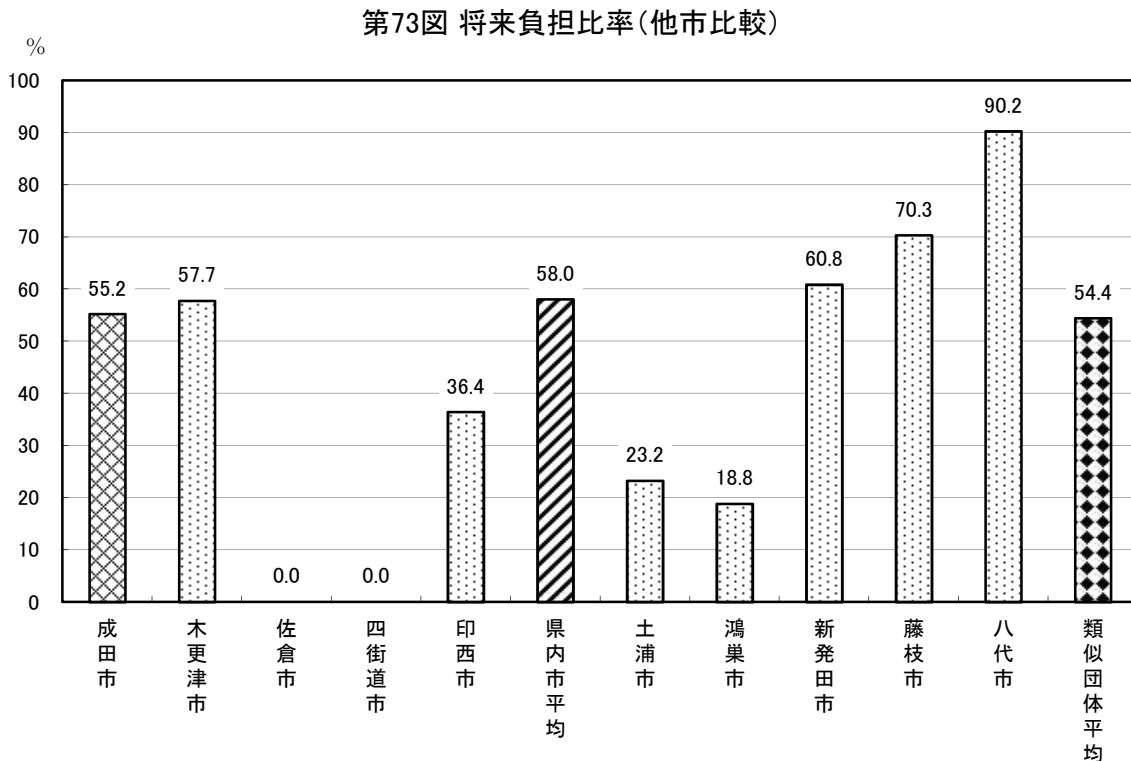
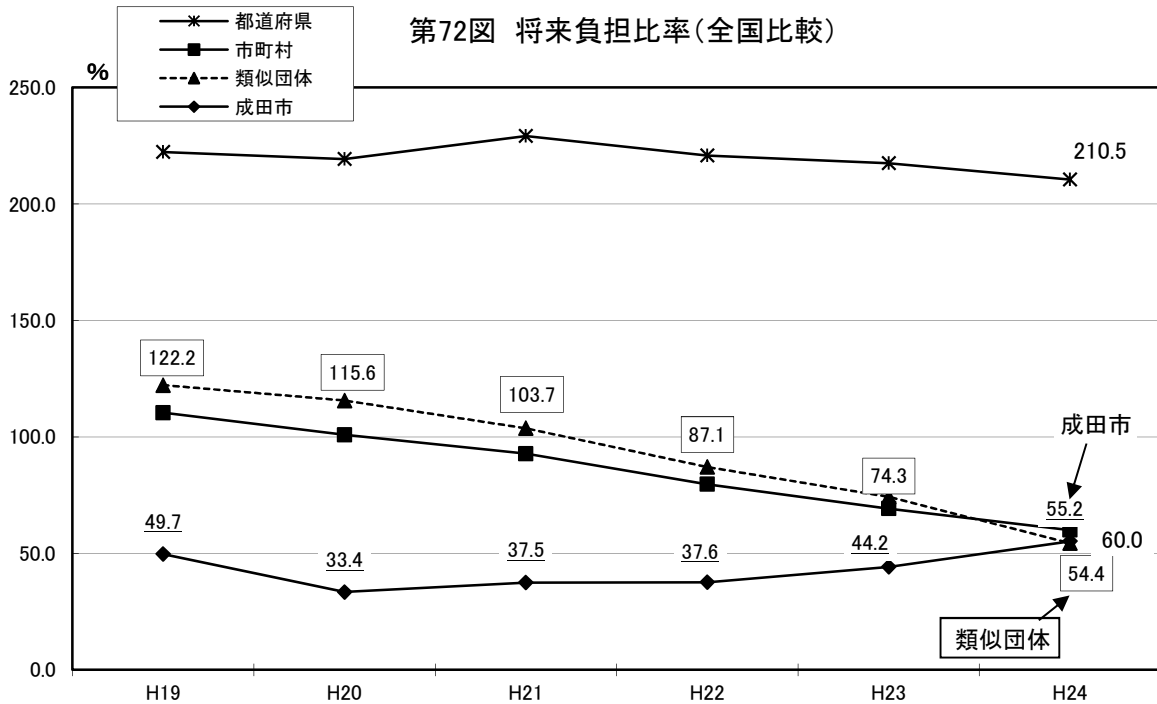
第70図 実質収支比率(他市比較)



## ○将来負担比率

将来負担比率の早期健全化基準は、都道府県・政令市では 400%、市町村では 350%となっています。本市は平成 20 年度以降徐々に数値が上昇し、平成 24 年度指標では類似団体とほぼ同じ数値となっております。比率の上昇は見られますが、良好な範囲で推移しています。

第 72 図及び第 73 図は全国及び他市の将来負担比率の状況です。



## 第5節 財政健全化法の財政指標

### 1) 健全化判断比率及び資金不足比率

この財政指標（健全化判断比率及び資金不足比率）は、地方公共団体の財政が悪化した場合に早期に健全化することを目的に、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、設けられたものです。

本市の数値は、どの財政指標においても早期健全化基準を大きく下回り、財政の健全性を示しています。

第23表 健全化判断比率 (単位：%)

	健全化判断比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	11.58	20.00
連結実質赤字比率	—	16.58	30.00
実質公債費比率	6.2	25.0	35.0
将来負担比率	60.3	350.0	

※「実質赤字比率」及び「連結実質赤字比率」は、黒字の場合「—」の表記となる。

第24表 資金不足比率 (単位：%)

	資金不足比率	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.0
簡易水道事業特別会計	—	20.0
公設地方卸売市場特別会計	—	20.0
下水道事業特別会計	—	20.0
農業集落排水事業特別会計	—	20.0

※資金不足とならない場合は、「—」の表記となる。

#### 【財政指標の説明】

①実質赤字比率 = 一般会計等の赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示します。

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計等の実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$$

②連結実質赤字比率 = 全ての会計の赤字や黒字を合算し、地方公共団体としての赤字の程度を指標化し、地方公共団体としての運営の深刻度を示します。

$$\text{連結実質赤字比率} = \frac{\text{連結実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$$

③実質公債費比率 = 一般会計が負担する借入金の返済額及びこれに準じる額の大きさ(3ヵ年平均)を指標化し、資金繰りの危険度を示します。

$$\text{実質公債費比率} = \frac{(\text{地方債の元利償還金} + \text{準元利償還金}) - (\text{特定財源} + \text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}{\text{標準財政規模} - (\text{元利償還金} \cdot \text{準元利償還金に係る基準財政需要額算入額})}$$



- ④将来負担比率 = 一般会計の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高の程度を指標化し、将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示します。

	将来負担額－(充当可能基金額＋特定財源見込額＋地方債現在高等	
将来負担比率	＝	に係る基準財政需要額算入見込額)
	標準財政規模－(元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額)	

- ⑤資金不足比率 = 公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入規模と比較して指標化し、経営状況の深刻度を示します。

	＝	資金の不足額
資金不足比率		事業の規模

## 2) 地方公共団体の財政の健全化に関する法律の概要

- ① 毎年度、健全化判断比率（①実質赤字比率 ②連結実質赤字比率 ③実質公債費比率 ④将来負担比率）を監査委員の審査に付した上で、議会に報告し、公表することになります。
- ② 財政の早期健全化や財政の再生のため、健全化判断比率の値が一定の基準以上の場合には、財政の状況が悪化した要因の分析の結果を踏まえ、財政健全化計画や財政再生計画を策定し、財政の早期健全化に努めることになります。

### 【早期健全化基準を超えた場合】

健全化判断比率である 4 つの比率のうち一つでも早期健全化基準を超えた場合、「早期健全化団体」となり、財政健全化計画を策定し、議会で議決を得た後、速やかに住民に公表するとともに、知事に報告しなければなりません。

### 【財政再生基準を超えた場合】

将来負担比率を除く 3 つの比率のうち一つでも財政再生基準以上になった場合、「財政再生団体」となり、財政再生計画を策定し議会の議決を得て、総務大臣に同意を求めます。同意を得ていないときは、災害復旧事業等を除き地方債の発行ができなくなります。事実上、国の管理の下、財政の再生に取り組むこととなります。

- ③ その他、財政健全化計画等の策定の場合には、外部監査を求めなければならないことなどが定められています。
- ④ 公営企業についても、毎年、公営企業ごとに資金不足比率を監査委員の審査に付した上で、議会に報告し公表することとなり、一定基準以上の場合には、経営健全化計画を定めなければならないこととなります。

※なお、健全化判断比率の公表は、平成 19 年度決算から実施していますが、一定基準額以上の団体に対する健全化計画の策定等の規定は、平成 20 年度決算から適用となっています。

## 第4章 新地方公会計制度に基づく財務書類4表（平成25年度決算）

### 第1節 財務諸表の概要

#### 1) 新地方公会計制度の概要

平成18年6月に成立した「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」を契機に、地方公共団体の資産・債務改革の一環として、「新地方公会計制度の整備」が位置づけられました。

また、同年8月の「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」において、発生主義の活用及び複式簿記の考え方を導入した、①貸借対照表、②行政コスト計算書、③資金収支計算書、④純資産変動計算書の4表の財務書類を、平成21年度までに整備することが要請されたことに伴い、本市におきましても、平成20年度決算から公会計基準モデルに基づく財務書類4表を整備しました。

#### 2) 成田市財務書類4表について

##### ○基準モデルの特徴

民間企業会計の考え方と会計実務をもとに、資産、税収や移転収支など、地方公共団体の特殊性を加味した財務書類で、開始貸借対照表を固定資産台帳等に基づき作成します。現金取引情報にとどまらず、ストック・フロー情報を網羅的に公正価値で把握するものです。

平成19年度まで作成していた旧総務省方式では、固定資産については、昭和44年度以降の決算統計の建設事業費の積上げにより算定していたため、昭和43年度以前に取得した資産は計上されておらず、売却や滅失により除却された資産も計上されるなど不合理がありました。

また、個々の資産価値を特定できないため、減価償却なども想定上の数値となっているのに対し、基準モデルでは、現存するすべての固定資産を洗い出し、公正価値により評価しています。

##### ○対象とする会計の範囲

財務書類4表は普通会計ベースと単体ベース、連結ベースで作成しています。

- ・ **普通会計** → **一般会計**
- ・ **単体** → **普通会計** + **特別会計**

国民健康保険、下水道事業、公設地方卸売市場、介護保険、農業集落排水事業、後期高齢者医療、簡易水道事業、水道事業

- ・ **連結** → **単体** + **第三セクター**

(公財)成田市スポーツ・みどり振興財団、成田市土地開発公社、(公財)成田市農業センター、(有)ティ・ティ・エス、(公財)印旛郡市文化財センター

## ○財務書類 4 表の概要

### ・貸借対照表

会計年度末（3月31日時点。ただし、出納整理期間中の増減を含む）における成田市の保有する①資産、②負債、③純資産に関する情報を表すものです。

#### ① 資産

市の保有しているすべての資産を表示しており、学校、公園、道路など将来の世代に引き継ぐ社会資本や、投資、基金など将来現金化することが可能な資産のことです。

《事業用資産とインフラ資産》

- ・事業用資産…当該資産から将来的な経済便益が発生すると想定されるもの

(例)庁舎、学校、保育所 等

- ・インフラ資産…将来にわたる都市基盤と想定されるもの

(例)道路、公園、上下水道、ごみ処理施設 等

市場において、取引される物件であるか否かが一つの判断基準となります。

「庁舎」は売却可能資産と考えられるので、事業用資産ですが、道路は地方公共団体の固有の機能をもつ資産であって、市場で取引される性質のものではないため、インフラ資産として区分されます。

#### ② 負債

将来的な支払義務を生じさせる市債や、在職する職員がすべて退職したと仮定した場合に支払うこととなる退職手当要支給額である退職給付引当金など、将来世代の負担となるものです。

#### ③ 純資産

過去の世代や国・県が負担した将来返済しなくてよい財産です。

### ・行政コスト計算書

1年間の行政運営コストのうち、福祉サービスやごみの収集にかかる経費など、資産形成につながらない行政サービスに要したコストを①人件費、②物件費、③経費、④業務関連経費、などに区分して表示するとともに、それら行政サービスの対価としての使用料や手数料等の収入を表示したものです。

従来の現金会計では、捕捉できなかった減価償却費などの非現金コストについても計上しており、経常費用合計から、経常収益合計を差し引いたものが、当該年度の純経常行政コストとして把握されます。

### ・純資産変動計算書

純資産（過去の世代や国・県が負担した将来返済しなくてよい財産）が年度中にどのような財源や要因で増減したかを明らかにするものです。

① 財源の変動

行政コスト計算書に計上されない財源の流出入を表します。

② 資産形成充当財源の変動

財源を将来世代も利用可能な固定資産、長期金融資産にどの程度使ったかを表します。

・ 資金収支計算書

1年間の現金の流れを示すものであり、その性質に応じて、①経常的収支、②資本的収支、③財務的収支に区分したもので、どのような活動に資金を必要としているかを表したものです。また、併せて、基礎的財政収支（プライマリーバランス）も説明できます。

① 経常的収支

行政サービスを行う中で、毎年継続的に収入、支出されるもの。

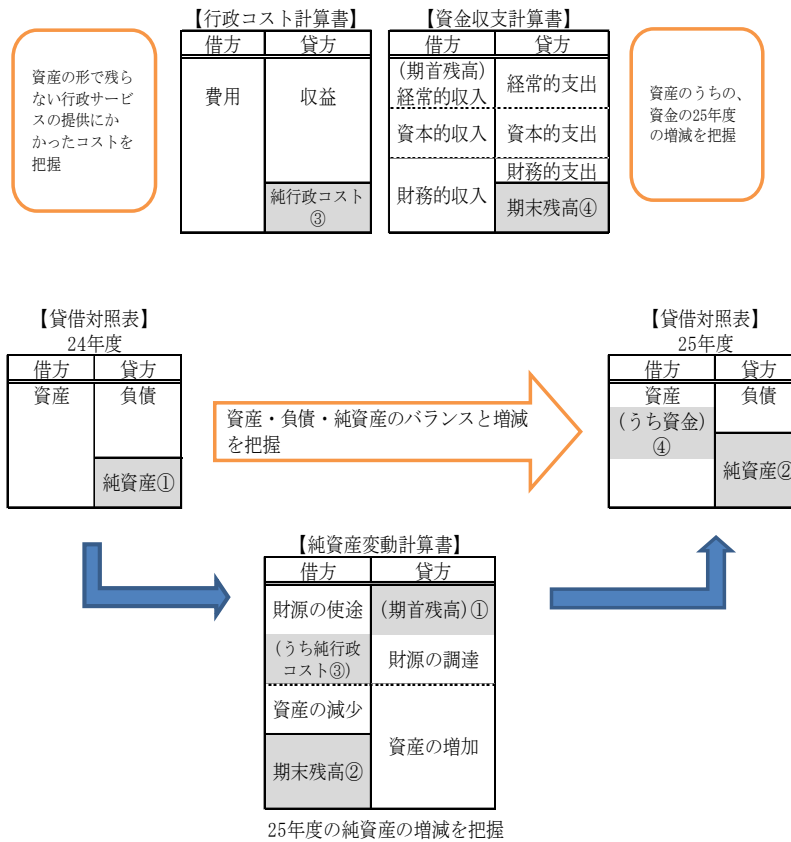
② 資本的収支

学校、公園、道路などの資産形成や投資、貸付金などの収入、支出など。

③ 財務的収支

市債、借入金などの収入、支出など。

・ 財務書類 4 表の相互の関連



## 第2節 財務諸表でみる成田市の財政状況

### 1) バランスシートでみる財政状況

○貸借対照表（単位：百万円）

資産の部				負債の部			
項目	普通会計	単体	連結	項目	普通会計	単体	連結
	金額				金額		
(1)金融資産	22,741	28,495	28,329	(1)流動負債	6,199	7,572	7,786
①資金	5,737	9,154	9,519	①公債(翌年度償還予定額)	3,899	5,032	5,032
②債権	1,940	3,886	3,920	②短期借入金	0	0	65
(控除)貸倒引当金	-53	-124	-124	③その他	2,300	2,540	2,689
③有価証券	0	0	0	(2)非流動(固定)負債	50,255	69,740	69,815
④投資等	15,117	15,579	15,014	①公債	40,473	59,743	59,743
(2)非金融(公共)資産	238,976	288,106	289,112	②借入金	0	0	0
①事業用資産	99,612	100,284	100,363	③引当金	8,860	9,064	9,139
②インフラ資産	139,364	187,812	188,749	④その他	922	933	933
③繰延資産	0	10	0	負債の部合計	56,454	77,312	77,601
				純資産の部			
				純資産の部合計	205,263	239,289	239,840
資産の部合計	261,717	316,601	317,441	負債・純資産の部合計	261,717	316,601	317,441

○市民1人当たりの貸借対照表（単位：円）

資産の部				負債の部			
項目	普通会計	単体	連結	項目	普通会計	単体	連結
	金額				金額		
(1)金融資産	173,287	217,133	215,868	(1)流動負債	47,237	57,699	59,330
①資金	43,716	69,754	72,535	①公債(翌年度償還予定額)	29,711	38,344	38,344
②債権	14,783	29,611	29,871	②短期借入金	0	0	496
(控除)貸倒引当金	-404	-945	-945	③その他	17,526	19,355	20,490
③有価証券	0	0	0	(2)非流動(固定)負債	382,945	531,421	531,992
④投資等	115,192	118,713	114,407	①公債	308,405	455,244	455,244
(2)非金融(公共)資産	1,821,006	2,195,378	2,203,043	②借入金	0	0	0
①事業用資産	759,047	764,168	764,769	③引当金	67,514	69,068	69,639
②インフラ資産	1,061,959	1,431,134	1,438,274	④その他	7,026	7,109	7,109
③繰延資産	0	76	0	負債の部合計	430,182	589,120	591,322
	0	0	0	純資産の部			
	0	0	0	純資産の部合計	1,564,111	1,823,391	1,827,589
資産の部合計	1,994,293	2,412,511	2,418,911	負債・純資産の部合計	1,994,293	2,412,511	2,418,911

平成26年3月31日現在人口131,233人

○貸借対照表から分かること（連結ベース）

成田市は、平成25年度末までに3,174億円の資産を形成しています。

資産の中でも特に大きな比率を占めるのが、道路や公園、ごみ処理施設などの『インフラ資産』であり、1,887億円（総資産の59.5%）を占めています。それ以外の、庁舎や学校、保育所等の『事業用資産』も1,004億円（同31.6%）となります。金融資産の中では出資金や基金などの『投資等』が主なものです。

負債である776億円については、将来世代が負担していくこととなります。負債の中では公債が主なもので、597億円（総負債の77.0%）を占めています。

また、資産から負債を引いた純資産については2,398億円であり、これらは過去の世代や国、県の負担で既に支払いが済んでいるものです。

これらを、平成26年3月31日現在の人口131,233人で市民1人当たりには換算すると、資産が241万9千円、負債が59万1千円、純資産が182万8千円となりました。

## 2) 行政コスト計算書でみる財政状況

### ○行政コスト計算書（単位：百万円）

項目		普通会計 金額	単体 金額	連結 金額
1	経常費用 計（行政コスト総額）	44,959	63,335	63,781
	① 人件費	12,006	12,446	12,863
	② 物件費	7,214	7,632	7,757
	③ 経費	8,319	9,775	9,669
	④ 業務関連費用	800	1,462	1,462
	⑤ 移転支出	16,620	32,020	32,030
	他会計への移転支出	3,104	0	0
	補助金等移転支出	2,906	2,908	2,908
	社会保障関係費等移転支出	8,068	26,321	26,321
	その他の移転支出	2,542	2,791	2,801
2	経常収益 計	2,178	5,461	5,876
	① 業務収益	1,181	4,371	4,784
	② 業務関連収益	997	1,090	1,092
3	純行政コスト（1経常費用－2経常収益）	42,781	57,874	57,905

### ○市民1人当たりの行政コスト計算書（単位：円）

項目		普通会計 金額	単体 金額	連結 金額
1	経常費用 計（行政コスト総額）	342,589	482,615	486,013
	① 人件費	91,486	94,839	98,016
	② 物件費	54,971	58,156	59,109
	③ 経費	63,391	74,486	73,678
	④ 業務関連費用	6,096	11,140	11,140
	⑤ 移転支出	126,645	243,994	244,070
	他会計への移転支出	23,653	0	0
	補助金等移転支出	22,144	22,159	22,159
	社会保障関係費等移転支出	61,478	200,567	200,567
	その他の移転支出	19,370	21,268	21,344
2	経常収益 計	16,596	41,613	44,775
	① 業務収益	8,999	33,307	36,454
	② 業務関連収益	7,597	8,306	8,321
3	純行政コスト（1経常費用－2経常収益）	325,993	441,002	441,238

## ○行政コスト計算書から分かること（連結ベース）

平成25年度の成田市の行政コストは総額638億円で、行政サービスに対する対価として市民が負担する使用料や手数料などの経常収益は59億円となりました。

総行政コストの中で最も割合が大きかったのは、生活保護費や福祉手当などの『社会保障関係費等移転支出』で、総額263億円（総行政コストの41.3%）であり、次が職員給与や議員報酬、退職給付費用等の『人件費』で129億円（同20.2%）、その次が『物件費』で78億円（同12.2%）でした。

行政コスト総額から経常収益を引いた純行政コストは579億円となり、この不足分については、市税や地方交付税などの一般財源や国・県補助金で賄っています。

これらを市民1人あたりに換算すると、行政コストが48万6千円、経常収益が4万5千円、純行政コストは44万1千円となりました。

## 3) 純資産変動計算書でみる財政状況

### ○純資産変動計算書（単位：百万円）

項目	普通会計	単体	連結
	金額	金額	金額
I 前期末残高	200,548	234,601	235,171
(イ) 財源変動の部=(2調達-1使用)	551	1,466	1,433
1 財源の使用	56,474	74,883	74,936
(1) 純経常費用(純行政コスト)への財源措置	42,781	57,874	57,905
(2) 固定資産形成への財源措置	9,298	10,217	10,218
(3) 長期金融資産形成への財源措置	1,151	1,203	1,223
(4) その他の財源の使用	3,244	5,589	5,590
2 財源の調達	57,025	76,349	76,369
(1) 税収・社会保険料	33,795	38,449	38,449
(2) 補助金等の移転収入	14,961	27,171	27,171
(3) その他の財源の調達	8,269	10,729	10,749
(ロ) 資産形成充当財源変動の部=(1+2+3)	4,446	3,197	3,211
1 固定資産の変動	5,167	3,968	3,963
2 長期金融資産の変動	-721	-771	-752
3 評価・換算差額等の変動	0	0	0
(ハ) その他の純資産変動の部=(1+2+3)	-282	25	25
1 少数株主持分の変動	0	0	1
2 開始時未分析残高の変動	0	0	0
3 その他純資産の変動	-282	25	24
II 当期変動額合計=(イ+ロ+ハ)	4,715	4,688	4,669
III 当期末残高=(I+II)	205,263	239,289	239,840

○市民1人当たりの純資産変動計算書（単位：円）

項目	普通会計	単体	連結
	金額	金額	金額
I 前期末残高	1,528,183	1,787,668	1,792,011
(イ) 財源変動の部=(2調達-1使途)	4,198	11,170	10,919
1 財源の使途	430,334	570,611	571,015
(1) 純経常費用(純行政コスト)への財源措置	325,993	441,002	441,238
(2) 固定資産形成への財源措置	70,851	77,854	77,862
(3) 長期金融資産形成への財源措置	8,771	9,167	9,319
(4) その他の財源の使途	24,719	42,588	42,596
2 財源の調達	434,532	581,781	581,934
(1) 税収・社会保険料	257,519	292,982	292,982
(2) 補助金等の移転収入	114,003	207,044	207,044
(3) その他の財源の調達	63,010	81,755	81,908
(ロ) 資産形成充当財源変動の部=(1+2+3)	33,879	24,361	24,468
1 固定資産の変動	39,373	30,236	30,198
2 長期金融資産の変動	-5,494	-5,875	-5,730
3 評価・換算差額等の変動	0	0	0
(ハ) その他の純資産変動の部=(1+2+3)	-2,149	191	191
1 少数株主持分の変動	0	0	8
2 開始時未分析残高の変動	0	0	0
3 その他純資産の変動	-2,149	191	183
II 当期変動額合計=(イ+ロ+ハ)	35,928	35,722	35,578
III 当期末残高=(I+II)	1,564,111	1,823,390	1,827,589

○純資産変動計算書から分かること（連結ベース）

平成25年度は、純資産が47億円増加となりました。

これは税収などの『財源の調達』が764億円であったのに比べ、純経常費用（純行政コスト）の支出などの『財源の使途』が749億円と下回ったことや、インフラ資産の整備などに伴う固定資産の変動が40億円あったことなどによるものです。

結果、平成25年度末の純資産は2,398億円となりました。

これらを市民1人当たりに換算すると、平成25年度中に純資産は3万6千円増加して182万8千円となりました。



#### 4) 資金収支計算書でみる財政状況

##### ○資金収支計算書（単位：百万円）

項目	普通会計	単体	連結
(イ)経常的収支区分(②収入－①支出)	9,701	11,722	11,529
①経常的支出	41,313	59,235	59,869
②経常的収入	51,014	70,957	71,398
(ロ)資本的収支区分(②収入－①支出)	-8,472	-9,342	-9,362
①資本的支出	10,449	11,420	11,441
②資本的収入	1,977	2,078	2,079
<b>基礎的財政収支(イ+ロ)</b>	<b>1,229</b>	<b>2,380</b>	<b>2,167</b>
(ハ)財務的収支区分(②収入－①支出)	-391	-1,539	-1,232
①財務的支出(注)	4,713	6,875	6,943
②財務的収入	4,322	5,336	5,711
<b>1 当期資金収支(イ+ロ+ハ)</b>	<b>838</b>	<b>841</b>	<b>935</b>
<b>2 期首資金残高</b>	<b>4,899</b>	<b>8,313</b>	<b>8,584</b>
<b>3 期末資金残高(1+2)</b>	<b>5,737</b>	<b>9,154</b>	<b>9,519</b>
(注)うち、公債・借入金支払利息支出	628	1,090	1,090

##### ○市民1人当たりの資金収支計算書（単位：円）

項目	普通会計	単体	連結
(イ)経常的収支区分(②収入－①支出)	73,922	89,322	87,851
①経常的支出	314,806	451,373	456,204
②経常的収入	388,728	540,695	544,055
(ロ)資本的収支区分(②収入－①支出)	-64,557	-71,186	-71,338
①資本的支出	79,622	87,020	87,180
②資本的収入	15,065	15,834	15,842
<b>基礎的財政収支(イ+ロ)</b>	<b>9,365</b>	<b>18,136</b>	<b>16,513</b>
(ハ)財務的収支区分(②収入－①支出)	-2,980	-11,728	-9,388
①財務的支出(注)	35,913	52,388	52,906
②財務的収入	32,933	40,660	43,518
<b>1 当期資金収支(イ+ロ+ハ)</b>	<b>6,385</b>	<b>6,408</b>	<b>7,125</b>
<b>2 期首資金残高</b>	<b>37,331</b>	<b>63,345</b>	<b>65,410</b>
<b>3 期末資金残高(1+2)</b>	<b>43,716</b>	<b>69,754</b>	<b>72,535</b>
(注)うち、公債・借入金支払利息支出	4,785	8,306	8,306

##### ○資金収支計算書から分かること（連結ベース）

行政サービスを行う中で、毎年度継続的に収入、支出される経常的収支は115億円の余剰が発生し、一方、資産形成や、投資、貸付金などの収支である資本的収支は93億円の赤字となったため、基礎的財政収支(プライマリーバランス)は、結果として22億円の黒字となりました。

市債などの収支である財務的収支については12億円の赤字で、当期の資金収支額は9億円の黒字となり、期末資金残高は95億円となりました。

これらを市民1人当たりに換算すると、当期は7千円の黒字となり、期末資金残高は7万3千円となりました。

### 第3節 財務諸表に基づく分析指標

#### 1) 純資産比率

##### **純資産／総資産**

企業会計の「自己資本比率」に相当するものであり、総資産のうち返済義務のない純資産がどれくらいの割合かを表します。この比率が高いほど、財政状況が健全であるといえ、市町村の普通会計では、60～70%が標準であると言われています。

	純資産（百万円）	総資産（百万円）	純資産比率（%）
普通会計	205,263	261,717	78.4
単 体	239,289	316,601	75.6
連 結	239,840	317,441	75.6

成田市では、普通会計、単体、連結とも、純資産比率は70～80%であり、標準を上回っていることから、財政状況の健全性がうかがえます。

#### 2) 安全比率

##### **(純資産－インフラ資産)／(総資産－インフラ資産)**

インフラ資産とは、住民の社会生活の基盤として、必要不可欠のネットワークをなすものですが、経済的取引にはなじまない資産でもあります。つまり、インフラ資産は担保能力をもたないとも言えるため、自治体の返済能力を評価する際にインフラ資産の価値をゼロとして算出した純資産比率が、安全比率となります。

この比率がマイナスとなる時は、事実上の債務超過状態と判断されます。

	純資産 (百万円)	総資産 (百万円)	インフラ資産 (百万円)	安全比率 (%)
普通会計	205,263	261,717	139,364	53.9
単 体	239,289	316,601	187,812	40.0
連 結	239,840	317,441	188,749	39.7

#### 3) 社会資本形成の世代間比率

##### **純資産／(事業用資産＋インフラ資産)**

社会資本形成に係る負担のうち、これまでの世代の負担がどのくらいの割合を占めているのかを表します。

この比率が高いほど、これまでの世代が社会資本形成の形成コストを負担しており、逆に低ければ、将来世代がコストを負担しなければならないことを意味します。市町村の普通会計の平均では、これまでの世代の負担割合は約80%です。

	純資産（百万円）	事業用資産＋インフラ資産（百万円）	社会資本形成の世代間比率（％）
普通会計	205,263	238,976	85.9
単体	239,289	288,096	83.1
連結	239,840	289,112	83.0

成田市では、普通会計、単体、連結とも、社会資本形成の世代間比率は、80%を超えていることから、負担を将来に先送りしない、健全な財政運営をしてきたことが分かります。

#### 4) 資産老朽化比率

##### 減価償却累計額 / 有形固定資産取得価格

有形固定資産のうち、土地以外の償却資産の取得価格に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に比べて、どの程度年数が経過しているか(老朽化しているか)がわかる指標です。

通常、比率が高い(耐用年数に近づいている)ほど、修繕費用がかかることが想定されます。資産老朽化比率の平均値は、35%～50%とされています。

主だった資産及び全資産の老朽化比率は次のとおりです。

主な資産	資産老朽化比率（％）
道路	59.7
橋りょう	64.6
建物	53.0
公園	50.9
管きょ	71.3
全資産合計	58.3

成田市では、全資産の合計で、資産老朽化比率が58.3%と、平均値を上回り、各施設の老朽化が進んでいることがうかがえます。

特に、道路や、橋りょう、管きょなどのインフラ資産の老朽化が進んでいることから、今後、これら資産の計画的な修繕が求められています。

## 第5章 総合計画と財政見通し

### 第1節 総合計画

#### 1) 総合計画

総合計画は、まちづくりの基本理念、将来像、施策の大綱等を示した「基本構想」、具体的な施策や事業を示した「基本計画」、施策や事業を実施するための年次計画である実施計画（総合5か年計画'06、総合5か年計画2011）からなっています。

本市では、「市民が主役のまちづくり」を基本理念に「空港(そら)、交流(ふれあい)、希望(ゆめ) 創造都市成田」の実現をテーマとし、新たな時代における新成田市のさらなる発展と市民一人ひとりの幸せを目指すまちづくりを推進します。

基本構想	平成18年度～27年度
基本計画	平成18年度～27年度
総合5か年計画'06 平成18年度～22年度	総合5か年計画2011 平成23年度～27年度

#### ○総合5か年計画2011

「総合5か年計画2011」は、基本構想・基本計画を具現化するための行財政運営の基本となるものであり、予算編成の指針となっています。第25表は施策の体系です。

第25表 「総合5か年計画2011」の施策の体系

<p>1. 世界との交流拠点として市民が誇れる都市をつくる</p> <p>①成田に集まり世界とつながる交流基盤を整える</p> <p>②活動しやすく機能的な都市基盤・都市環境を整える</p>	<p>2. 市民がいきいき働く活力ある産業を育てる</p> <p>①伝統がいきづく国際性豊かな観光地づくりを推進する</p> <p>②創意と工夫により農林水産業の持続的発展を図る</p> <p>③地域特性を活かした商工業の振興を図る</p>
<p>3. 市民一人ひとりの健康で生きがいを持った生活をささえる</p> <p>①高齢者や障がい者が自立し安心して暮らせる体制をつくる</p> <p>②安心して出産し子育てができる環境をつくる</p> <p>③住みなれた地域で安心して暮らせる福祉環境を整える</p> <p>④市民みんなが健康で長生きできる暮らしを実現する</p>	<p>4. 市民が地域文化を愛し、次代を担う心豊かな人材を育む</p> <p>①成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図る</p> <p>②子どもも大人もともに学び育つ教育を推進する</p> <p>③生涯を通して学びスポーツができる環境づくりを推進する</p>
<p>5. 市民が安全、安心、快適に暮らせる生活環境をつくる</p> <p>①安全に暮らせる地域社会をつくる</p> <p>②空港と共生し安心して暮らせるまちづくりを推進する</p> <p>③市民が快適に暮らせる身近な生活環境を整える</p>	<p>6. 市民と行政が協働する効率的な自治体運営を行う</p> <p>①みんなが参加する地域社会をつくる</p> <p>②市民本位の効率的な自治体運営を行う</p>

## ・年度別事業費

「総合5か年計画2011」は、総合計画の後期の実施計画となります。この計画期間においては、成田国際空港の容量拡大や、国の行財政改革と地方分権の進展など、社会経済情勢も極めて流動的であると予想されるため、毎年度事業計画の見直し（ローリング）を行うものとし、第26表は年度別事業費です。（以下の表は、いずれも平成25年度ローリング後のものです。）

第26表 年度別事業費

（単位：千円）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	5か年計
事業費	49,211,962	48,740,784	46,058,838	49,514,170	43,324,529	236,850,283
公債費	4,289,902	4,267,317	4,337,566	4,492,167	4,511,517	21,898,469
人件費	9,760,840	9,494,540	9,223,733	9,193,663	9,163,954	46,836,730
合計	63,262,704	62,502,641	59,620,137	63,200,000	57,000,000	305,585,482

## 第2節 財政計画

本計画は、一般会計について年度別の財政状況を示すことにより、今後の財政運営の指針とするものです。第27表は年次別計画です。

### 1) 年次別計画

第27表 年次別計画

（単位：千円）

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	5か年計
歳入	市税	30,553,150	29,713,379	30,270,845	31,434,974	30,941,961	152,914,309
	地方譲与税	507,000	545,000	512,000	527,000	527,000	2,618,000
	利子割交付金	54,000	40,000	37,000	37,000	37,000	205,000
	配当割交付金	24,000	26,000	28,000	40,000	40,000	158,000
	株式等譲渡所得割交付金	13,000	12,000	12,000	12,000	12,000	61,000
	地方消費税交付金	1,567,000	1,691,000	1,759,000	2,405,000	2,727,000	10,149,000
	ゴルフ場利用税交付金	235,000	226,000	222,000	222,000	222,000	1,127,000
	自動車取得税交付金	170,000	116,000	130,000	125,000	125,000	666,000
	地方特例交付金	290,048	92,539	90,887	90,887	90,887	655,248
	地方交付税	2,454,031	2,400,000	2,405,000	2,400,000	2,400,000	12,059,031
	交通安全対策特別交付金	25,000	24,000	24,000	24,000	24,000	121,000
	国庫支出金	7,694,522	6,946,396	6,754,057	7,242,099	6,350,333	34,987,407
	県支出金	2,129,774	2,338,157	2,244,958	2,179,095	2,490,798	11,382,782
	市債	5,532,500	7,114,200	5,359,500	6,331,000	3,581,700	27,918,900
	その他特定財源	4,818,216	5,009,939	4,390,116	6,671,482	4,471,795	25,361,548
	その他一般財源	7,195,463	6,208,031	5,380,774	3,458,463	2,958,526	25,201,257
計	63,262,704	62,502,641	59,620,137	63,200,000	57,000,000	305,585,482	

(単位:千円)

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	5か年計
歳 出	議会費	539,070	489,510	478,821	466,689	479,152	2,453,242
	総務費	9,575,876	10,509,955	10,503,559	10,396,672	7,796,890	48,782,952
	民生費	16,198,007	16,307,998	17,256,984	17,124,666	17,319,423	84,207,078
	衛生費	10,306,167	8,115,967	5,151,165	6,052,742	6,038,839	35,664,880
	労働費	72,476	49,643	54,591	54,871	54,981	286,562
	農林水産業費	1,281,769	1,283,347	1,347,133	1,266,357	1,366,556	6,545,162
	商工費	1,555,477	1,712,943	1,993,915	2,067,514	1,882,527	9,212,376
	土木費	7,553,686	5,892,290	7,213,244	10,513,262	6,176,504	37,348,986
	消防費	3,053,321	3,369,380	2,504,988	2,491,308	2,547,171	13,966,168
	教育費	8,522,600	10,402,288	8,676,168	8,174,225	8,669,571	44,444,852
	災害復旧費	214,350	2,000	2,000	1,000	1,000	220,350
	公債費	4,289,902	4,267,317	4,337,566	4,492,167	4,511,517	21,898,469
	諸支出費	3	3	3	3	3	15
	予備費	100,000	100,000	100,000	98,524	155,866	554,390
	計	63,262,704	62,502,641	59,620,137	63,200,000	57,000,000	305,585,482

本計画は、次のように推計しました。

国・県支出金、地方交付税、市債は、現行の制度を前提としました。

人件費は、職員数を退職者補充による現状維持と想定していますが、年齢構成の変化に伴い逡減を見込みました。

公債費は、借入済みの市債の償還予定額に、計画上の新たな借入予定額にかかる償還額を推計して加算することにより算出しました。

## 2) 税収見込み

第 28 表 税収見込み

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	5か年計
個人市民税	7,144,611	7,449,595	7,448,006	7,466,007	7,452,838	36,961,057
法人市民税	2,744,254	2,236,583	2,944,611	2,944,611	2,944,611	13,814,670
固定資産税	19,294,386	18,581,796	18,215,586	19,392,778	18,956,128	94,440,674
軽自動車税	189,745	190,023	200,905	205,626	205,626	991,925
都市計画税	205,439	194,437	195,619	197,242	190,333	983,070
特別土地保有税	34,751	14,241	14,241	14,241	14,241	91,715
地方たばこ税	939,503	1,046,243	1,246,917	1,209,509	1,173,224	5,615,396
鉦産税	460	460	460	460	460	2,300
入湯税	1	1	4,500	4,500	4,500	13,502
計	30,553,150	29,713,379	30,270,845	31,434,974	30,941,961	152,914,309

市税の見込みについては、扶養控除の見直しなどの制度改正や、総合5か年計画で示した人口増などを加味し推計しました。第28表は財政計画に基づく税収見込みです。

## 3) 財政指標の状況

第 29 表 財政指標の状況

(単位:千円)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
経常収支比率	81.9%	83.6%	87.0%	84.6%	86.2%
公債費負担比率	9.7%	9.7%	11.4%	10.6%	10.9%
市債残高	42,023,374	43,782,094	45,424,583	47,856,469	47,519,643

#### 4) 基金の状況

第 30 表 基金の状況

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
総額	10,233,578	8,571,475	7,666,926	6,749,765	6,748,522
うち財政調整基金	6,590,352	5,241,707	4,675,861	4,336,797	4,552,667

#### 5) 今後の財政運営

成田市の財政は、財政力指数では全国上位に位置し、また、経常収支比率や実質公債費比率等の各種財政指標においても、常に健全性を保っております。しかしながら、国庫支出金等の依存財源は削減される傾向にある上に、現下の社会経済情勢では、自主財源の根幹となる税収において、右肩上がりを期待することは困難な状況であります。

そのような中、平成 23 年度を初年度とする総合 5 か年計画では、新清掃工場及び附帯施設整備事業、J R・京成成田駅中央口地区整備事業等の大規模事業や空港関連対策事業等で、その総事業費は 3,056 億円になり、今後の財政運営は、引き続き厳しい状況にあると言えます。

このような状況にあっても、少子高齢化社会への対応、市民の生活環境の整備、都市基盤の整備等の市民サービスの向上を目指しながら、市の財政の健全性を維持していかねばなりません。そのため市では、歳入の確保、補助金の見直し、使用料・手数料等の受益者負担の見直し、職員定数の適正化、給与の適正化等の行財政改革を行う成田市行政改革推進計画に基づき、引き続き財政の健全性を図っていきます。

(単位:千円)

平成25年度

決算状況

市区町村  
122114  
成田市

番号 10  
市町村型 III-1  
H25普通交付税種地区区分 I-5

Table with multiple sections: 人口 (Population), 面積 (Area), 人口密度 (Population Density), 人口集中地区人口 (Population in Concentrated Areas), 産業構造 (Industrial Structure), 財政指標等 (Fiscal Indicators), 地方公営事業会計の状況 (Local Public Enterprise Accounting Status), 地域指定等の状況 (Designated Area Status), 特別職等 (Special Positions), 一般職員等 (General Staff).

注)「企適」は、平成25年度地方公営企業決算状況調査の対象の地方公営企業のうち地方公営企業法を全部又は一部を適用している事業、「企非」は、同調査の対象の地方公営企業のうち左記以外の事業、「事」は、地方公営事業のうち同調査の対象の地方公営企業以外の事業、「収益」は、左記のうち収益事業をいう。



番号		10										
市町村名		成田 市										
市町村類型		Ⅲ-1										
歳入				性質別歳出								
区分	決算額	構成比	対H24増減率	経常一般財源等	区分	決算額	構成比	対H24増減率	一般財源等	経常的経費充当一般財源等	経常比率	収率
地方税	30,962,312	48.9%	3.5%	30,766,232	人件費	10,055,145	17.3%	-2.0%	9,570,390	9,570,311	26.4%	
地方譲与税	548,972	0.9	4.3	548,972	うち職員給	6,981,992	12.0	-2.4	6,566,020			
利子割交付金	35,843	0.1	-0.6	35,843	扶助費	9,710,314	16.7	1.4	3,527,090	3,519,382	9.7	
配当割交付金	68,515	0.1	68.8	68,515	公債費	4,333,133	7.5	1.6	4,318,633	4,270,013	11.8	
株式等譲渡所得割交付金	126,239	0.2	963.5	126,239	元金	3,732,056	6.4	2.8	3,717,606	3,668,986	10.1	
地方消費税交付金	1,725,696	2.7	-0.9	1,725,696	元利償還金	601,077	1.1	-5.4	601,027	601,027	1.7	
ゴルフ場利用税交付金	214,670	0.3	2.2	214,670	一時借入金利子	0	0.0	皆減	0	0	0.0	
特別地方消費税交付金	0	0.0	-	0	義務的経費小計	24,098,592	41.5	0.0	17,416,113	17,359,706	47.9	
自動車取得税交付金	186,603	0.3	49.2	186,603	物件費	10,087,854	17.4	1.4	7,738,350	7,309,029	20.2	
軽油引取税交付金	0	0.0	-	0	維持補修費	568,740	1.0	-1.6	545,139	545,139	1.5	
地方特例交付金等	92,771	0.1	2.1	92,771	補助費等	3,564,846	6.1	5.8	3,158,962	2,131,502	5.9	
地方交付税	2,847,305	4.5	-34.1	2,847,305	投資及び出資金・貸付金(経常的なものを除く)	76,610	0.1	皆増	76,300	76,300	0.2	
内訳				2,311,152	經常的繰出金	2,797,523	4.8	4.2	2,483,333	2,483,333	6.9	
普通	2,311,152	3.7	1.0	2,311,152	經常的経費小計	41,194,165	71.0	1.3	31,418,197	29,905,009	34.7	
特別	376,294	0.6	8.1	376,294								
震災復興特別	159,859	0.3	-90.5	0	積立金	1,671,032	2.9	34.2	1,631,296			
一般財源計	36,808,926	58.2	-0.6	36,076,693	投資及び出資金・貸付金(経常的なものを除く)	1,108,743	1.9	-1.3	82,598			
交通安全対策特別交付金	22,752	0.0	-3.5	22,752	繰出金(経常的なものを除く)	1,257,115	2.2	-1.7	1,252,085			
分担金及び負担金	711,389	1.1	-2.1	0	前年度繰上充用金	0	0.0	-	0			
使用料	888,106	1.4	18.5	82,508	投資的経費	12,791,487	22.0	-18.9	4,244,826			
手数料	493,908	0.8	2.1	0	うち人件費	471,390	0.8	4.8	471,390			
国庫支出金	7,027,529	11.1	-1.8	0	普通建設事業費	12,614,305	21.7	-20.0	4,078,654			
国有提供施設等所在市町村助成交付金	0	0.0	-	0	内訳							
都道府県支出金	2,212,763	3.5	-1.8	0	補助	3,825,552	6.6	-35.8	245,453			
財産収入	158,080	0.2	35.8	33,828	単独	8,788,753	15.1	-10.4	3,833,201			
寄附金	3,225	0.0	-97.3	0	災害復旧事業費	177,182	0.3	皆増	166,172			
繰入金	2,531,891	4.0	-12.9	0	失業対策事業費	0	0.0	-	0			
繰越金	4,449,963	7.0	15.4	0	合 計	58,022,542	100.0	-3.5	38,629,002			
諸収入	3,669,195	5.8	-2.0	1,754	うち東日本大震災分	152,526	0.3	-92.2	0			
地方債	4,322,300	6.8	-19.8	0								
うち減収補償特例分	0	0.0	-	0								
うち臨時財政対策債	0	0.0	-	0								
合 計	63,300,027	100.0	-1.9	36,217,535								
うち東日本大震災分	297,238	0.5	-84.8	0								
市町村税				目的別歳出								
区分	決算額	構成比	対H24増減率	超過課税分収入済額	区分	決算額	構成比	対H24増減率	一般財源等	公共施設の整備状況		
市町村税	7,492,073	24.2%	1.2%	0	議会費	455,507	0.8%	-4.4%	455,506	道路舗装率	96.1%	
個人分	7,492,073	24.2%	1.2%	0	総務費	7,504,249	12.9	-15.4	6,979,119	道路改良率	70.8%	
法人分	3,079,579	9.9	26.2	291,144	民生費	16,188,814	27.9	2.4	8,608,863	上水道普及率	83.2%	
固定資産税	18,722,677	60.5	1.0	0	衛生費	5,900,483	10.2	-33.5	4,588,137	下水道普及率(人口)	74.3%	
軽自動車税	205,243	0.7	6.1	0	労働費	54,185	0.1	21.0	51,445	し尿収集率	4.7%	
市町村たばこ税	1,244,229	4.0	10.4	0	農林水産業費	1,242,081	2.1	9.6	1,083,689	し尿衛生処理率	100.0%	
鉱産税	467	0.0	4.0	0	商工費	1,820,593	3.1	4.4	710,554	ごみ収集率	100.0%	
特別土地保有税	14,343	0.0	-11.0	0	土木費	6,588,455	11.4	19.8	3,184,728	ごみ焼却処理率	94.1%	
法定普通税小計	30,758,611	99.3	3.5	291,144	消防費	2,496,165	4.3	-31.1	2,244,902	保育施設充足率	97.7%	
法定外普通税・旧法税	0	0.0	-	0	教育費	11,261,695	19.4	15.4	6,241,924	幼稚園施設充足率	106.3%	
目的税	203,701	0.7	3.1	0	災害復旧費	177,182	0.3	皆増	166,172	小学校非木造比率	99.0%	
入湯税	7,621	0.0	105.9	0	公債費	4,333,133	7.5	1.6	4,318,633	中学校非木造比率	99.1%	
事業所税	0	0.0	-	0	諸支出金	0	0.0	-	0			
都市計画税	196,080	0.6	1.2	0	前年度繰上充用金	0	0.0	-	0			
水利地益税等	0	0.0	-	0	合 計	58,022,542	100.0	-3.5	38,633,672			
合 計	30,962,312	100.0	3.5	291,144								
国民健康保険税(料)	2,773,653		8.6									
徴収率					平成25年度大規模事業(かつこ書きは、平成25年度事業費 単位:百万円)							
区分	現年課税分	滞納繰越分	合 計		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医科系大学誘致事業(2,055)</li> <li>・ 下総小学校建設事業(1,950)</li> <li>・ JR・京成成田駅中央地区整備事業(1,938)</li> <li>・ 学校給食施設整備事業(759)</li> <li>・ ニュータウン中央線整備事業(242)</li> </ul>							
市町村税	98.9%	22.8%	94.7%									
市町村民税	98.2	23.3	92.7									
固定資産税	99.3	23.6	96.0									
国民健康保険税(料)	88.2	18.6	65.0									

注)表示単位未満を四捨五入しています。このため、構成比の積み上げと合計が一致しない場合があります。

注)調査項目がない場合、指標又は増減率等が算定されない場合は、「-」で表しています。

(単位:千円)

平成24年度

決算状況

市区町村  
122114  
成田市

番号 10  
市町村型 III-1  
H24普通交付税種地区分 I-5

人口		面積	人口密度	人口集中地区人口	産業構造						
国調 勢査	22年	128,933人	213.84	602.9	22年国調	74,379人	区 分	第1次	第2次	第3次	
	17年	121,139人			17年国調	65,479人	22年	2,617人	9,765人	46,929人	
	増減率	6.4%			就業人口	4.1%	15.4%	74.2%			
住民基 本台帳	25.3.31	130,469人	S40. 4. 1以降の合併等の状況			17年	3,742人	10,352人	46,999人		
	24.3.31	126,801人	平18.3.27 下総町、大栄町の編入合併			国調	6.0%	16.6%	75.5%		
	増減率	2.89%									
区 分		平成24年度	平成23年度	増減額	対H23増減率	区 分		財政指標等			
1. 歳入総額①		64,549,010	64,761,517	-212,507	-0.3%	財政力指数		1.267			
2. 歳出総額②		60,099,047	60,904,766	-805,719	-1.3	実質収支比率		6.4%			
3. 差引(形式収支)(①-②)③		4,449,963	3,856,751	593,212	15.4	経常収支比率		83.6%			
4. 翌年度に繰り越すべき財源④		2,193,467	1,884,484	308,983	16.4	公債費負担比率		9.7%			
5. 実質収支(③-④)⑤		2,256,496	1,972,267	284,229	14.4	積立金現在高		8,571,475			
6. 単年度収支⑥		284,229	-457,562	741,791		うち財政調整基金		5,241,707			
7. 積立金⑦		1,163,513	1,567,616	-404,103	-25.8	地方債現在高		43,782,094			
8. 繰上償還金⑧		0	0	0	-	債務負担行為支出予定額		14,127,807			
9. 積立金取崩し額⑨		2,512,158	1,550,000	962,158	62.1						
10. 実質単年度収支 (⑥+⑦+⑧-⑨)		-1,064,416	-439,946	-624,470							
基準財政需要額				19,821,857		健全化判断比率					
基準財政収入額				24,579,936		実質赤字比率		-			
標準財政規模				35,203,182		連結実質赤字比率		-			
うち臨時財政対策債発行可能額				822,941		実質公債費比率		6.5%			
						将来負担比率		55.2%			
地方公営事業会計の状況						一部事務組合等加入状況					
会計名	種別 (注)	歳入 (総収益)	歳出 (総費用)	実質収支 (純損益)	普通会計か らの繰入額	資金不足比率 (対象会計の み記載)	組 合 等 名	普通会計か らの負担金 又は繰入金	左のうち投資的 費充当額又は繰出 基準内繰入金		
国民健康保険事業(事業勘定)	事	13,121,947	12,521,431	470,423	1,557,574	%	千葉県市町村総合事務組合	113,796	0		
国民健康保険事業(直診勘定)	事	175,436	163,632	11,804	0		千葉県後期高齢者医療広域連合	653,876	0		
介護保険事業(保険事業勘定)	事	5,440,749	5,319,906	92,083	847,639		印旛都市広域市町村圏事務組合(普通)	39,354	0		
介護保険事業(介護サービス事業勘定)	事	16,007	16,007	0	13,811		印旛都市広域市町村圏事務組合(水道)	59,486	34,209		
後期高齢者医療事業	事	816,965	812,207	4,758	171,032		印旛利根川水防事務組合	1,077	0		
水道事業	企適	2,306,489	1,798,441	508,048	234,122	-					
簡易水道事業	企適	251,228	251,228	0	188,164	-					
市場事業	企非	217,158	200,243	16,915	79,670	-					
公共下水道事業	企非	1,965,315	1,894,252	58,090	521,321	-	第三セクター等に対する債務保証又は損失補償の状況				
農業集落排水事業	企非	162,361	156,697	5,664	123,424	-	第三セクター等名	H24年度末の 債務保証額又は 損失補償額			
							成田市土地開発公社	67,513			
地域指定等の状況						一 般 職 員 等					
給与等の状況						特 別 職 等(H25.4.1現在)			一 般 職 員 等		
						区 分	適 用 年 月 日	1人当たり平均給料 (報酬)月額 百円	区 分	職 員 数 (H25.4.1現在)	1人当たり平均給料支給 月額(H25.4月分) 百円
						市 町 村 長	25 4 1	9,021	一般職員	1,095人	3,142
						副市町村長	25 4 1	7,760	うち技能労務職員	23	2,816
						教 育 長	25 4 1	7,178	うち消防関係職員	241	2,984
						議 会 議 長	10 4 1	5,300	教育公務員	24	3,841
						副 議 長	10 4 1	4,900	臨時職員	0	0
						議 会 議 員	10 4 1	4,700	合 計	1,119	3,157

注)「企適」は、平成24年度地方公営企業決算状況調査の対象の地方公営企業のうち地方公営企業法を全部又は一部を適用している事業、「企非」は、同調査の対象の地方公営企業のうち左記以外の事業、「事」は、地方公営事業のうち同調査の対象の地方公営企業以外の事業、「収益」は、左記のうち収益事業をいう。



普通会計決算状況（決算統計）

年度	人口	歳入総額	歳出総額	差引	実質収支
	年度末現在			B-C	
	A (人)	B (千円)	C (千円)	(千円)	(千円)
S44	43,983	1,556,988	1,398,481	158,507	75,210
S45	44,437	2,333,347	2,194,925	138,422	16,625
S46	45,125	3,417,470	3,299,931	117,539	14,467
S47	46,450	4,053,849	3,620,189	433,660	288,776
S48	48,579	4,501,223	3,931,086	570,137	117,520
S49	50,691	6,454,477	6,350,038	104,439	7,088
S50	52,652	5,607,198	5,563,563	43,635	8,250
S51	54,223	6,201,044	5,957,128	243,916	24,989
S52	58,492	12,679,725	12,184,391	495,334	56,092
S53	64,301	11,105,740	10,548,503	557,237	435,326
S54	67,038	13,462,065	12,619,511	842,554	833,555
S55	69,675	15,103,597	14,546,839	556,758	417,968
S56	71,746	17,582,104	17,116,758	465,346	414,035
S57	73,635	17,630,967	16,221,550	1,409,417	860,590
S58	74,474	22,144,619	21,036,433	1,108,186	907,594
S59	75,562	22,462,339	21,177,216	1,285,123	977,732
S60	76,447	22,613,588	21,175,571	1,438,017	1,249,904
S61	77,923	23,886,985	22,008,684	1,878,301	1,495,107
S62	79,505	26,198,895	24,969,432	1,229,463	762,688
S63	82,311	29,432,135	28,239,651	1,192,484	645,676
H 1	84,189	29,069,937	27,762,104	1,307,833	1,006,949
H 2	85,676	32,099,375	30,568,519	1,530,856	1,295,261
H 3	87,316	34,652,931	33,035,960	1,616,971	701,954
H 4	88,864	39,603,283	38,317,133	1,286,150	723,559
H 5	89,748	37,525,722	36,106,232	1,419,490	1,026,134
H 6	89,842	35,162,547	33,694,063	1,468,484	1,030,033
H 7	90,528	37,706,422	36,261,810	1,444,612	1,082,185
H 8	91,192	37,630,702	35,663,667	1,967,035	1,523,475
H 9	92,152	41,577,483	40,065,954	1,511,529	1,119,292
H10	92,789	38,961,623	37,587,586	1,374,037	1,062,781
H11	94,163	42,211,341	40,683,960	1,527,381	927,062
H12	95,011	42,019,815	40,081,607	1,938,208	1,348,246
H13	95,850	45,340,629	43,084,373	2,256,256	1,589,481
H14	97,057	44,509,899	42,261,488	2,248,411	1,797,867
H15	97,740	43,611,946	41,634,295	1,977,651	1,472,538
H16	98,708	43,817,557	42,342,726	1,474,831	1,104,499
H17	120,534	56,200,544	53,739,462	2,461,082	1,733,703
H18	122,231	53,226,764	50,488,412	2,738,352	2,475,350
H19	123,742	52,743,070	50,526,994	2,216,076	1,675,977
H20	125,428	57,892,506	53,327,526	4,564,980	1,968,459
H21	126,098	59,561,606	56,915,574	2,646,032	1,818,110
H22	126,235	58,325,105	54,786,696	3,538,409	2,429,829
H23	126,801	64,761,517	60,904,766	3,856,751	1,972,267
H24	130,469	64,549,010	60,099,047	4,449,963	2,256,496
H25	131,233	63,300,027	58,022,542	5,277,485	1,744,132

普通会計決算状況（決算統計）

年度	標準財政規模 D (千円)	財政力指数 3力年平均	実質収支	經常収支	実質公債費	債務負担
			比率 (%)	比率 (%)	比率 (%)	行為比率 (%)
S44	716,723	0.510	10.5	70.6		
S45	845,666	0.471	2.0	66.9		
S46	1,063,721	0.446	1.4	73.4		
S47	1,269,983	0.485	22.7	80.8		0.8
S48	1,709,782	0.597	6.9	84.1		3.2
S49	2,545,659	0.799	0.3	90.8		3.3
S50	2,821,187	0.950	0.3	91.4		21.0
S51	3,174,683	1.041	0.8	85.7		12.9
S52	4,088,279	1.068	1.4	81.2		9.7
S53	4,312,244	1.032	10.1	83.9		10.9
S54	5,843,560	1.060	14.3	74.9		12.3
S55	7,521,688	1.094	5.6	74.8		11.1
S56	8,614,127	1.195	4.8	75.7		9.3
S57	9,579,933	1.248	9.0	74.8		0.1
S58	10,047,447	1.256	9.0	71.4		0.1
S59	11,063,458	1.301	8.8	68.3		0.0
S60	13,353,534	1.383	9.4	67.9		4.1
S61	14,398,504	1.475	10.4	71.1		5.4
S62	14,257,222	1.513	5.3	60.9		10.3
S63	15,919,194	1.533	4.1	63.5		4.0
H 1	18,212,925	1.529	5.5	58.7		2.9
H 2	20,210,768	1.555	6.4	58.7		0.5
H 3	21,810,156	1.557	3.2	62.1		0.0
H 4	23,472,235	1.547	3.1	61.3		0.0
H 5	26,145,332	1.588	3.9	60.0		0.0
H 6	27,499,764	1.643	3.7	67.0		0.0
H 7	24,150,411	1.633	4.5	69.7		0.0
H 8	27,691,633	1.617	5.5	66.7		0.0
H 9	28,323,108	1.574	4.0	68.4		0.0
H10	27,628,242	1.591	3.8	73.9		0.0
H11	26,855,243	1.531	3.5	73.4		0.0
H12	27,080,381	1.470	5.0	72.9		2.1
H13	28,008,456	1.469	5.7	71.0		1.8
H14	28,531,973	1.527	6.3	74.0		2.0
H15	26,726,332	1.590	5.5	74.3		6.7
H16	27,220,957	1.635	4.1	78.3		5.6
H17	31,250,288	1.381	5.5	74.9	9.4	6.9
H18	36,387,747	1.464	6.8	79.7	8.9	0.4
H19	34,082,930	1.493	4.8	80.9	7.8	1.4
H20	36,983,195	1.544	5.3	74.4	7.4	1.4
H21	37,572,601	1.497	4.8	82.7	7.2	3.1
H22	34,924,752	1.423	7.0	82.9	7.0	4.6
H23	35,810,648	1.350	5.5	81.9	6.6	4.2
H24	35,203,182	1.267	6.4	83.6	6.5	4.2
H25	35,747,499	1.255	4.9	82.6	6.2	4.1

普通会計決算状況（決算統計）

年度	積立金現在高		債務残高			債務残高と標準財政規模の比較 (H-E)/D
	E (千円)	うち財政調整基金 (千円)	地方債現在高 F (千円)	債務負担行為未払残高 G (千円)	計 (F+G) H (千円)	
S44	57,513	52,436	548,820	5,786	554,606	0.7
S45	61,186	55,623	990,647	146,767	1,137,414	1.3
S46	64,206	55,623	1,525,664	36,375	1,562,039	1.4
S47	12,507	3,574	1,961,153	202,124	2,163,277	1.7
S48	13,007	3,574	2,170,385	1,507,666	3,678,051	2.1
S49	15,057	3,574	2,650,862	2,690,768	5,341,630	2.1
S50	17,269	3,574	2,785,575	3,501,263	6,286,838	2.2
S51	23,303	7,340	3,262,192	3,483,243	6,745,435	2.1
S52	108,982	7,836	5,493,627	3,427,928	8,921,555	2.2
S53	127,475	8,251	6,643,353	2,692,229	9,335,582	2.1
S54	893,332	754,252	7,937,670	1,898,550	9,836,220	1.5
S55	1,477,193	1,290,931	8,903,431	1,015,432	9,918,863	1.1
S56	1,675,503	1,387,668	9,830,312	125,976	9,956,288	1.0
S57	2,103,133	1,471,946	10,730,704	118,551	10,849,255	0.9
S58	3,091,413	2,087,343	13,362,283	105,556	13,467,839	1.0
S59	3,553,807	1,832,703	14,412,027	3,811,360	18,223,387	1.3
S60	4,344,235	1,991,833	15,290,776	4,956,130	20,246,906	1.2
S61	4,467,774	2,105,031	16,013,658	4,177,842	20,191,500	1.1
S62	4,680,024	2,202,257	17,774,052	1,164,047	18,938,099	1.0
S63	3,451,749	2,305,922	20,267,913	590,963	20,858,876	1.1
H 1	3,989,509	2,427,222	19,937,789	105,349	20,043,138	0.9
H 2	6,027,776	3,522,855	19,717,281	63,063	19,780,344	0.7
H 3	6,103,835	2,998,347	20,339,567	55,744	20,395,311	0.7
H 4	6,098,706	2,429,153	21,464,285	1,868,308	23,332,593	0.7
H 5	7,762,153	3,615,879	21,965,337	42,905	22,008,242	0.5
H 6	8,153,156	3,699,357	21,963,440	35,314	21,998,754	0.5
H 7	8,434,722	4,032,623	22,869,349	28,441	22,897,790	0.6
H 8	8,671,272	4,068,607	22,773,430	21,916	22,795,346	0.5
H 9	7,676,106	4,095,053	24,221,714	15,577	24,237,291	0.6
H10	5,298,557	3,511,846	24,307,549	7,263,135	31,570,684	1.0
H11	4,967,579	2,552,714	25,510,943	6,686,922	32,197,865	1.0
H12	4,604,222	2,556,619	26,946,172	4,477,623	31,423,795	1.0
H13	5,272,118	2,810,003	29,864,518	4,154,494	34,019,012	1.0
H14	7,284,185	2,810,331	31,470,049	3,660,190	35,130,239	1.0
H15	8,133,748	2,810,376	32,967,457	2,277,538	35,244,995	1.0
H16	7,454,353	2,732,819	34,015,961	2,680,508	36,696,469	1.1
H17	10,440,636	5,871,410	41,268,356	818,206	42,086,562	1.0
H18	10,770,804	6,365,558	41,310,195	2,564,292	43,874,487	0.9
H19	11,841,026	7,530,074	40,575,206	3,005,294	43,580,500	0.9
H20	14,269,823	8,996,135	39,958,620	5,585,319	45,543,939	0.8
H21	12,097,610	7,803,702	39,887,232	22,523,478	62,410,710	1.3
H22	10,776,247	6,572,736	40,548,859	14,248,645	54,797,504	1.3
H23	10,233,578	6,590,352	42,023,374	13,958,452	55,981,826	1.3
H24	8,571,475	5,241,707	43,782,094	14,127,807	57,909,901	1.4
H25	7,737,398	4,717,251	44,372,338	15,199,321	59,571,659	1.5

普通会計決算状況（決算統計）

年度	市 税 決 算 額				普 通 建 設 事 業 費		
	合 計	うち 個人市民税	うち 法人市民税	うち 固定資産税	補 助	単 独	合 計
	I (千円)	J (千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	K (千円)
S44	387,142	114,150	41,511	124,468	285,712	321,690	607,402
S45	511,307	188,944	52,439	143,865	359,003	903,832	1,262,835
S46	689,801	240,814	93,185	184,890	361,475	1,563,142	1,924,617
S47	1,043,938	362,184	141,360	343,678	694,931	1,178,572	1,873,503
S48	1,701,147	528,869	146,548	725,832	504,247	984,349	1,488,596
S49	2,663,374	664,302	179,348	1,187,099	962,483	1,904,384	2,866,867
S50	2,761,352	532,978	165,986	1,438,195	728,805	955,104	1,683,909
S51	3,273,549	637,410	254,087	1,651,982	447,483	1,414,820	1,862,303
S52	4,002,341	747,372	271,533	1,930,446	5,047,286	2,377,605	7,424,891
S53	4,505,730	942,102	409,957	2,088,002	1,893,926	2,875,366	4,769,292
S54	6,314,871	1,429,224	725,516	3,072,883	2,088,685	2,901,050	4,989,735
S55	7,440,339	1,806,010	858,908	3,500,180	2,316,548	3,415,448	5,731,996
S56	8,366,123	2,079,315	1,010,817	3,886,753	2,258,292	4,543,324	6,801,616
S57	9,317,732	2,402,768	1,070,722	4,398,011	1,247,248	3,771,552	5,018,800
S58	10,414,780	2,760,909	1,259,221	4,901,813	3,922,883	4,873,086	8,795,969
S59	11,921,050	2,734,817	2,078,844	5,484,388	3,113,250	4,760,885	7,874,135
S60	13,159,049	3,126,560	2,278,404	5,980,227	2,332,645	5,153,336	7,485,981
S61	13,795,753	3,367,101	1,713,464	6,826,389	2,431,371	4,937,703	7,369,074
S62	15,918,146	3,760,864	2,885,068	7,321,512	1,181,132	9,466,791	10,647,923
S63	16,703,274	3,922,860	3,256,537	7,504,520	1,845,849	10,315,887	12,161,736
H 1	18,941,538	4,571,990	4,317,578	8,135,800	1,210,626	8,657,699	9,868,325
H 2	20,224,362	5,345,966	4,408,229	8,528,635	927,419	9,816,719	10,744,138
H 3	20,555,448	5,833,238	2,995,657	9,690,849	780,166	9,589,053	10,369,219
H 4	22,977,731	7,395,417	2,718,450	10,790,384	1,482,235	14,426,805	15,909,040
H 5	25,002,317	6,284,373	2,283,403	14,021,631	1,143,349	10,460,801	11,604,150
H 6	24,063,348	5,409,513	2,279,212	13,859,213	996,717	7,425,772	8,422,489
H 7	23,946,565	5,630,260	2,474,856	13,394,152	2,369,693	9,008,961	11,378,654
H 8	25,772,412	5,567,213	2,852,354	15,454,202	1,338,461	8,332,466	9,670,927
H 9	25,604,884	6,257,528	2,601,323	14,597,102	2,357,154	9,677,140	12,034,294
H10	23,700,308	5,427,391	2,422,854	14,512,915	1,041,003	8,607,616	9,648,619
H11	24,364,996	5,349,867	2,374,245	15,232,069	2,362,353	8,687,363	11,049,716
H12	24,699,010	5,315,832	2,531,315	15,428,615	2,916,632	8,898,966	11,815,598
H13	25,345,787	5,217,932	2,901,523	15,897,318	3,234,105	10,969,144	14,203,249
H14	24,656,841	5,418,753	1,979,582	15,937,236	1,524,731	9,782,303	11,307,034
H15	24,554,617	5,064,226	2,239,081	15,740,544	1,341,512	9,631,429	10,972,941
H16	24,211,311	4,919,551	2,353,246	15,574,615	1,062,062	10,405,217	11,467,279
H17	29,612,710	5,752,190	5,464,742	16,867,734	2,480,615	10,970,454	13,451,069
H18	27,943,870	6,212,245	3,756,845	16,410,547	3,497,893	7,456,089	10,953,982
H19	29,297,169	7,539,929	3,707,403	16,487,915	3,579,291	6,792,172	10,371,463
H20	33,094,625	7,739,584	5,203,016	18,725,625	4,443,528	7,437,090	11,880,618
H21	29,904,453	7,810,866	2,115,358	18,608,575	7,123,482	6,767,459	13,890,941
H22	30,664,600	7,472,047	2,386,119	19,396,397	4,372,356	8,575,512	12,947,868
H23	30,756,876	7,135,952	2,670,279	19,356,512	7,613,493	7,191,378	14,804,871
H24	29,924,845	7,406,138	2,439,568	18,544,433	5,960,753	9,805,921	15,766,674
H25	30,962,312	7,492,073	3,079,579	18,722,677	3,825,552	8,788,753	12,614,305

普通会計決算状況（決算統計）

年度	市民一人当たり					人口千人当たり職員数	
	積立金 E/A (円)	地方債残高 F/A (円)	市税 I/A (円)	市税のうち 個人市民税 J/A (円)	普通建設事業 費 K/A (円)	合計 (人)	うち一般 職員 (人)
S44	1,308	12,478	8,802	2,595	13,810	9.0	7.6
S45	1,377	22,293	11,506	4,252	28,419	10.7	10.7
S46	1,423	33,810	15,286	5,337	42,651	12.1	12.1
S47	269	42,221	22,474	7,797	40,334	13.6	13.6
S48	268	44,677	35,018	10,887	30,643	14.0	13.9
S49	297	52,295	52,541	13,105	56,556	13.6	13.6
S50	328	52,905	52,445	10,123	31,982	13.5	13.4
S51	430	60,163	60,372	11,755	34,345	13.6	13.6
S52	1,863	93,921	68,425	12,777	126,939	13.6	13.6
S53	1,982	103,317	70,072	14,651	74,171	13.2	13.1
S54	13,326	118,406	94,198	21,320	74,431	13.0	12.9
S55	21,201	127,785	106,786	25,920	82,268	13.0	13.0
S56	23,353	137,016	116,608	28,982	94,801	12.6	12.5
S57	28,562	145,728	126,539	32,631	68,158	12.3	12.3
S58	41,510	179,422	139,845	37,072	118,108	12.2	12.2
S59	47,032	190,731	157,765	36,193	104,208	11.9	11.9
S60	56,827	200,018	172,133	40,898	97,924	11.6	11.6
S61	57,336	205,506	177,043	43,211	94,569	11.2	11.2
S62	58,865	223,559	200,216	47,303	133,928	11.0	11.0
S63	41,935	246,236	202,929	47,659	147,754	10.7	10.6
H 1	47,388	236,822	224,988	54,306	117,216	10.4	10.3
H 2	70,355	230,138	236,056	62,397	125,404	10.2	10.1
H 3	69,905	232,942	235,414	66,806	118,755	10.0	10.0
H 4	68,630	241,541	258,572	83,222	179,027	10.1	10.0
H 5	86,488	244,745	278,584	70,022	129,297	10.2	10.1
H 6	90,750	244,467	267,841	60,211	93,748	10.5	10.4
H 7	93,173	252,622	264,521	62,194	125,692	10.6	10.5
H 8	95,088	249,731	282,617	61,049	106,050	10.4	10.3
H 9	83,298	262,845	277,855	67,904	130,592	10.3	10.2
H10	57,103	261,966	255,422	58,492	103,985	10.1	10.0
H11	52,755	270,923	258,753	56,815	117,347	9.9	9.8
H12	48,460	283,611	259,959	55,950	124,360	9.7	9.6
H13	55,004	311,576	264,432	54,439	148,182	9.8	9.7
H14	75,051	324,243	254,045	55,831	116,499	9.6	9.5
H15	83,218	337,298	251,224	51,813	112,267	9.4	9.3
H16	75,519	344,612	245,282	49,839	116,174	9.2	9.1
H17	86,620	342,379	245,679	47,723	111,596	9.7	9.5
H18	88,118	337,968	228,615	50,824	89,617	9.4	9.2
H19	95,691	327,902	236,760	60,933	83,815	9.0	8.8
H20	113,769	318,578	263,854	61,705	94,721	8.9	8.7
H21	95,938	316,319	237,153	61,943	110,160	8.8	8.6
H22	85,367	321,217	242,917	59,192	102,570	8.8	8.6
H23	80,706	331,412	242,560	56,277	116,757	8.8	8.6
H24	65,697	335,575	229,364	56,765	120,846	8.6	8.4
H25	58,959	338,119	235,934	57,090	96,121	8.6	8.4



会計別決算状況

(単位:円)

	一般会計		国民健康保険(事業勘定)		国民健康保険(施設勘定)		下水道	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
S29	142,404,396	141,380,178	10,043,009	9,633,111				
S30	164,223,666	162,723,407	10,650,485	10,645,092				
S31	190,611,633	173,406,105	22,971,398	22,553,950				
S32	238,570,858	210,972,844	26,958,924	26,693,338				
S33	261,925,944	237,508,183	29,681,370	27,692,488				
S34	249,030,577	218,627,570	32,656,950	32,479,729				
S35	262,211,941	245,708,401	34,756,236	34,204,429				
S36	375,291,825	319,087,256	54,915,276	49,617,831				
S37	426,165,375	358,709,460	68,131,454	62,055,116				
S38	497,188,209	419,579,325	77,973,789	74,181,742				
S39	535,761,799	462,195,144	87,066,417	86,387,294				
S40	652,052,581	574,299,283	124,414,117	112,443,358				
S41	733,975,451	653,934,426	130,089,909	117,913,834				
S42	807,872,949	750,263,894	159,923,031	141,536,391				
S43	1,010,799,683	911,607,985	228,272,717	200,256,069				
S44	1,519,724,405	1,361,688,921	286,346,040	243,926,993				
S45	2,305,415,764	2,167,875,974	326,397,449	282,637,693				
S46	4,738,077,041	4,621,862,278	367,484,486	332,260,276				
S47	4,075,982,732	3,642,847,073	440,428,754	418,763,652			112,146,434	111,515,968
S48	4,596,971,394	4,067,855,970	476,957,711	444,378,506			788,874,749	787,954,193
S49	6,171,608,677	6,069,869,133	638,125,248	615,504,264			1,286,471,469	1,281,808,073
S50	5,440,072,366	5,397,134,952	778,660,582	719,207,249			790,557,881	787,799,300
S51	6,007,986,026	5,764,568,747	943,749,464	868,834,734			500,087,461	487,562,661
S52	12,448,931,364	11,955,770,726	1,095,465,421	999,337,926			632,687,210	627,173,195
S53	10,576,524,467	10,020,577,935	1,220,250,634	1,190,299,231			738,084,560	723,070,384
S54	13,105,362,814	12,263,581,426	1,366,290,513	1,343,924,092			954,957,300	937,384,401
S55	14,808,804,586	14,254,502,181	1,569,906,565	1,517,337,499			1,097,910,242	1,081,984,737
S56	17,218,326,156	16,753,852,996	1,765,789,452	1,692,456,484			1,250,343,787	1,235,483,893
S57	17,246,276,082	15,845,194,375	1,814,626,653	1,770,885,539			1,920,991,896	1,829,158,564
S58	21,737,440,812	20,652,575,239	1,775,534,878	1,711,803,321			1,362,208,880	1,327,969,404
S59	22,033,355,964	20,756,765,010	2,046,896,849	1,965,545,157			1,802,702,978	1,679,341,867
S60	22,187,707,687	20,751,130,874	2,254,298,866	2,117,094,254			1,949,254,759	1,801,843,312
S61	23,459,556,306	21,587,126,197	2,403,151,415	2,357,780,444			1,754,186,770	1,708,060,867
S62	25,767,160,559	24,539,860,145	2,413,582,516	2,346,254,222			2,615,549,351	2,487,028,939
S63	29,005,255,964	27,817,342,441	2,548,135,308	2,481,946,060			2,647,738,533	2,412,324,352
H 1	29,069,937,227	27,762,103,955	2,707,049,097	2,630,484,314			3,020,887,890	2,646,840,150
H 2	32,099,375,164	30,568,518,671	2,775,985,620	2,702,461,479			3,191,267,141	2,791,191,100
H 3	34,652,931,735	33,035,959,989	2,829,890,807	2,743,489,244			2,851,277,423	2,710,508,276
H 4	39,603,283,314	38,317,133,569	3,020,121,238	2,921,105,350			2,844,339,411	2,747,709,168
H 5	37,525,722,318	36,106,232,632	3,137,830,185	3,015,908,016			3,298,702,373	3,106,287,311
H 6	35,162,546,577	33,694,062,819	3,379,716,095	3,299,180,224			3,792,927,641	3,695,488,037
H 7	37,706,421,658	36,261,809,402	3,475,108,340	3,383,232,690			3,014,872,422	2,855,239,882
H 8	37,630,701,366	35,663,666,788	3,763,692,761	3,516,550,875			3,166,674,975	3,121,035,473
H 9	41,577,483,613	40,065,953,946	3,863,333,584	3,726,772,174			3,427,503,817	3,379,381,649
H 10	38,961,623,403	37,587,586,763	4,326,569,272	4,145,782,610			3,797,829,112	3,717,689,436
H 11	42,211,340,958	40,683,959,595	4,797,111,247	4,546,203,540			3,464,174,763	3,383,539,350
H 12	42,019,815,039	40,081,606,715	5,212,326,606	4,877,691,407			3,630,647,688	3,534,306,341
H 13	45,340,629,318	43,084,373,508	5,438,599,253	5,178,781,200			3,162,598,146	3,086,487,393
H 14	44,509,898,719	42,261,487,400	5,523,470,096	5,214,947,198			2,561,589,329	2,509,552,779
H 15	43,611,946,488	41,634,295,263	5,922,777,664	5,853,841,592			2,631,940,501	2,575,216,702
H 16	43,989,636,311	42,514,804,966	6,299,380,589	6,197,740,416			2,469,664,283	2,412,950,362
H 17	48,226,113,868	45,765,031,526	7,228,425,504	6,697,110,947	18,458,666	7,610,502	2,338,007,144	2,272,095,277
H 18	53,226,764,098	50,488,411,929	9,327,115,484	9,057,306,632	142,522,631	126,417,910	2,357,935,725	2,189,475,537
H 19	52,762,183,430	50,546,106,533	10,235,471,320	10,072,210,808	153,749,350	136,087,767	2,252,774,517	2,156,960,838
H 20	57,919,971,132	53,354,990,384	10,502,589,612	10,258,280,185	172,922,358	154,675,789	2,117,684,312	2,054,023,742
H 21	59,596,822,575	56,950,789,731	11,092,158,947	10,552,413,577	172,174,627	150,902,072	2,177,753,110	2,118,921,589
H 22	58,358,308,051	54,819,898,267	11,474,235,667	11,060,474,762	182,124,684	169,446,011	2,005,985,048	1,904,950,379
H 23	64,794,163,812	60,937,412,222	12,297,464,206	11,822,487,376	180,586,697	166,868,841	2,140,534,352	2,078,831,283
H 24	64,573,072,153	60,123,108,669	12,993,053,633	12,392,537,240	175,436,396	163,632,312	1,965,315,760	1,894,251,909
H 25	63,354,596,616	58,077,110,884	13,265,289,692	12,761,756,510	200,479,811	190,967,889	2,551,399,477	2,421,307,548

会計別決算状況

(単位:円)

	公設地方卸売市場		老人保健		介護保険		農業集落排水	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
S29								
S30								
S31								
S32								
S33								
S34								
S35								
S36								
S37								
S38								
S39								
S40								
S41								
S42								
S43								
S44								
S45								
S46								
S47								
S48								
S49	82,856,898	75,096,059						
S50	126,360,894	124,684,162						
S51	152,969,279	151,271,914						
S52	156,894,708	154,986,086						
S53	242,934,838	241,925,835						
S54	305,463,277	303,492,157						
S55	266,256,653	263,824,131						
S56	255,945,967	255,150,420						
S57	254,979,460	252,262,579	84,455,100	80,391,968				
S58	255,947,225	246,995,948	1,205,921,132	1,135,162,675				
S59	1,967,238,839	1,961,309,437	1,326,900,777	1,270,488,263				
S60	352,393,561	346,008,803	1,387,033,041	1,351,727,948				
S61	324,073,251	319,423,500	1,508,190,138	1,483,934,844				
S62	379,352,175	364,208,890	1,653,199,683	1,621,191,668				
S63	687,402,483	679,422,567	1,855,385,255	1,803,849,230				
H 1	462,875,732	456,373,396	2,057,138,690	2,048,621,012				
H 2	493,768,613	480,336,454	2,137,536,512	2,092,201,887				
H 3	502,003,920	486,868,749	2,397,473,325	2,385,091,446				
H 4	567,250,493	559,896,911	2,571,368,647	2,570,949,220				
H 5	492,439,543	484,313,040	2,680,374,348	2,665,812,766				
H 6	442,769,408	430,604,950	2,915,064,391	2,903,843,302				
H 7	449,474,001	444,365,422	3,388,939,319	3,238,882,218				
H 8	468,714,336	464,524,581	3,905,234,565	3,745,543,558				
H 9	491,462,403	468,764,339	4,194,840,313	4,001,684,238				
H 10	424,101,431	419,871,647	4,359,139,413	4,239,310,349				
H 11	421,065,703	406,842,628	4,599,226,888	4,488,491,650				
H 12	411,258,106	395,484,222	4,657,742,046	4,400,403,698	1,842,113,821	1,524,860,072		
H 13	399,058,373	392,907,628	4,816,411,195	4,609,560,695	2,312,500,641	2,077,087,824		
H 14	387,740,680	376,648,082	4,901,149,543	4,785,029,955	2,350,080,846	2,233,557,215		
H 15	373,679,452	364,383,353	4,717,960,066	4,685,432,672	2,476,886,582	2,402,227,992		
H 16	420,166,378	402,718,812	4,772,210,064	4,693,343,400	2,651,320,293	2,565,516,737		
H 17	249,768,990	238,207,568	5,124,101,940	4,841,604,391	2,826,911,700	2,683,177,614	8,778,137	4,366,850
H 18	244,117,954	240,518,463	6,629,016,959	6,423,053,391	3,658,393,263	3,361,398,078	615,072,839	607,945,114
H 19	247,697,815	238,902,737	6,596,631,471	6,528,964,333	3,954,293,039	3,689,359,349	407,444,496	396,026,055
H 20	277,574,703	266,208,952	685,687,762	684,012,385	4,080,045,514	3,894,106,277	325,375,457	320,094,713
H 21	242,819,136	221,986,927	28,457,022	24,196,620	4,210,017,788	4,051,737,911	169,342,641	161,241,473
H 22	213,123,170	203,423,295	5,039,630	5,039,630	4,455,928,031	4,311,857,963	163,736,616	152,610,456
H 23	216,684,454	213,639,484			4,888,473,599	4,686,790,925	167,335,247	162,198,377
H 24	217,158,969	200,243,086			5,279,030,849	5,158,187,363	162,361,975	156,697,569
H 25	215,830,008	211,172,743			5,511,988,178	5,366,803,295	165,804,581	159,194,393

会計別決算状況

(単位:円)

	後期高齢者医療		学校給食センター		交通災害共済		と畜場	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
S29								
S30								
S31								
S32								
S33							998,825	979,252
S34							1,304,483	1,257,133
S35							1,166,900	1,120,713
S36							1,219,942	1,149,116
S37							1,456,839	1,360,857
S38							1,350,702	1,324,204
S39							1,603,188	1,499,088
S40							2,062,910	1,719,314
S41			27,321,457	27,313,245			4,175,266	2,405,494
S42			26,147,132	25,947,905	3,301,048	1,206,198	5,428,452	2,136,678
S43			82,085,548	81,750,121	6,018,004	3,265,526	6,586,594	4,812,502
S44			69,990,298	69,518,590	8,647,073	6,346,227	5,110,222	2,899,501
S45			91,299,695	90,417,743	8,887,042	4,437,421	6,287,831	3,257,428
S46			100,990,302	99,666,251	12,316,257	10,423,379	9,269,001	3,095,189
S47			146,592,143	145,461,604	9,098,689	6,651,182	23,298,024	22,478,616
S48			305,930,339	264,908,158	10,765,461	8,579,385	20,390,168	16,774,382
S49			400,811,353	398,112,169	12,431,013	10,983,163	21,403,076	16,448,667
S50			297,073,588	296,375,915	11,613,453	11,335,836	17,122,472	12,809,051
S51			334,093,084	333,594,159	11,056,220	7,688,853		
S52			397,658,009	395,483,874	14,541,771	10,658,670		
S53			713,784,741	712,494,522	16,175,291	14,510,794		
S54			654,813,719	654,041,168	15,253,537	11,001,251		
S55			586,327,941	583,872,284	16,172,658	14,301,197		
S56			649,179,117	648,305,858	18,449,062	15,606,029		
S57			700,197,778	691,862,995	20,026,057	19,938,405		
S58			743,835,538	720,515,555	18,091,070	17,266,171		
S59			719,346,788	710,815,063	19,634,283	19,475,427		
S60			736,380,765	734,940,785	19,666,777	17,925,948		
S61			748,976,205	743,105,403	19,409,356	17,880,030		
S62			747,999,464	745,837,328	19,908,432	17,563,318		
S63			814,627,929	810,057,048	20,623,493	20,296,803		
H 1					21,498,035	21,156,367		
H 2					24,834,947	24,682,036		
H 3					27,892,446	27,681,147		
H 4					31,228,873	30,235,899		
H 5					34,678,580	33,752,419		
H 6					33,229,612	30,509,918		
H 7					32,414,141	29,018,342		
H 8					32,127,241	27,309,272		
H 9					29,348,834	24,623,872		
H 10					29,704,454	27,754,252		
H 11								
H 12								
H 13								
H 14								
H 15								
H 16								
H 17								
H 18								
H 19								
H 20	653,577,524	645,338,118						
H 21	687,094,919	682,388,280						
H 22	727,460,764	708,552,719						
H 23	761,561,301	743,568,373						
H 24	767,671,188	762,913,071						
H 25	803,159,130	791,111,103						

会計別決算状況

(単位:円)

	国保(施設)		証紙		農業構造改善		上水道	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
S29	1,289,339	1,183,366					6,002,793	5,137,204
S30	1,366,734	1,363,332					7,611,647	6,415,342
S31	1,476,895	1,473,239					11,277,847	9,335,174
S32	1,431,143	1,423,328					12,939,116	9,462,805
S33	1,609,451	1,474,281					33,371,362	32,707,458
S34	1,939,899	1,789,306					11,824,088	9,977,531
S35	1,825,665	1,589,543					14,613,120	12,792,193
S36	292,749	290,369					22,413,686	20,105,039
S37	478,345	477,723			8,691,293	8,691,293	17,860,318	14,814,440
S38	332,204	327,810			40,683,213	40,244,673	19,760,544	17,181,677
S39	414,686	400,677	2,078,310	2,046,470			21,140,700	19,078,234
S40	14,009	14,009	2,236,780	2,236,780			21,813,861	19,200,235
S41							26,111,444	22,297,421
S42								
S43								
S44								
S45								
S46								
S47								
S48								
S49								
S50								
S51								
S52								
S53								
S54								
S55								
S56								
S57								
S58								
S59								
S60								
S61								
S62								
S63								
H 1								
H 2								
H 3								
H 4								
H 5								
H 6								
H 7								
H 8								
H 9								
H 10								
H 11								
H 12								
H 13								
H 14								
H 15								
H 16								
H 17								
H 18								
H 19								
H 20								
H 21								
H 22								
H 23								
H 24								
H 25								

会計別決算状況

(単位:円)

	簡易水道(三里塚)		簡易水道(宗吾)	
	歳入	歳出	歳入	歳出
S29				
S30				
S31				
S32	5,550,674	5,395,294		
S33	1,085,558	737,057		
S34	1,214,786	914,090		
S35	1,357,236	844,865		
S36	1,658,556	1,139,734		
S37	1,951,709	1,295,256		
S38	2,106,218	1,823,668	9,819,365	9,640,075
S39	1,861,784	1,557,682	2,028,510	1,729,325
S40	1,897,867	1,531,086	2,182,983	1,399,031
S41	1,986,481	1,421,491	2,909,057	1,537,064
S42				
S43				
S44				
S45				
S46				
S47				
S48				
S49				
S50				
S51				
S52				
S53				
S54				
S55				
S56				
S57				
S58				
S59				
S60				
S61				
S62				
S63				
H 1				
H 2				
H 3				
H 4				
H 5				
H 6				
H 7				
H 8				
H 9				
H 10				
H 11				
H 12				
H 13				
H 14				
H 15				
H 16				
H 17				
H 18				
H 19				
H 20				
H 21				
H 22				
H 23				
H 24				
H 25				

会計別決算状況

(単位:円)

	水道				簡易水道(成田市)			
	収益の収入	収益の支出	資本の収入	資本の支出	収益の収入	収益の支出	資本の収入	資本の支出
S29								
S30								
S31								
S32								
S33								
S34								
S35								
S36								
S37								
S38								
S39								
S40								
S41								
S42	36,281,071	25,488,832	36,000,000	44,382,690				
S43	40,294,519	30,053,506	0	9,610,597				
S44	43,481,509	34,105,439	19,899,000	28,969,349				
S45	52,658,708	44,988,598	20,418,325	29,974,175				
S46	76,871,913	48,857,573	2,330,000	17,733,421				
S47	96,707,417	51,731,406	263,715,000	311,708,877				
S48	104,133,682	95,385,905	332,091,000	317,275,914				
S49	149,355,470	139,397,735	332,540,690	419,098,299				
S50	175,657,489	178,140,692	33,016,000	31,477,317				
S51	164,352,186	193,117,989	2,401,000	39,441,778				
S52	219,759,660	202,568,954	34,244,574	39,625,549				
S53	281,445,105	216,489,194	12,135,000	64,463,743				
S54	274,790,493	232,670,989	103,440,345	138,395,890				
S55	278,188,942	279,922,850	95,048,000	257,017,950				
S56	323,798,443	285,471,055	79,806,860	136,217,151				
S57	407,159,459	301,825,886	228,523,000	257,062,836				
S58	426,608,977	326,641,186	186,168,000	267,850,636				
S59	449,615,187	356,675,626	96,936,000	145,963,852				
S60	469,131,733	372,490,570	47,226,000	190,180,935				
S61	497,443,776	428,942,977	39,490,000	131,133,056				
S62	469,026,565	436,601,155	87,184,000	167,907,870				
S63	508,506,802	464,797,808	159,417,000	240,349,063				
H 1	573,226,641	499,275,138	435,736,140	415,487,564				
H 2	657,177,121	555,030,980	327,087,540	344,450,885				
H 3	688,826,420	567,684,395	596,707,930	638,222,294				
H 4	986,881,910	688,048,803	1,488,751,910	1,708,007,064				
H 5	979,770,461	941,455,783	995,905,103	1,174,502,472				
H 6	1,141,869,328	1,016,673,174	332,838,269	516,321,760				
H 7	1,327,157,162	1,040,721,352	650,998,725	851,342,588				
H 8	1,347,548,046	1,054,299,461	910,663,578	1,089,831,023				
H 9	1,464,647,996	1,228,680,584	2,549,327,463	3,088,144,363				
H 10	1,431,561,777	1,334,035,412	1,214,852,589	2,055,518,559				
H 11	1,467,993,515	1,545,305,352	1,448,897,807	1,851,029,956				
H 12	1,895,475,883	1,637,277,374	1,572,471,325	1,927,354,739				
H 13	1,872,847,304	1,721,613,307	96,036,990	530,999,525				
H 14	1,800,403,192	1,633,993,017	119,469,513	559,779,388				
H 15	1,892,149,811	1,622,556,775	399,315,802	932,163,102				
H 16	1,881,128,972	1,600,352,057	114,245,875	644,146,001				
H 17	1,895,479,733	1,616,207,284	166,811,250	852,680,407	350,094	350,094	210,017	210,017
H 18	1,983,840,887	1,639,660,573	313,318,800	1,612,431,447	236,057,469	211,577,145	1,006,481,053	1,012,451,983
H 19	1,880,900,952	1,679,020,011	290,229,195	1,511,251,956	268,219,660	263,441,091	377,013,871	399,444,412
H 20	1,918,750,924	1,725,628,738	1,000,798,056	1,798,879,894	259,434,600	256,295,645	221,903,555	278,613,004
H 21	1,814,254,131	1,717,476,063	1,204,042,978	1,424,736,701	242,397,367	242,394,648		51,281,706
H 22	1,831,796,742	1,749,659,688	1,488,031,018	1,779,289,669	279,748,008	279,743,689		54,540,674
H 23	1,798,231,056	1,748,765,627	1,234,909,367	1,967,095,391	267,681,524	267,403,745		71,991,292
H 24	2,392,619,564	1,849,453,379	398,341,680	1,206,778,974	254,353,935	254,174,117		90,543,213
H 25	2,002,067,604	1,815,367,841	595,465,477	1,155,200,320	284,364,870	284,217,265		97,205,260

主なできごと

年度	主 な で き ご と
S29	7カ町村が合併して「成田市」誕生、市制祝賀式典挙行、「成田市政だより」創刊、第1回市議会議員選挙
S30	第1回全国花火コンクール大会開催、自動点滅式ネオンアーチ(市内第1号)完成、宗吾駐車場完成
S31	国民健康保険制度全市に施行、成田市都市計画税条例制定、市営と畜場完成
S32	農業委員会一本化され成田市農業委員会発足、三里塚簡易水道給水開始
S33	成田中屋内運動場完成、市庁舎落成並びに市制施行5周年記念式典挙行、高架配水塔(東町)完成
S34	市営火葬場完成、根木名川改修工事着工
S35	初のヘリコプターによるマツクイムシ防除実施、水道料金メーター制導入、第1回灯ろう流し実施
S36	塵芥焼却場完成
S37	成田小第1棟校舎完成(市内初の鉄筋校舎)、成田市農業近代化資金利子補給制度発足、体育指導員制度発足
S38	宗吾地区簡易水道給水開始、し尿処理場完成、不動橋完成、ヘリによる初の水稻病害防除実施
S39	公津公民館オープン、市制施行10周年記念式典挙行、中小企業資金融資制度発足
S40	成田市消防本部及び消防署設置、消防庁舎完成、西中校舎完成、学校給食センター(寺台)完成
S41	(財)成田市開発協会設立、閣議で新東京国際空港が三里塚に決定、成田市心身障害児福祉手当支給制度発足
S42	水道事業が企業会計へ移行、甚兵衛大橋、長豊橋開通、市営東和田駐車場完成、西中屋内運動場完成
S43	東町水道管理所完成、豊住小・三里塚小プール完成、県営印旛沼開発事業完工
S44	下総御料牧場閉場、成田ニュータウン造成事業開始、成田空港事業認定告示、財特法公布
S45	土屋資材置き場に一番列車、市街化区域及び市街化調整区域決定、し尿処理場増設
S46	三里塚消防署開設、大谷津野球場完成、三里塚小・遠山中防音校舎完成、桜川市営住宅完成、宗吾地区簡易水道を統合
S47	成田ニュータウン入居開始、向台小開校、加良部保育所(市内第1号)開設、第1回市民運動会開催
S48	加良部小・中台中開校、松崎保育所・中台野球場テニスコート・老人福祉センター・赤坂消防署・赤荻・西和泉・荒海共同利用施設完成
S49	公設地方卸売市場開設、赤坂公民館オープン、西口区画整理事業認可、国際文化会館完成
S50	橋賀台小学校開校、橋賀台保育所・印旛食肉センター開設、騒音区域を指定告示
S51	房総風土記の丘オープン、いずみ聖地公園第1期工事完成
S52	新山小開校、赤荻保育所開設、成田警察署新庁舎完成、いずみ清掃工場完成
S53	吾妻小・吾妻中開校、中台保育所開設、成田空港開港、消防本部庁舎完成、郷部大橋開通
S54	吾妻保育所開設、中央公民館・保健センターオープン、粗大ごみ処理施設完成
S55	愛光園開設、京成成田駅東口及び成田第一区画整理事業認可、51号成田橋完成
S56	玉造小開校、新山保育所開設、成田郵便局新庁舎完成、成田ニュータウン中央線完成
S57	中台小開校、「コミュニテイ成田」創刊、第1回「ミスエアポート&成田」コンテスト開催
S58	久住・橋賀台公民館オープン、飯岡分遣所・中台陸上競技場・中囿護台市営住宅・花崎町駐輪場完成

主なできごと

年度	主 な で き ご と
S59	玉造・豊住公民館オープン、休日夜間診療所開設、中台体育館・図書館完成、ホープ計画策定
S60	神宮寺小・玉造中開校、福祉作業所・成田公民館オープン、国際観光モデル地区の指定
S61	西口広場及び駐輪場オープン、商工会館完成、公津東区画整理事業認可、市役所新庁舎建設着工
S62	在宅老人デイ・サービス事業開始、成田クリーンヒル完成
S63	八生公民館・成田観光館オープン、新庁舎(第1期分)・成田クリーンパーク・印東体育館完成
H 1	新公津・中郷公民館オープン、新庁舎竣工記念式典、市制35周年日の丸セット配布
H 2	平成小開校、勤労会館オープン、西口区画整理事業終了、NCTV開局
H 3	加良部公民館オープン、成田商工会議所発足、成田第1区画整理事業終了
H 4	京成東口地下自由通路・栗山駐輪場・八富成田斎場完成、土屋区画整理事業認可、空港第2ターミナル完成
H 5	本城小開校、久住駅前区画整理事業認可、三里塚消防署空港分署完成、東和田・寺台土地区画整理事業認可
H 6	市制施行40周年記念各種行事開催、成田市土地開発公社設立、中台線完成、東口区画整理事業終了
H 7	新市長に小川国彦氏当選、玉造保育所オープン、市営住宅北囲護台団地完成、遠山公民館完成
H 8	都市計画税・国保税減税、中台多目的球技場完成、成田市HPを開設、戸籍事務コンピュータ化
H 9	成田空港周辺地域共生財団設立、リサイクルプラザ完成、知的障害者通所授産施設完成
H10	(財)成田市農業センター設立、地域振興券交付事業実施、全国門前町サミット・二宮尊徳サミット開催
H11	土屋区画整理事業供用開始、平成児童ホームオープン、坂田ヶ池総合公園一部供用開始
H12	介護保険制度開始、西中学校新校舎完成、土屋房谷津区画整理事業認可
H13	仲町地区架空線地中化事業完成、ワールドカップサッカーキャンプ地誘致(ナイター照明、芝生整備)完成、公津西区画整理事業認可
H14	暫定平行滑走路供用開始、成田新高速鉄道建設主体設立、保健福祉館本館オープン、いずみ清掃工場改修工完了
H15	新市長に小林攻氏当選、成田市・下総町・大栄町合併協議会設置、囲護台踏切立体交差化完了(なかよしトンネル)、保健福祉館完成
H16	市制施行50周年記念各種行事開催、北羽鳥多目的広場オープン、坂田ヶ池総合公園完成、市民と行政の協働による防犯巡回パトロール開始
H17	成田市・下総町・大栄町の合併により新成田市が誕生、コミュニティバスの運行開始、三里塚コミュニティセンターオープン、公津西区画整理事業供用開始
H18	新市長に小泉一成氏当選、都市計画道路郷部線開通、公津の杜小学校開校、「成田」ナンバースタート
H19	美郷台小学校開校、コミュニティバス北須賀ルートの運行開始、生涯大学校の新校舎が囲護台に開校、滑川・高岡地区簡易水道通水開始
H20	駅前番所(えきばん)業務開始、市役所「休日窓口サービス」スタート、十余三パークゴルフ場オープン、八都県市合同防災訓練実施、表参道入口モニュメント設置
H21	豊住中学校閉校、赤坂消防署公津分署完成、中台運動公園施設命名権導入、財政部・健康こども部新設、中台第二保育園完成、移動駅前番所業務開始、成田市観光キャラクター「うなりくん」決定
H22	成田スカイアクセス開業、「成田空援隊」活動開始、ゆめ半島千葉国体開催、成田空港年間発着枠30万回合意、中郷小学校閉校、久住第一小学校閉校、久住第二小学校閉校
H23	市役所総合窓口オープン、「成田ブランド推進プロジェクトチーム」結成、オンデマンド交通実験運行開始、下総利根宝船公園オープン、休日窓口サービスを毎週日曜日に拡充
H24	公津の杜小学校新校舎使用開始、成田富里いずみ清掃工場稼働、第1回エアポートツーデーマーチ開催、第1回成田スポーツフェスティバル開催
H25	成田空港の年間発着回数が初めて20万回超え過去最高、公津の杜複合施設「もりんぴあこうづ」がオープン、公津の杜中学校開校、コンビニエンスストアでの証明書自動交付サービスが開始



## 索引

### あ

安全比率	96
依存財源	21
一般会計	18
一般財源	71
衛生費	29

### か

介護保険特別会計	18
株式等譲渡所得割交付金	26
簡易水道事業特別会計	18
基金	76
基準財政収入額	69
基準財政需要額	69
義務的経費	32
教育費	29
行政コスト計算書	89
繰越すべき財源	42
繰出金	33
形式収支	42
経常収支比率	70
経常的経費	64
下水道事業特別会計	18
決算統計	43
県税からの交付金	25
減税補てん債	51
企業会計	42
後期高齢者医療特別会計	18
航空機燃料譲与税	25
公債費	29
公債費負担比率	72
公設地方卸売市場特別会計	18
交通安全対策特別交付金	26
国民健康保険特別会計	18
国庫（県）支出金	24
固定資産税の評価替え	49
ゴルフ場利用税交付金	25

### さ

財政力指数	69
債務負担行為	72
資金収支計算書	90
市債	24
資産老朽化比率	97
自主財源	21
実質赤字比率	86
実質公債費比率	72
実質収支	42
実質収支比率	75
自動車取得税交付金	25
社会資本形成の世代間比率	96
純資産比率	96
純資産変動計算書	89
大規模償却資産に対する県課税	49
消防費	29
将来負担比率	75
人件費	33
水道事業会計	18
性質別経費	31
税源移譲	50
総務費	29
その他の経費	29

### た

貸借対照表	89
地方揮発油譲与税	25
地方交付税	26
地方消費税交付金	25
地方譲与税	25
地方特例交付金	26
投資的経費	32
特別会計	18
土木費	29

## な

農業集落排水事業特別会計..... 18

## は

配当割交付金..... 26

バランスシート..... 91

標準財政規模..... 73

扶助費..... 33

普通会計..... 44

普通建設事業費..... 33

物件費..... 33

補助費等..... 33

## ま

民生費..... 29

目的別経費..... 29

## ら

利子割交付金..... 26

連結実質赤字比率..... 86

